

第11回

重症心身障害理学療法研究会セミナー

報告書



2023.12.2 Sat - 3 Sun

国立オリンピック記念青少年総合センター

第 11 回セミナーを終えて

研究会代表 高塩純一



コロナ禍で開催できなかった全国セミナーを無事に開催できたことは、本当に嬉しく思います。今回の全国セミナー開催には実行委員長の黒川洋明さんと長谷川大和さんの多大な尽力があったことは、言うまでもありません。加えて、運営委員の皆様による 2 日目のグループワークも盛況のうちに終わり、本来の目的であるつながりを作るという目的は果たせたと思います。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

以前、広島大学大学院の船橋篤彦先生から、哲学者森信三先生の言葉を教わりました。「人間は一生のうち逢うべき人に必ず会える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎないときに。しかし、うちに求める心なくば、眼前にその人ありといえども、縁は生じず」でした。

第 11 回全国セミナーを開催するにあたり、重い障害のあるこども(人)たちに関わる時、私自身が最も大切にしている話ができる副島賢和先生と田中総一郎先生を紹介できたことは、皆様にとって逢いべき人に出会った 2 日間であったと思います。

理学療法士はややもするとエビデンスに基づく医療モデルの地平からこどもたちを見がちであります。しかし、障がいがあってもこどもは、こどもであります。重い障がいのあるこどもたちをどのようにこどもに戻すのか。私たちの心の持ちようでその景色は変わると確信しております。重い障がいのあるこどもたちに関わる際、技術の前に必要な思想や哲学が大切であり、それを抜きにして技術を学んだとしても決して役立つものではありません。これは科学的ではなく情緒的だと考える人達も少なくないことも理解していますが、65 歳を過ぎ皆様に伝えなければいけないと考えるようになった次第です。

加えて懇親会で、より繋がりたい人たちとの繋がりが深まり、一人で悩んでいた人たちも「ひとりじゃない」と思えたのではないのでしょうか。2 日目のグループワークは、前日の感動を持ったまま行うことができたと思い、同じような経験年数の人達が集まって、自分の悩みや困りごとを話す中で、その後に同窓会を開催したグループがあったことも本セミナーを開催した成果であると思います。

終了後に行った運営委員会で、次回はハンズオンセミナーもプログラムに入れて開催する予定です。次回も皆様の参加を三役、運営委員一同心よりお待ちしております。

2024年1月吉日

** 開催プログラム

2023年12月2日(土)、3日(日)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 1F・5F

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 (小田急線 参宮橋駅下車 徒歩7分)

* | 目 目

13:00～ 開会の挨拶

第11回重症心身障害理学療法研究会セミナー 大会長

高塩 純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)

13:10～ 基調講演「重症心身障害理学療法の原点」

重症心身障害理学療法研究会 代表

びわこ学園医療福祉センター草津

高塩 純一 氏

13:55～ 特別講演「子どもたちへの関わりの原点」

昭和大学大学院 保険医療学研究科 准教授

副島 賢和 氏

14:40～ 特別講演 (Zoom) 「重症心身障害療育の原点」

医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所ほっこり仙台

田中 総一郎 氏

司会：花井 丈夫 氏 (能見台こどもクリニック)

15:35～17:20 パネルディスカッション「原点から未来へ」

高塩 純一 氏・副島 賢和 氏・田中 総一郎 氏

*黒川 洋明(島田療育センターはちおうじ)・*長谷川 大和(リハテラー横浜)

[*本研究会運営委員・セミナー企画者]

司会：花井 丈夫 氏

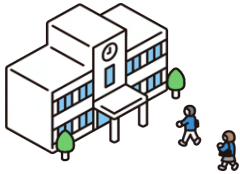
19:00～21:30 懇親会

*会場：ERSA 新宿パークタワー店

(東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワーB1)

*2日目

9:30~12:00 グループワーク ~ 未来へ ~



重身経験年数毎にクラス編成した
「しゃべくり学校」を開校

校長:辻 清張 氏 (福井県総合福祉相談所)
副校長:花井 丈夫 氏 (能見台こどもクリニック)

各学年の担任

1年生(重身経験:0~3年)

- ・齋藤 大地 氏 (株式会社はこぶね)
- ・五十嵐 大貴 氏 (株式会社はこぶね)

2年生(重身経験:4~9年)

- ・黒川 洋明 氏 (島田療育センターはちおうじ)
- ・繁田 圭一 氏 (伊豆医療福祉センター)

3年生(重身経験:10~14年)

- ・上原 隆浩 氏 (枚方総合発達医療センター)
- ・長谷川 大和 氏 (リハテラー横浜)

4年生(重身経験:15~20年)

- ・要 武志 氏 (株式会社リ・ハピネス すりーぴーす)
- ・岡田 雄一 氏 (四天王寺和らぎ苑)

5年生(重身経験:21年~)

- ・高塩 純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)
- ・榎勢 道彦 氏 (四天王寺和らぎ苑)

12:20~13:30 全体討論

司会:辻 清張 氏

* | 日 目 報 告

基調講演 報告

高塩純一 氏 (びわこ学園医療福祉センター草津)

担当: 運営委員 上原隆浩

私の重症心身障害理学療法の原点 センス/ミーニングからコンセンサスへ

「ねえ、わたしあと半年のいのちなのになにをやるの?」との言葉から話しが始まりました。この言葉は高塩氏が学生の頃、中学 3 年生の女の子から言われた言葉で、その問いに対し本人が納得できるような言葉掛けができず、本人の立場に立った支援について考えさせられた最初のエピソードとして話されました。そして大切なこととして「私たちが他人の状況を理解できるとすればそれはその人たちの心を深く調べることができるからではなく、その人たちの生活世界を想像できるから」と Patricia Benner の言葉を用いて説明されました。

重症心身障害児・者の歴史的な背景から話は進み、その中で糸賀一雄氏の思想である『発達保障』について説明がありました。発達保障には縦軸の発達 (年齢に応じて能力がレベルアップしていく発達) と横軸の発達 (今ある能力のままできることを増やしていく発達) があり『横軸の発達』に注目することが大切で、横の広がりとは「かけがえのないその人の個性」であり個性を伸ばすことが豊かさに繋がる。同じような歌を歌っていたり、同じような絵を描いていたとしても、その子にとっては同じことの繰り返しではないが私たちは勝手に同じことの繰り返しだと思い込んでいるかもしれない。また近年、成果・効率に重点が置かれていることや科学性を求めることが多くあるが、本人の思い、ペースに合わすことや障害のある子供達と共に生きる『ミッドレーベン』という糸賀氏の言葉を踏まえて重度の障がいのある方との時間、空間、関係性に注意をしていくことも大切で、また関わりを通し「体を揺さぶり、心を揺さぶる」ことができると説明がありました。

では重い障害のある子供たちに私達は何が出来るのかということについてセラピー場面での視点として『出来事が生み出されること』について説明がありました。出来事が生み出される時、まず『起こしたいこと』があり、次にそれを『起こしたこと』が生じ、さらに出来事が起きる『起きたこと』が生じ、新たに『起こしたいこと』と螺旋状に繋がる。セラピーの中ではこちらから何かを誘導、促しをするのではなく、出来事が生み出される『起こしたいこと』に注目、支援し、経験を導く役割があり、また『起こりそうなこと』『起きたこと』から『起こりそうなこと』を見通せるようになるということを実際のリハビリ場面の動画を用いて説明がありました。

もう一つ、重い障害のある子供たちに私達は何が出来るのかということについて『センス』と『ミーニング』について説明がありました。『センス』とは「その人なりの意味」で『ミーニング』とは「誰によっても承認される意味」であり、現在のセラピーは「誰かどこかで確定されたミーニングを子どもに内面化させる営み」が主流になっているのではないかと、「センスに重きを置いたセラピー」も大切であり、それは日常の生活の中、同じ時間、空間を共有する中で行うこともお話がありました。

高塩氏自身の経験、重症心身障害児・者の歴史から時代が変わっても不変で大切にしなければならない考えをお話し頂き、まさに本セミナーのテーマ「原点から未来」を伝えて頂いたと思います。この講義で教えて頂いたことを踏まえてみなさんと未来を語り、作っていきたいと思いました。

「子どもたちへの関わりの原点」～学ぶことは生きること～

その先生はスーツ、カラフルなベスト、シャツを身にまとい登場しました。おもむろにポケットから出した赤鼻をつけての挨拶。笛での「幸せなら手をたたこう」の演奏と受講生のハンドクラップで会場が楽しい雰囲気为一体となり、ホスピタル・クラウンのあかはなそえじ先生の講演がスタートしました。赤鼻を取った後にすぐ、落ち着いたと言っていた先生の人柄に惹きこまれていきました。

副島先生の原点は「病気を持った人に対する教育が必要?」と言われた事で、会場に向けて何て答えますか?との問いから始まりました。教育の世界でマイクロアグレッション（無意識の差別偏見）という言葉があり、話を聞いた時に自分達の文化に翻訳して聞いて欲しいとの言葉が印象的でした。医療や福祉、教育など様々な背景を持っている人を見ている自分達の中でこの姿勢はとても重要であると感じました。

副島先生が教育は必要と言える理由には、学びや遊びには発達保障、主体性の回復、自尊心の向上が出来る為との事でした。自己選択、自己決定をするには自尊感情には4つのパターン（近藤択2013）があるといことを知り、自尊感情のベースは今の自分であり、今を大切にすることで、エネルギー（勇気）を溜めているという事を理解しなければいけない、その自尊心を回復していく関わりのベースはS (afety) C (allenge) H (ope) ool であるとの事でした。実際に副島先生が関わった子どもとその教育の話をつなぎ交ぜた説明は、音声、熱量、場の雰囲気が相まって文字での情報以上に訴えかけていくものが多かった為、実際に副島先生の講演などに出向いて聞く事をおすすめします。

「Safety」は自尊感情を育む為に今を大切に。子供の行動、見えているものは表現であり、自分達は言葉にならないもの聞く、すなわち言葉を代弁する事が必要である。これは家族では難しく、専門家が担うものだと話されていました。

「Challenge」は自尊感情をふくらます。怒り、悲しみなど感情の裏にある願いを知る事が大事であり、受容するが許容しない事と話されていました。

「Hope」は自尊感情を高める事、『助けて、手伝って』は子供の最終手段であり、そうしてもらえぬ関係を築いていく事が大事である。築いていく上で失敗してもいい、助けてと言ってもいい、今日という日はだれにとってもはじめての日なのだからという言葉には、こどもだけでなく自分達へのメッセージにも感じ取れ印象的でした。

副島先生の言葉はとてもシンプルで、病気や障害で傷ついていった子供達の今を見つめて、向き合ってきたからこそ生まれてくる言葉であると感じると同時に、学ぶという事を保障していく事の重要性を深く感じました。初めて副島先生の講演を聞いた自分にもそれは伝わり、最後に出されたスライドのチームモデルにとても深く感銘を受けました。子供や家族が円の中心ではなく「困難」、「課題」が中心となり子供、家族も支援者、専門家と同じ位置にいる。これが副島先生の作ってきた支援の輪となっている事がすべて物語っていると感じた時間でした。

田中総一郎 先生

医療法人はるたか会あおぞら診療所ほっこり仙台

担当:運営委員 要武志

重症心身障害療育の原点

宮城県仙台市で医療法人はるたか会あおぞら診療所ほっこり仙台で児小児の在宅診療を提供している田中総一郎先生の講演。

冒頭で先生はセラピストが羨ましかった。セラピストは保護者と並んで同じ方向で子供を見る。医者は子ども・保護者と対面するから全く違うと感じていた。だから医者への気配・オーラを消して、白衣も着なくなった。困っている人がいたら助けたい、心の根の部分が大事。副島先生のお話にあった勇気が貯まるかが大事というお話から始まりました。

あおぞら診療所の紹介。(資料参照)

医療デバイスを使用している家族はそれを医療保険で賄うために月に1度は通院しなければいけない。日々のケアで大変なのに外出することはかなり大変。そこで訪問診療を始めた。家族も通う負担が減り、医療機関の医者も通院患者が減ると負担も減る。

子供達は家の中で1番明るくて風通しの良い人が集まるところにいる。病院の中の表情と家での表情はまったく違う。だから病院で聞くことと、家で聞くことは違う。家では何をしていたのかとか日常の会話に近くなる。全く想像できない姿勢を取ったりしていることもある。

日本は世界で1番赤ちゃんが安全に生まれる国と言われている。医療の進歩で数える命が増えた一方で、に日常的に医療的ケアが必要な子供の数も増加している。でも医療的ケアの子が増えたのではなく、生きる子が増えたと捉えてほしい。

医療行為と医療的ケアの違いの整理も大事。医療的ケアは必要だが病気ではない、これが普通(健康)。医療行為は病気に対する治療で治療目的に医療者が行う行為で医療的ケアは健康を保つための毎日のケアであり、治療目的ではなく生活の援助のための行為である。関わるケア者が増えると子どもの生活範囲(社会)が広がる。

在宅診療では、共に治療を選択する過程を大事にしている。家での看取りもある。癌の見取りは増えているが、神経系の方の見取りは増えていない。家族と一緒に揺れてもいい。最期は子どもが決める。

悪くなってからの入院や在宅での点的治療では遅すぎる。呼吸障害に対して普段から取り組めるアプローチはとても大切。他職種で取り組む在宅排痰アプローチの紹介。一緒に手を添えて伝え合い、共有する感覚と経験を大事にしている。

これからの課題について、大きくなった人達の命の重さをもっと感じてほしい。子ども病院からどこの病院に移るか、受け皿がない。成人を超えると医療機関の対応が蔑ろになっているように感じるなのでその部分を変えていきたい。

小沢先生に代わり急遽講演を引き受けてくださった田中先生の人柄がにじみ出た講演だったと思います。本当に本人と家族に寄り添って日々を過ごしているのだと感じることができました。

高塩純一氏、副島賢和氏、田中総一郎の3氏は、その経験に実感を持った障害や疾病のある子どもらの理学療法、教育、医療の原点を語る中で、氏らの思い・考え(思想)を示してくれました。

氏らの語りに共通するものの一つに「いのちの大切さ」があったと感じました。「いのち」は「生命」という言葉としての意味よりも、そこに存在していることに意味のある「いのち」、こころや勇気が大切な「いのち」、よろこびや希望を与えている「いのち」など、いろいろな「いのち」の意味を示してくれました。この「いのち」が「子どもら(当事者)を含めたチームで支えられている」ことの大切さも示してくれました。これらを受けて、後半のパネルディスカッションが始まりました。

パネルディスカッションのパネラーは、前段の講演者の高塩氏、副島氏に、今回のセミナーの企画者である黒川洋明氏、長谷川大和氏を加えたメンバーで始まりました。今回のテーマ「原点から未来へ～みんなで語り、考えよう～」は、黒川、長谷川両氏が企画したテーマです。まず、両氏に”つながり”を含めた自己紹介とそれぞれの”原点”となっている出来事を紹介していただきました。

両氏とも、本会の第一回セミナーでの出会いが職場を越えた自主的な勉強会を始めるきっかけになり、その場が彼らを大きく育ててくれた場であったと語りました。私は、彼らが準備委員会の中で、「コロナ禍で作れなくなった”つながり”を取り戻したい」「参加者に”つながり”の機会を提供したい」と強く話していたことを、思い出しました。

今回のテーマである未来を語り合うため、パネラーのそれぞれが思う未来について、話してもらいました。その未来に、フロアーの参加者に発言していただきました。

パネラーを含め語られた未来は、「子どもらが”できる””できた”を共感するセラピーが当たり前になる未来」「自分が Challenge と Hope を積み重ねつづけている未来」「普段の生活場面を快適にしている未来」「今高度に専門的と思われる知識や技術が一般的になっている未来」「PT 同士のつながりがもっと広がって、他分野ともつながる未来」「意思決定を支援する理学療法の技術が確立する未来」などが印象に残りました。

重症心身障害の理学療法は、難しい理学療法です。障害像が多様なため有益で信頼できるエビデンスを示すことは困難です。しかし、身体機能に直接関わる理学療法は子どもらに有益な支援ができる手段です。子どもらの「いのち」の物語を尊重して、希望と挑戦を繰り返していくためには、理学療法を行う従事者が独善的にならず、知識・経験・技術・思想を共有することは大切です。そのための”つながり”が挑戦する勇気と有益な情報を得るために不可欠なことを会場の皆さんが実感してくれたと思いました。そして、翌日のプログラムの「グループワーク～未来へ～」はつながりを作る場として成功すると、私は確信しました。



*2日目 グループワーク報告

担任：齋藤大地（株式会社はこぶね）

1年生

副担任：五十嵐大貴（株式会社はこぶね）

授業内容

生徒は16名、重症心身障害をもつ児・者の介入経験が0~3年の方々。時間割は①自己紹介②グループワーク③まとめ。グループワークは、事前に提出していただいた話題提供カードを元に、普段感じている疑問やお悩みについてご本人から発表していただき、担任と生徒で話し合いました。

まとめ（挙げたテーマなど）

挙げられた疑問やお悩みは、「目標設定をどうするか」「非言語コミュニケーションの理解の仕方」「お父さんは立たせて欲しいと言うが…ご本人はつらそうでどうしたらよいか」「先輩への相談の仕方」「お母さんや看護師からどう見られているか不安」「低頻度外来で係わる際の役割や立ち位置」「地域の学校、特別支援学級とどうつながっていけば良いか、ニーズの拾い方、お手伝いの仕方」「自分の介入を客観的に見られない」「どんな遊びをしているか」などがあげられました。

この中でも特に「先輩への相談の仕方」「非言語コミュニケーションの理解の仕方」が生徒さんの中で印象に残ったようです。先輩への相談については、自分の介入や行動に対する言語化がまだ難しい段階のため、相談したい場面を動画で撮影して先輩に見てもらうのが良いのではないかと言うことになりました。非言語コミュニケーションの理解については、重症心身障害をもつ児・者の方々と対面した際にどうして欲しいのか感じ取れないというお悩みで、担任の齋藤から、快・不快を理解することが大事で、まずは表情や発声、リラックスなど快反応を集める事から始めてみてはどうかというアドバイスがありました。

担任より一言（担任：齋藤大地）

大きな流れとして、記憶力が優れている20代には、仕事も研鑽も量をこなすことで、将来使える知識・経験の記憶のピースが増えていきます。顔・表情の認識能力が高まり、人脈や関係性を作るのに適した30代は、外に出ていく仕事の適性が上がっていくでしょう。それ以降も、集中力や人の感情を読む力が伸びていくので、段々と仕事のステージは変化していくと思います。

今回の話題のベースには、参加された方の普段の業務に対する客観的な自己評価の難しさがあるのかなと聞きながら考えていました。そうすると、やはり対人コミュニケーションの基礎は、重症心身障害へのセラピーが発展するにはとても重要だと思います。授業中の対話では、起きている事象、変化を起こしたい意図やプラン、結果をフラットに言語化して自分から出して、参加している方々が共通理解できる場になるようにしていたつもりでしたが、どうだったでしょうか？皆さんの日常で、少しずつうまく繋がる様になってくるのを楽しみにしております。

担任より一言（副担任：五十嵐大貴）

経験がまだ浅い時期ならではのお悩みや疑問が多く、自分も昔そうだったな~と思い出していました。今回はアドバイスをする役割でしたが、生徒の方々の迷いながらもどうにかしたいという熱心な思いに触れて、私にとっても良い学びとなりました。皆さんのこれからの成長が楽しみです。お疲れ様でした。

授業内容

15名参加。2グループに分かれてグループワークを2回実施

グループワーク内容 ①積み木自己紹介 ②参加者からの話題提供 ③隣の人と討論し、その後発表
④グループ内全体討論後、全体共有、グループワーク後、全体感想会、全体写真撮影実施

まとめ（挙がったテーマなど）

- ①（一人職場）PTの役割、立ち振る舞い
- ②目標設定どうやって決めてますか？
- ③「大人になったら仕事も大事でも遊びも大事！何して遊びたいですか？」
- ④「モチベーションについて」

担任より一言（担任名：黒川洋明）

・グループワークに積極的に参加していただき、ありがとうございました。

知識技術も大切ですが、経験と選択肢の多さも重要だと思います。今回、同じ年代の皆さんととのグループワークを通して、様々な視点や情報を共有できたこと、そして、「つながり」が今後の理学療法士人生の中での財産にきつとつながると信じています。

分からないことがあっても大丈夫です。分からないことを一人で悩まず、今回つながったみんなに遠慮なく相談してください。私たち担任含めて全力で応援します。

セミナー後に開催した12/20の2年生のクラス会（Zoom）をこれからも定期的に開催して「つながり」を深めていきましょう。素敵な2年生のメンバーにお会いできたことに感謝しています。

担任より一言（担任名：繁田圭一）

・参加してくれた2年生の皆様、本当にお疲れさまでした！みなさんがテーマを出して積極的に対話している姿をみて、実際に会って話す事の重要性を改めて感じさせられました。同世代の中で今、自分が何を思い、考え、何をしているのかを話していく事は、これからの重症心身障害の理学療法をしていく中でとても大事な事と思っています。自分達が見ている人達には答えが無く、多様性があり、個別性が強いです。多角的な側面で見なければならなくなった時、自分ひとりの頭の中では到達できない事まで、対話していく中でたどり着けると思います。

今回、グループワークで繋がった人、またセミナー全体を通して触れ合った考えなどはいつか自分の中で大きな助けになってくれると思います。今後も繋がりを大事に一緒に重症心身障害の人について話していける機会を楽しみにしています。ありがとうございました。



授業内容

3年生は経験年数が10~14年で12名のクラスになります。始業チャイムが鳴り担任、副担任が教室に入ると日直(参加者)による「起立」「礼」「着席」の号令があり授業を開始しました。その後、出席確認を兼ね自己紹介、授業で語りたいテーマについて一人3分程度で話す予定で進めていきましたが、開始直後より思いのこもった話が続き、1時間目から大きく時間を超過してしまいました。2時間目は1時間目に出た疑問、悩み事などについて議論を深めました。

あっという間に終業のチャイムがなり、最後にクラス写真を撮って授業終了となりました。

まとめ(挙がったテーマなど)

話題としては「重症心身障害児・者の理学療法とは何なのか」「18歳以降の理学療法について何をすればいいのか」「目標設定が難しい」「新人教育に不安がある」「組織の中での立ち位置がわからない」「自分の行なっているセラピーが受け売りになっている気がする」「相談できる相手が欲しい」などが挙がりました。議論の中で「自分のやっていることがどこに繋がるのか」や「療法士としての自身の成長」などについて「不安」との意見が多くあり、その不安の根底に自身の縦(療法士としての知識・技術)と横(利用者様の生活、参加、活動などを観る、支援する力)にアンバランスが生じ、横を重視した支援が多くなるや相談相手が少ないことで縦の伸びが少なくなり、自身の進む方向、臨床の広がり、後輩指導に不安が生じているのではないかとの話になりました。相談者がいないことの一つに「短期入所の利用者様へのリハビリについて」質問があり、施設間でリハ職の関わりに違いがあることを共有することができました。

後半では知識・技術面の不安があるものの利用者様の一側面を見るのではなく利用者様にとっての「ICFを回す」「Fun」「Future」について重視する必要がある、またそのためには施設、職種を超えた繋がりが重要でそれにより自身の「不安」の解消や「将来」が見えてくるのではないかというまとめになりました。

担任より一言(上原隆浩)

・生徒同士の会話も多く、学校の雰囲気たっぷりでした。10年という経験年数があるものの内省的に考えているところに意識の高さを感じ、今後本会が何をしていかなければならないか課題も頂きました。でもこの授業で何よりの収穫は横のつながりができたことです。悩みが尽きないことも重症心身理学療法の楽しみの一つと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

担任より一言(長谷川大和)

・皆様の熱量に感動し、企画してよかったなど、思わせていただきました。メンバーに感謝です。まだまだ、話足りないことも多くあったかと思えます。今後も、皆様とのやりとりをさせていただき、それぞれが担当の方たちへ多くのものを還元できるようなことが作れていけるといいなと思えます。こんなに仲間がいるのだから、安心して前に進めます。

担任:要 武志(すりーぴーす)

岡田雄一(四天王寺和らぎ苑)

4年生

授業内容

生徒は11名、15年から20年の経験を持った方達。自己紹介(自分の理学療法の原点)、グループワーク、まとめという流れで実施した。キャリアも長いので自己紹介だけで1時間が経過。その後のグループワークでは、(効果判定)・(医療的ケア児支援センター)・(災害対策)・(地域連携)などが話題の中心となった。その他、地域ごとに抱える課題や、若手や地域の育成についても話が上がった。

まとめ(挙がったテーマなど)

4年生は年代的に個へのセラピーの悩みというよりは、組織としての課題、制度について、育成についてなどの話題が中心だった。効果判定については変形など治療介入した結果が分かりにくいものに対してどう評価していくのが最適なのか、答えは出なかったが議論としては白熱した。

担任より一言(要武志)

働く地域も職場も違う中だったが、同年代で共通する悩みが非常に多かった。自分たちの学びに加えて伝えていく年齢になってきたことを痛感した場になり身が引き締まった。生徒側から教わる事が多く担任としては役不足だったと感じている。セミナー終了後もLINEグループで情報交換等を実施しており、今後も継続的に連絡を取り合えると良いと感じている。

担任より一言(岡田雄一)

担任としてファシリテーターの責務を担うのはもちろんだが、同年代の方達と課題や取り組みを共有し意見交換することで、自身も日頃の業務を振り返る機会となった。自分自身が課題に感じていることを発言することで頭の中が整理され、課題解決のいとぐちを見出すことができた。今回のセミナーに参加して、担任であると同時にクラスメートでもあり、今後も有意義に討議し合える仲間になれたと感じている。



担任:高塩純一(びわこ学園医療福祉センター草津)

5年生

担任:榎勢道彦(四天王寺和らぎ苑)

授業内容

生徒は13名、経験年数21年目から50年目の理学療法士、特別支援学校教員の参加がありました。事前のアンケートに基づいて、ひとりずつの話題提供に対して、意見交換、情報共有を行いました。すべての話題を取り上げることはできませんでしたが、ひとつの話題に対して多面的、多角的な見解から話が拡がりました。

まとめ(挙がったテーマなど)

話題提供として、「30年前と変わっていない家族の大変さ」、「成人期の二次障害の進行をどのように遅らせるか」、「リハ内容の指導・引継ぎについて」、「はじめて重症児者と出会う他職種との関わり」、「子どもの病態に応じた呼吸器の設定、選択」、「卒業後の子どもたち」、「通所施設における活動」、「エビデンス 哲学 方向性について」、「理学療法の現状と今後の方向性」、「理学療法の介入頻度・終了について」、「今までを振り返って今考えること」などが挙がり「本音」でのグループワークが進みました。

家族のニーズ、関心事を捉え、必要な支援を行っていくためには、家族との日常の些細な会話からの気づき、住環境を物理的、質的にとらえていく評価の視点が重要である。一方で、後輩への指導・引継ぎとも関連するが、このことを(特に暗黙知を)どう伝えていくか課題とを感じる。変形拘縮などの二次障害については20年前と比べると薬物療法や外科的治療が発展し、一般化してきているが、変わらず生活上の座位など理学療法の介入が必要と感じる場面もあり、身体面に加えて、生活環境評価、生態学的評価がなければ介入を論じることは難しい。特に他職種との関わりにおいてはその視点が重要になる。その他、卒業後の課題として生活環境が大きく変わるだけでなく、支援するチームや制度が乏しくなることも課題であることや、子どもの疾患が多岐にわたることに伴う呼吸機能障害に対する理学療法の視点なども話し合われました。

担任より一言(担任:高塩純一)

それぞれの皆様は、その地域での確固たる地位があるとともに今までの職場から地域に出ていく中で、今までとは違う地平でこどもと家族の困りごとに取り組まれていることが話されました。これは、スペシャリストからジェネラリストへの転換とともに医療・療育機関とは異なる課題に対する挑戦であるように感じました。医療改悪の進む中、こどもたちのいのちをどのように光り輝かせるか。5組の生徒さんには若い世代に何を伝えていくのが、責務であると感じた時間になりました。

担任より一言(担任:榎勢道彦)

理学療法士が当事者や社会から期待されている「専門性(スペシャリティ)」に応え、深堀することに伴って、理学療法士が個人として必要と思っている活動や楽しみの支援、生活支援といった「総合性(ジェネラリティ)」は拡がっていきます。職域が拡がり、理学療法士が活躍する場もさまざまになってきています。それぞれの立ち位置で知識や経験を共有しながら、「専門性(スペシャリティ)」をマントルまで深堀していき、重症心身障害のある人とその家族に役に立つ「総合性(ジェネラリティ)」を上げられる未来に向けてこれからもよろしくお願いいたします。

今回の全国セミナーは、4年ぶりに集合形式で開催できました。コロナ禍において、決してつながれなかったわけではなく、かえって簡単に時空を超えてつながる方法(zoom の普及など)を私たちは手に入れました。では、なぜ集合形式での開催を待ち望んでいたのでしょうか？

それはきっと「つながっている」を実感できるからだと思います。“やっと会えた!”という喜びは、自ら動いて会場まで来たというリアリティ(お金や時間)をもって何倍にも膨れ上がったと思います。そこで本会セミナーの良いところのひとつであるグループワークです。ご参集の皆様にとって有意義じゃないわけありません。企画された現地実行委員の黒川さん、長谷川さんに感謝申し上げます(終了の挨拶の際、お二人への感謝を会場と共有し忘れたことだけが悔いとして残っていましたので、ここで述べさせていただきます)

さて、皆様は「学習定着率」とか「ラーニングピラミッド」なんて言葉を聞いたことがありますか？ご存知ない方はググってください。すぐ出てきますので@^^@

講義で学んだことの学習定着率は5%なんだとか。だから「高塩さんのお話もっと聞きたい」とか「副島先生のお話泣けました」と言っても、中身はあんまり覚えていないはずですが。でも感情がとんでもなく揺すぶられた事実だけはどなたも一生忘れませんから、その分自己研鑽されることと思います。つまり、講義で学んだミーニングはどのみち消えていく、講義に感動を覚えた方はご自分のセンスを育てていきっかけをもらった、ということだと思います。

一方グループ討論の定着率は50%です。ですが、校長としては始まる前にわずかばかりの不安がありました。それは、①各グループの人数が多すぎる、②討論議題を事前に共有していない、③時間が長すぎる、の三つです。グループワークに於いて一番効果的な人数は6名で、10名になるとグループワークは成立しないとされます。また、副島先生からご呈示があった「課題を真ん中に置きましょう」を思い出してください。グループに課題意識の共有があってこそその真ん中です。更に、ひとつのことに人が集中できる時間は50分が限界だそうです。この3つのことから、議論への参加意欲と課題解決思考が機能せず、ただだらして終わってしまうのではないかとの危惧がありました。そうなれば定着率50%以前に、脳に定着(学習)すべき事柄そのものが決まらない事態となってしまいます。

それが何ということでしょう、良い意味で校長の予感裏切られました。どのグループも150分という長い時間を有意義に使っておられました。教官役をお引き受けいただいた方々と参加された皆様、双方の力量と想いがあってこそだなあと、深い感銘を受けた次第です。内容と成果についてはそれぞれのクラスレポートをご参照くだされば幸いです。

最後に、拙い司会ではありましたが心がけたことをお伝えします。

- ① 言葉は見えません。視覚化することは共有することです。ホワイトボードやどこでもシートの活用をお勧めしました。
- ② 150分はやっぱり長いです。グループメンバーで何を話したかを確認する時間を取りました。
- ③ 各グループを更に半分にしました。皆が話す時間を取れますし、二者間で確認ができます。
- ④ 必ず全員が話すこと、そして一番大切なことは“安心して”話せる場を確保することです。
- ⑤ 時間を決めること、そのためにはタイムタイマーは有効です。
- ⑥ 自分と仲間を賞賛すること、「それいいですね!」と拍手は何よりの活力となります。



皆様、ご参加いただきありがとうございました。

久しぶりの対面を大いに楽しんでいただけたのではないのでしょうか？
皆様との出会いが臨床の活力となり、よいものを生み出していく原動力となっております。

どんなことも、毎日のモチベーションが高く、集中できているときが一番の成果をだすものです。そういった意味では、私にとっては、どんな学会よりも、臨床の活力の充電場所となっております。

また次回にお会いした時に、お互いの「気づき・学び・変化」について共有できることを楽しみにしております。



多様な障がいのある重症心身障害児者の方々をサポートする上で、日々、一人では限界があると感じていました。そんな中、私を支えてくれたのは職場の先輩・同僚だけでなく、沢山の知人友人でした。今回、セミナー企画者として、長谷川さんと相談する中で、10年前に出逢った私たち自身の小さな「つながり」が大きくなり、沢山の仲間達と出会うことができ、現在とても大切な財産となっています。そんな経緯を振り返りながら、今回のセミナーは同じ年代との「つながり」をつくる場として開催したいと考えました。

過去の企画には無かった内容でしたので、残念ながら「2日目がグループワークだから参加しない」という声もありましたが、参加者同士の「つながり」が生まれるように懇親会含めて準備を進めました。

当日は、1日目75名、2日目69名の方が参加して下さい、誠にありがとうございました。

過去のセミナーと比較すると参加者が少なかったためセミナー運営のために研究会費を多く補填する形になってしまい、セミナー企画者として企画内容及び準備等々が不十分だったことが原因と思われる。この場をお借りして深くお詫び申し上げます。

しかしながら、2日目のアンケート結果から98%の方が満足と回答され、自由記述においても「同年代とのつながりが出来てよかった」「1人職場や歳の離れた先輩しかいない中で悩みを共有できる機会は貴重だった」など新しい「つながり」が生まれたと思われるコメントを沢山頂くことができました。また全体討論の場で、各年代のグループワーク内容を共有することで、それぞれの年代における悩みや課題を共有することができ、今後、研究会として進むべき道を確認できる貴重な機会となりました。

私が担当した2年生グループ（重身経験4～9年目）の皆さんはセミナー終了後、LINEグループで情報交換を行い、12/20（水）20時～Zoomを利用した2年生の集まりを開催し、セミナー当日にファシリテーターを担当した繁田さんと共に私も参加し、総勢14名でとても賑やかで楽しい会となりました。参加者ひとりひとりからセミナー参加後の変化や2年生の集まりで今後どのようなことをしていきたいかを確認、共有しました。

今回のセミナーを通して生まれた「つながり」がセミナー終了後も続いていることに私自身、感動しております。この小さな「つながり」が少しずつ大きくなることが将来的には障がいのある子ども達、そのご家族のより良い未来につながると信じています。

私の勤務する島田療育センター初代園長の小林提樹の座右の銘「この子は私である。あの子も私である。どんなに障害が重くともみんなその福祉を守ってあげなければと深く心に誓う。」の言葉があります。

今回の「つながり」を通して子ども達の福祉、生活を守っていける仲間を増やし、これからの未来を切り開いていく活動を本研究会として取り組んでいきたいと私自身、改めて確認できた貴重なセミナーとなりました。

最後に今回のセミナーでご講演頂きました高塩代表、副島先生、田中先生、参加して下さった皆様、ご協力して下さったスタッフの方々、すべての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。引き続き本研究会の歩みを温かく見守って頂けたら幸いです。

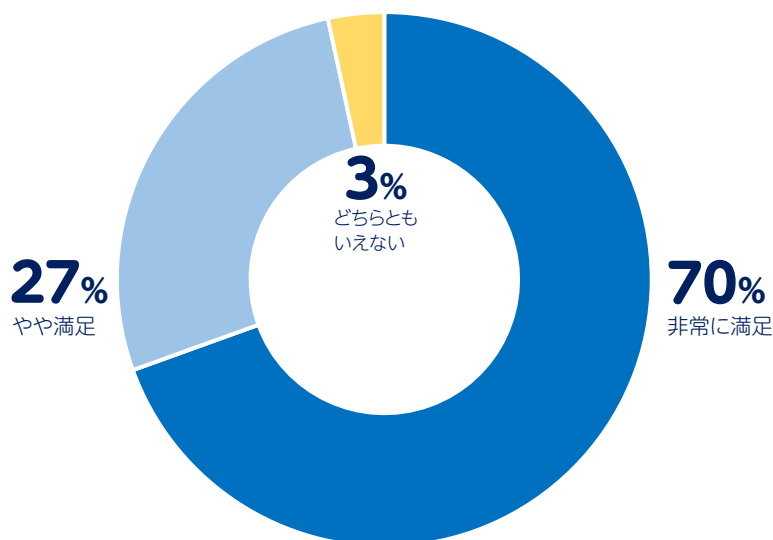
第 11 回 重症心身障害理学療法研究会セミナー
アンケート集計結果

****1 日目**

*** アンケート回収率**

1 日目 : 79% (参加者 75 名 回答者 59 名)

*** 基調講演「重症心身障害理学療法の原点」(高塩純一 氏)について**



原点を映像で見ることが出来て、人として対する気持ちが分かったような気がします。

もっと話を聞きたかったです。

ミーニングについてお聞きしたかったです

リハビリをしなくちゃいけないと小児のリハビリを始めた時に思っていました。専門的な評価は勿論必要ですが、子どもたちに何が必要か、どんな風になって欲しいかを考えるようになり機能的なアプローチだけではないことも大切だと思えるようになりました。

もっとお話し聞きたかったです。

ありがとうございました。

sence と mean について、お聞きしたかったです。

センスとミーニングの考え方にとても感銘を受けました。当施設では代々伝統的に近い考え方を指導していただきながら(ミーニング)、センスを出しても否定されることがよくあります。夕日を見に行くと言ったら患者さんの HOPE にもっと近づかないといけないのだと気が付かされました。根拠のあるセンスを磨いていきたいと思えます。

以前の職場(保護者による自主グループ)の本棚にあった「この子らを世の光に」の背表紙を思い出しながらお話をうかがいました。

ご講演いただきありがとうございました。

「リハビリ」に対する価値観や考え方が変わるきっかけになった公演でした。今は一年で右も左もわからず、結果

に固執してしまいどうしても焦ってしまいます。先生の講演で、機能的な向上以外にもさまざまな結果の出し方があり、考え方、視点を変えるだけでどのような行為もリハになることに気がつくことができました。また、センスとミーニングのすり合わせ、そこからコンセンサスに至るプロセスなど今後の PT に活かしていこうと思います。

科学的根拠のないことへの自信のなさ、真逆の確固たる自信、わかること、わからない事、この感じすべてをこのまま待ち続けて進んで行こうと思えました。ありがとうございました。

重症心身障害分野の過去という点を改めて見つめなおすことができました。過去の映像を見て、あの時代をうらやましくもなりました。

いつも貴重なご講演ありがとうございます。

縦と横の話をさらにもっとお聞きしたかったです。

自分の中で答えは出ていないけど、原点を考えるきっかけとなった

貴重な映像を見せていただき、ありがとうございました。

大学生のときに福祉科で重症児に初めて出会い、そこから学校に入り直して PT を目指した、あのころの自分のことを思い出しました。目の前のバタついた毎日に追われて忘れそうになっていたけれど、子ども達が楽しそうにしている姿が好きだったんだな、と。それを忘れずに、子ども達に向き合いたいと改めて思いました。また、そのためにも、自分の PT としての技術や知識を高めていく必要があるのだと感じました。

今まで、高塩先生の実践のお話を伺うたびに、感銘を受けていました。今回、先生の原点のお話を伺えたことや、びわこ学園や糸賀先生の実践ににふれる機会をいただけて、参加して良かったと感じています。

ありがとうございました。

もっとお時間が許す限り、多くのことをお聞きしたかったです

原点は、各々違って良いのだと思いました。

私の原点を改めて考える機会になりました

自分のセンスをみがくこと 最近、自分のセンスよりミーニングになってたことに反省しました。センスを掘り下げる、まずはやってみる

この気持ちを大切にします

わたし半年の命なのになにするの？の問いかけが印象に残りました。この仕事について 20 年以上経ちましたが、私はなんて答えるかなと考えましたが、何も思いつきませんでした。糸賀先生の福祉の思想は私も持っているの、改めてまた読み直したいと思いました。

高塩先生の学生時代の話、びわこ学園の動画大変勉強になりました。スタッフさん、利用者さんのやりとり、温かいものを感じました。これから、糸賀一雄先生の福祉の思想読みたいと思います。

貴重なご講演ありがとうございました。

ぜひ本日紹介できなかった部分の講演もお願いいたします。

後半の「自己実現」「センス/ミーニング」の話をもっと聞きたかったです。

久々の対面で直接お話を伺えて感無量でした。

遅れて聞き逃してしまいました。申し訳ありません。

久しぶりに高塩さんの話を聞くことができ、今の自分の子どもたちへの関わりについて、振り返ることができました。動画も、昔のびわこの様子や入所者さんのようすがみることができ、とても嬉しかったです。

縦軸横軸の話、詳しく聞きたかったので、また話を聞ける場面があると嬉しいです。

私も、第一びわこ学園に保育実習でお邪魔している(その時に高塩先生に出会いました)ので、その当時の写真や「夜明け前の子どもたち」の映画の話や糸賀先生の発達保障の思想について、とても懐かしくお聴きまし

た。

高塩先生の原点であるとともに、私にとっても原点です。

知らない世代が多くなっている中、伝えていくことが、とても大切ですね。

自分の評価はできませんが、もう少し時間があると最後まで話せたと思います。

時間が足りないと感じました。もっとしっかり聞きたかったです。なので、「やや満足」としました。

できればもっとお話を聴きたかったです。縦軸／横軸の発達やセンスとミーニングなど。

先輩に教わったやり方を忠実にすることも大切だが、その子に合わせた理学療法ができるように、日々変化に気づいていきたいと思った。

機能障害にばかり目が行きがちですが、一緒に時間、空間を一緒に過ごすことの大切さを再確認できる機会となりました。

36年びわこ学園にいても正解がわからない。という言葉に、自分はこれからも重心のPTでやりがいを見つけたい、いろんなsenseを感じていろんな方と笑っていきたくて思いました。明日からもがんばります!!

高塩先生の原点であるびわこ学園にとっても感銘を受けました。自分も治療に対してのアプローチの他に、子供たちのQOLや経験の獲得に重きを置いてきました。急性期病院という中でどんな関わりが少しでも子供の助けになるのか模索していますが、自分のセンスを言語化し、他者のセンスと共有をする事を胸に留めこれからも学びを続けていきたいと思いました。

また、もっとびわこ学園の動画たくさんみたいと思いました!

素敵なお話をありがとうございます。

夜明け前のこどもたちは、30年前、自分が学生のとときに視聴し、考えさせられました。私にとっても、今の自分につながる大切なきっかけです。

目の前の人と週40分関わる時間がある中で、時間・空間・関係性を大切にしていきたいと思いました。

縦の発達 横の発達を改めて勉強できてよかったです!

センスのお話、縦軸と横軸の発達のお話、不断の研究、こころに響きました。こどもたちの日々の試行錯誤に、恥じることはないよう向きあえるセラピストであるために、気持ちを新たに自己研鑽に努めます。

高塩さんが、びわこ学園で過ごしてきた時間は、高塩さんにとって、本当に楽しい時間だったんだな、と感じる公演でした。

また、縦軸と横軸の話は私も悩んでいた部分だったので、参考になりました。

もっとフルでお聞きしたかったです。

またの機会にぜひお願いいたします。

スライドの内容をもっと聞きたかったです。

センスですね

本会を終了した時に、改めて自分の原点を見つめ直すこともでき、今までの先輩たちの経験を、私たちがどんどんとよりよく、広げ伝えていきたいと思いました。

映像に映る方々の関係性や距離感が印象的でした。また、座って柿をたべる時間、自分も同じようなことをしていました。それも良いのかな、と勇気を頂けました。

参加の方々 1年、2年生の方々のご意見を聞きたいです

私は1975年から障害幼児通園の現場で数年働き、当時の精神薄弱(知的)、重症心身障の療育の世界において、特に後者は「びわこ学園」は注目されていていつか働きたいとも思っていた。私も彼が語った糸賀一雄、田村一二、池田太郎の書籍・冊子なども読む。高塩氏が事前の体験との後にびわこ学園にPTとして一人職場とし就職し、「びわこ学園の一員」になり、その精神世界も含めた体験を語って下さった。彼だからこそ語れる日本の重症心身障害世界の原点であり、貴重な時空間、満足したご講義でした。映画の事、映像も懐かしかったです。後半のスパイダーやベビーロゴの紹介は彼の推進している多様な空間で提供したい素晴らしい内容である。が、姿勢運動に関する基本的な障害学的また発達学的なアプローチに基づくセラピーや生活支援があつてのアプローチでもあるだろうと思うが、その紹介は暗黙の了解事だったのかどうか、その内容の話しが些少のみであつたのかとも思いました。

この度は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。柿を食べた情景から大切にしたいこと、横の発達の視点、センスとミーニングのお話など、原点と未来のことを本当にたくさん学ばせていただきました。PTとして利用者様のとりにいさせていただくために、していくこと、していきたいことが自分なりに分かりました。本当にありがとうございました。

縦軸の発達に限界あつても、横軸の発達は無限である。という言葉にptの役割をすごく感じました。重心のリハビリをされていて、明らかな改善を感じることはほとんどないです。このリハビリの意味はあるのかと悩むことが多々あります。でも、私たちptは、本人の能力でできる無限の可能性を広げる役目をしていること。逆に本人にできる範囲を決めつけてしまえば、横軸の発達を止めてしまう役目を担っている仕事だと分かりました。私は、横の発達は無限である事を考えながら理学療法をしていきたいと思ひます。ありがとうございました。

素敵なお話をありがとうございました。縦軸、横軸の話はとても考えさせられました。今後も患者さんと関わる上で共有出来ていることなど再度振り返って行きたいと感じました。

「横軸の広がりを楽しみたいと、子どもたちは思っているかもしれない」「身体を揺さぶり心を揺さぶる」など、高塩さんが原点のお話をしていただいた中に、未来につながる多くのヒントがあつたのではと感じます。貴重なお話ありがとうございました。

縦軸と横軸のお話を聞かせて頂き、自分は縦軸の機能的な事ばかり考え横軸の広がりに関して、疎かになっていた事に気づかされました。貴重なお話ありがとうございました。

その時間空間を共有することも理学療法という内容に強く共感しました

当時の生活の場の様子が伺える貴重な映像を共有して頂き、どうもありがとうございました。優しい時間が流れている雰囲気、こういう感じが理想なんだけどなあ…と思いながら、現場との違いに、職員全体で作られ、そこからもち出せる空気感になるには、やはり、職員全体の意識や思考の共有が大切だと思いました。子ども達の食事やオムツ交換、体に触れる時に話しかけながらの関わりよりも、ルーティン作業のように黙々と関わるベテラン職員や看護職員を多く目にしてきました。また、看護師や管理者から、別室でパソコン業務や機械音を聞いているから黙ってやるよう指摘され黙々と作業する事を良しとし強要された事もあり、納得し難く、思考や倫理的な感受性、権利擁護に反する考え方の違いに憤りがあり、反論した時もありました。あくまでも私と子ども達との関係づくりの大切な事と思ひ、話かけながら関わりを楽しんでいましたが、映像をみて、改めてそれで良いのだと安心しました。各々の活動をしますが、食事やオムツ交換、うつ伏せ姿勢やベッドで寝ている時こそ、リラックスしているか、表情はどんなものか気になり、つい顔を覗きこんだり、バイタルや呼吸の様子をみて寝ている状態でなければ、声

をかけた、体の冷たさや緊張具合を確かながらスキンシップをとったり、絵本を読み聞かせしたり、歌いながら抱っこしたり、運動や活動以外の時間にも話かけて関係を作っていきたいと思い、動いてしまいます。言葉の意味や概念の理解が難しい場合でも、タッチをする事で会話や合図になりますし、そうすることで食事やオムツ交換時も、子ども達がリラックスして自主的に体を預けられる事をしり、わずかなサインを読み取れるようになったり、自主的な動きがおこるまで、こちらが待てるようになったり、ほんの少しの捻れや傾きを解放して緊張を弱める事ができるようになったり、緊張やてんかんが起りやすい原因やタイミングを予測して動けるようになるようになって感じます。人権擁護は前提におきつつ、それだけでなく、体を預けるために必要な信頼関係や見えない心の動きや相手の意思を読み取れるためにも、やっぱり話かける事や、ただそばにいて自分の存在を知らせる事が大切で必要なんだと思いました。

貴重な講演ありがとうございました。最後まで聞きたかったです。

改めて、再認識できました。

センスとミーニングのお話がとても印象に残っています。子どもと関わっていく中でも、大人が望む姿に近づけようとするのではなく、1人1人のセンスを見れるようなセラピストになるべきだなと心から感じました。また、学童コンサル事業に参加した際に、支援員さんの想いに対して疑問を抱くことがありました。その際も、ただこちら側の想いを伝えるのではなく、相手のセンスと自分のセンスをぶつけ合いながら、対象児に対するミーニングをつくっていききたいなと思いました。

1人1人に対して「研究」をし続け、子どもたちにより良い支援を提供できるように取り組んでいきたいです。

縦軸の発達のみでなく、横軸の発達も大切にして、自ら成長していきたいと思います。

自分のセンスを押し付けるのではなく、それぞれが感じるセンスをぶつけ合って、お互いの成長図っていききたいと思います。

貴重な動画を拝見させていただき、良い機会となりました。

縦の発達、横の発達は改めて勉強になりました。

先生の原点と未来へのお話を聞いたことがよかったです。

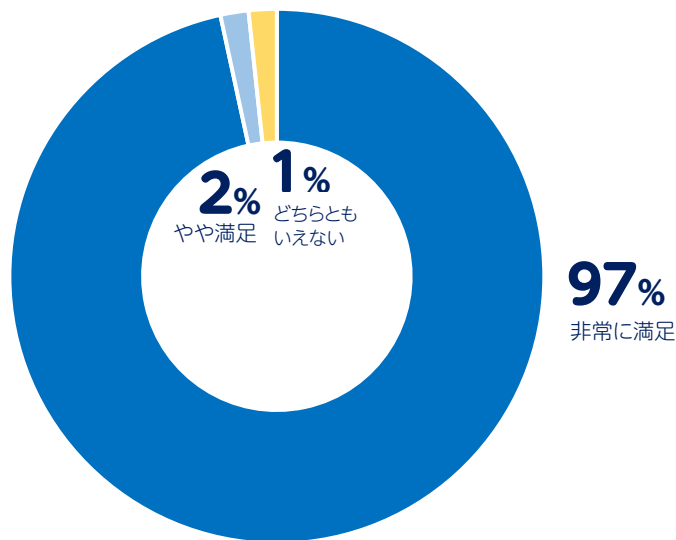
びわこ学園の動画を拝見させていただけたこと、本当にありがたかったです。

センスとミーニングの話がとても心に残りました。私もセンスをしっかり磨いていきたいと思います。

昔の写真がとても印象的でした。

利用者さんにとっての暮らして何なのか、自分の関わりを利用者さんはどう感じておられるのか、理学療法って何なのか、答えは分かりませんがより深く考えることができました。貴重な動画も見せていただき、ありがとうございました。自己実現やセンスとミーニングのお話もまた伺いたいです。

* 特別講演「子どもたちへの関わり方の原点」(副島賢和 氏)について



自分の子供に対しても、日々向き合う子供に対しても改めて、向きあっていきたいと思いました。

涙涙でした。先生の世界に入り込み、お話も上手ですし、心揺さぶられる講演でした。理学療法士という前に、親としての目線になりました。もっともっとお話を聞きたかったです。

勇気を持つためにどうしたら良いか考えました

とても心揺さぶられる内容でした。

子ども達の関わりに関してセラピストとしては機能面を注目がちですが、子ども達の声や想い、考えをもっともっと子ども達の目線に立って聞いていこうと思いました。

私自身 1 歳、3 歳の子供がおり、関わり方に正解はありませんが、日々悩んだり、喜んだりしています。

本人の目線に立つこと、自尊心を満たす関わり方をこれからも大切にしていきたいと思います。

他職種からの視点をお聞きする機会はとても貴重でした。抑揚のある話し方、とても心のこもった話し方で、聞き入ったとともにあの話し方に近づきたいと思いました。

子供たちは気持ちに蓋をしてしまっていると聞いた時に、自分の配慮はまだまだ足りないと思いました。

自分の臨床人生を通して、対人援助職に関わる者はまず自分をどこまで知り、受け入れるかだと思うに至っています。あらためてその思いを強くしました。

ご講演いただきありがとうございました。

子供達との基本的な関わり方、どう接していくべきかという問題は今後もずっと抱えていくものだと思います。今回の講演で、様々な気づきを得ることができ、少し自分なりの関わり方が見えたような気がします。特に、成長の過程と声かけの種類、今を大切にする重要性について今後も意識して子供と他職種と一つの輪を作る様に関わっていくことができたらなと思っています。

心を打たれました。心を打たれたのが、お話の内容なのか、声なのか、空気感なのか、波動なのかわかりませんが…兎も角全てに心を打たれてしまいました。対面でお会いできたことに感謝しております。

自尊感情という言葉非常にずっと下りました。子供たちだけではなく、重症心身障害に関わる新人たちのこの点をどのようにたかめていくかということも必要な支援だなと感じました。

大変貴重なご講演をありがとうございました。

3年前に副島先生のご講演を拝聴してから、ずっと憧れの先生の 1 人です。

悩んでいる時、しんどいとき、1人じゃないと思わせてくれるなど、いつも思っています。

そんな方の大事な原点のお話し、とても興味深かったです。

自分にしかできない関わり方、自分の強みを見つけていきたいと思った

以前にも副島先生のお話を聞かせていただいたことがあります、何度聞いても、心を揺さぶられる感覚です。

いのち、「あとで」ではなくて今を大事にしよう、と思いました。

子どもが真ん中ではなくチームの一員、という考え方は、地域の学校に通う肢体不自由児のことで悩んでいたところだったので、お子さんのことを考えるヒントをいただけた気持ちです。

ありがとうございました。

子をもつ親として、日々子どもたちに接するPTとして、悩んできたことが整理できました。今までの声掛けで、特に我が子には、幾度となく傷つける言葉を投げかけたことを反省しながらお話を伺いました。

先生のお話を伺う機会を、頂けたことに、本当に感謝いたします。

ありがとうございました。

非常に感銘を受けました。また副島先生のご講演が聴講できることを楽しみにしております。

副島先生のお話を聞くのは初めてで、どんどんお話しに吸い込まれていきました。

この子たちは、どう思っているのかな？勇気をもって一歩踏み出したいです

自分の子どものことを考えると、ただただ涙がとまりませんでした。今日という日はだれにとってもはじめての日
自己選択、自己決定 大切にしたいと思います。

今回初めて副島先生の話をお聴きしました。『こどもも私もチームの一員』という言葉が印象的でした。

また拒否するというのも自己決定であり、それを認めるということも印象的でした。拒否＝悪いこと、問題というニュアンスに捉えがちですが、自己決定と認めることで、相手を尊重できるような気がします。

先生の子どもたちに対する、深く温かい優しさや情熱に心打たれました。子どもたちの、表だけでなくその奥に何があるのか考え、それを受け止められるようになりたいです。子どもたちが、たすけて、つつだって言えるような、SCHを、大切にしていきたいです。

貴重なご講演ありがとうございました。

今日、副島先生のお話を聞くことができ、本当にこの会に参加できて良かったと感じました。

どこまでもこどもたちへのやさしさ、向かい合う責任感を改めて学びました。

専門性の縦軸があつての、活動等横の拡がりがある。というのをよりこの内容を深く言語化して、共有していく必要があるのではないかと感じました。どの職種にも当てはまることであると思います。

子ども一員チームモデルに感動しました。

遅れて聞き逃してしまいました。すみません。

副島先生の子どもたちへの関わりには、いつも勇気をもらえます。小児がんの子どもたちは、おうちでもいろんな感情を出してくれます。リハビリでは、遊ぶ、楽しむがメインで、教育的な関わりはできませんが、見た目などを気にする子が多く、学校にはなかなか行きたがりません。そのような子たちにも、訪問授業が適応される日が来るとよいなと改めて思いました。

お子さんに関わる時に、今どの時点にいるのかの4つのタイプ分けと、それぞれの関わり方の留意点が、とても分かりやすかったです。

大人が何をすべきかを、改めて考えさせられました。

副島先生の話は何度も拝聴してきましたが、最初の話から引き込まれました。授業の組み立て方をもう少し聴きたかったです。

副島先生と同業者である自分を情けなく思いました。

子供との関わり方についてや、課題を中心としたチームモデルなどためになる内容でした。

その子のマイナスな感情もプラスな感情にも裏には思いが隠されていることに気づき、小さな感情表出でも、せっかくなら表出してくれたものを見逃さないようにしようと思った。

自尊感情が本人に与える影響を知り、ちょっとしたことで本人にプラスなフィードバックができるよう今後意識していきたいです。

質問させていただき、いただいた言葉に救われました。助けてくださってありがとうございます。人を心から思っ
て、相手の思いを肌で感じて、自分のその時、その瞬間の感情も大切にしていきたいと思います。

以前、当院である埼玉医科大学総合医療センターでの講演会に参加させていただきました。お話を聞いてる中
で涙が止まらなかったのを覚えています。副島先生のお話をもっと早く聞けていれば、あの時あの子にどんな言
葉を返したろう。もっと隣に居てあげればよかったろうかと、あらゆる子供達との出来事を思い返してしま
いました。今後もセラピストとしての学びを怠らない。この言葉を胸に学び続けたいと思います。

副島さんの熱い気持ちを精一杯受け止めた時間でした。自分で選んで行動したい、私も同じです。自戒しながら
子供たちと関わっていききたいです。

私も他者と関わることは苦手です。しかし、勇気を出して外へ行動しようと思います。

勇気をだしてたくさんの人と関わり、つながりを作っていきたいと思いました。

自分の基本的自尊感情も高められたらいいなと思いました。少し自分に向き合えたような気がします

いつも涙なしには聴くことのできない副島先生のお話。今回もたくさんところが震えました。注射のお話、改めて
胸に刺さりました。

子供達とお弁当を紙粘土作る、というお話は目から鱗でした。重心の方は経口摂取ができない方が多い中で、
どうしてもその方達の前で食事をしたり、食事の話をするのがいけないことのように感じていたので、心にふ
たをしないことが大事だという話は、どこか心が楽になりました。

また、子供は専門性を見ている、という話は、ご利用者の優しさに甘えず、自己研鑽をしていかななくては、と改めて
これから頑張ろうと思いました。

勇気を貯める。子どもも含めたチームモデルはとてもそうだと思います。

ありがとうございました。

沢山の気づきのある講演でした。思い出しながら臨床に活かしていきたいです。

何を中心に考えなくてはいけないか理解できました

肯定感のお話がとても腑に落ち、臨床の中で一つの視点として持ち続けたいと思いました。

今まで関わってきた方々のことを、自分を思い出し、勇気を頂けました。またその反面、専門性も磨き続けようと
も思えました。

学べました。有難うございました。

A 信頼できる先生と思い、学べました。

お優しく明晰で 視点や教育指針が明確で実践が豊かだと思いました。

改めて振り返ってました

1 本日の内容 ① ② ③ 確かだと思います。

2 自尊感情を育む 肯定的な自己イメージへ ……

3 成長の課程

特に どうせ…の低くて低い自尊心 … こどもたち 成人方々…

何人か思い出します つらいです

彼に あの彼にそういていけば…前を向き行きようとしてくれたらろう

彼が希望した カヌーあそび 私は提供できたかも・・・ 逝きました。

B 私の許容量の低さから「子ども一員チームモデル」に疑問を感じた発言したが不明瞭発言で反省しました。

福井の辻先生の示唆的発言には感謝しました

私の印象 以下の表現でわかるでしょうか？

1 当事者も一員とすると

彼が私を客観視できる 試行しやすい 気が楽になる良さがある。

彼含めて参加者が今後の対応も明確になり共用できる。

2 でも当事者の意志が根本であり、医療選択も同様であるし、課題いろいろ。支え必要。

3 2 の選択が健康や生活や生き方選択などで気がかりがある時は、

4 その時の「課題・問題点」において 当事者に対峙する必要がある時は、最適なキーパーソンがサポートする。その者は限定される筈である。

5 その件で

①当事者との関係性が成立しているは大前提であり ②は変更となるが

②その件での当事者の精神世界含めたその件の実績の歴史を知り、

③そして 支援計画者が、また、むしろ専門を要す件なら最適者が対峙し

ていくことで真の情報交換ができ共有でき前進に繋がる。傾向いはいろいろ。

ex 医療者、POST, 教育者 または生活支援者、友だち……

ピンキリもあるので必要あればそれは上手く調整このような

※ 実際はこのような調整含めたケースカンファレンスなどを実践してきました。

当事者にとって 有益なチーム作りは 普段から 作り合っていきたいものですね。

この度は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。本当に胸がいっぱいでした。自尊感情のお話、感情の後ろに願いがあるというお話、今を大切にしてお話、全て自分の関わる子ども達にも通じるお話で今後の支援にいかしていきたいと思います。

ネームプレートに書いてくださいましたひとりじゃないよという言葉は子どもに心から寄り添わないと絶対に言えない、責任のあるとてもあったかい言葉だと思います。私も先生のように子ども達にひとりじゃないよと言える理学療法士になりたいと思いました。本当にありがとうございました。

私は、学齡児の超重心の方をみるが増えました。

リハビリをしても感情の表出を受け取れたと感じることはほとんどないです。でも、感情を表出できない子どもでも何かしら感情はあると思います。筋の緩みや緊張からでも本人の感情を汲み取りながら本人を理解できるようにしたいです。子供も一員チームモデルを未来の自分きできているようになります。

ありがとうございました。

導入からとても心に響くお話をありがとうございました。日々悩むことが多く、「今日という日はだれにとってもはじめての日なのだから…」に救われました。どんな感情も大切にすることを患者さんにも自分にも心がけたいと思いました。

先生の講演を聞いている中で、子ども達の話がまるで自分の心に直接響くような、言葉で上手く説明できないけれど、きっとこの先も忘れられないであろう感情になりました。

子どもの反応の裏側の感情、子どもがチームの一員となって課題や困難に立ち向かうこと、日々関わる上で非常に大切なことを学びました。副島先生ありがとうございました。

子供たちへの接し方や関わり方のお話し、まさに目から鱗が落ちるようにとても感動致しました。貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。

ご自分の文化に翻訳を

今日という日は誰にとっても初めての日だからうまくいなくても良い

勇気は貯めるものなど多くの学びがありました

「勇気は貯めるもの」との言葉、とても心に響きました。

小、中学時代のクラスメートに、白血病の友人がついて、昨日まで仲良く遊んでいたのに、突然会えなくなってしまった悲しさや、よく理解できずお葬式に参列した日、もう会えないと分かった時に、自分の命のありがたさと、尊さを深く考えた事を思い出しました。

放課後デイにきている子ども達の中には、かん黙になる子もいれば、普通小学校に通っている子は特に、デイでは別人のようにエネルギー言動で自分を表現してリラックスできる子もいて、真っ直ぐな心の目で大人達、友人達の言動を見抜き、場面々々で大人よりも素直に臨機応変に立ち回り、子ども達なりの方法で自分を大切に守りながら生活しているのだと感じます。

普段、ポジティブで活発に活動している子であっても、友人関係や学校、部活、家庭の中での悩みや、未来をイメージできず悩み葛藤しているようで、支援が「家に帰りたくない」と、我が子の友達が泊まりにきたり、親には言えない悩み事を話してくれる子ども達もいます。我が子から話を聞いても、普段からお利口すぎたり、怒られると思えば不満があっても親に反論出来ない子や感情や自分の欲求が分からない子もいて、自分を大切に出来ない子や大切にしようと思えない子が増えていないかな…と、子ども達の必要以上の気遣いに、心配と不憚に思う事があります。

私達も、不安や辛い事があれば、誰かに相談したり助けを求めるように、不安や傷ついた気持ちを話せ、受け止めてくれる場所が一つでもあれば、きっと勇気がたまり、親に反論したり、家出や自殺、犯罪に巻き込まれる事を防いだり、自分の命や、そのままの存在を愛し、大切にすることを育めると思います。「自分で自分を大切に」するためには、やはり愛情を受け取る経験を沢山して、助けや協力を求める事を当たり前の環境を作っていく事は、私達大人の大事な役目だと改めて教えて頂きました。

また、兄弟が重度の障害があり、小さな時から介護や支援の一端を担うケアラーとしてきた子ども達の中には、事業所を立ち上げた親をもつ子もいるのですが、私の知る中では、親の苦悩を理解し、支援して頑張っているのに、その親の疲労や苦悩の捌け口として蹴り飛ばされたり、包丁を出して怒鳴りあう両親の様子を見聞きしながら、心身の痛みと恐怖を目の当たりしながらも平然を装い暮らさざるを得ない子達もいます。この子達は、この日常をおかしいと感じ、はたして友人や先生に助けを求められているのかと心配になります。虐待や DV の経験が精神や思考に影響したまま、虐待が連鎖する可能性も高いのですが、将来、この子達も似たような職業につき、同様な価値観の大人にならないように、ヤングケアラーの子ども達の尊厳を守る必要性と、その重要性を強く感じます。重心児者に関わる医療職や福祉職、教員、保育士などの職員のケアの本質や倫理観の感受性がより一層し、子ども達に優しい愛情を注げるよう、もっと沢山のご家族や養育者、支援者の方に先生のお話を届けて下さるようお願いしております。

お願いできる機会がありましたら、どうぞ宜しくお願いいたします。

院内学級の先生からお話を聞くのは初めてでした。ありがとうございました。

とても、参考になりました。

「どんな感情も大切するかかわり」の重要さを強く感じました。対象児のご家族の困りの中で、「よく癩癩を起こすから大変です。どうしたらいいですか?」「この子はよく泣きます。心が弱いんですね。」というお話を聞きます。そしてその時の声掛けや提案を悩むことがあります。副島先生の「感情の裏には願いがある」という言葉が

とても心に響きました。その子の願いを感じ取ってあげることがいかに重要かということに気づくことができました。

最初から最期まで感動し続けるお話を聞け、とても心が熱くなりました。必要なときに行動できるよう、「勇気を貯める」ことを日々していきたいと思いました。

また、子どもたちの小さな声もきちんと聞きとり、その感情に対して支援・サポートできるセラピストになりたいと思いました。

違う職種からの考え方を学ぶことができました。

専門性を高めることを意識しました。

すごく感動しました。子ども達とのエピソードをリアルに感じました。

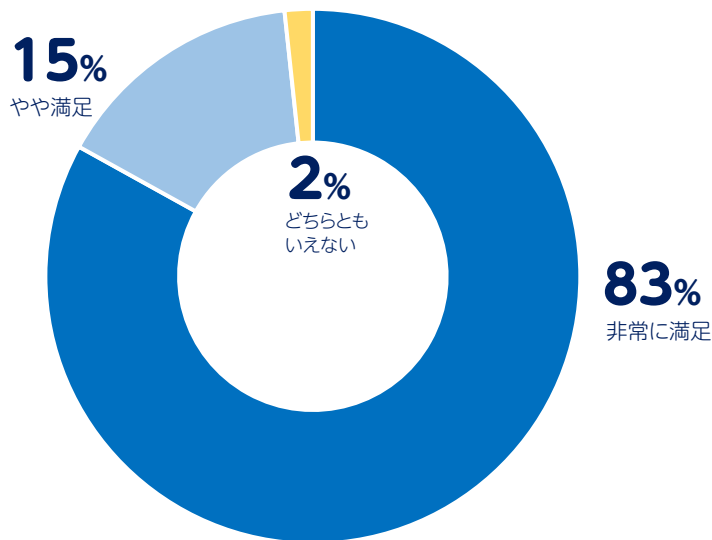
子どもに愛情をそそいで、あなたは大切な 1 人ということをしっかり伝えていきたいです。

私自身も私のままで良いと思えると同時に専門職として自己研鑽し子ども達の前に立ち続けたいと思います。

自尊感情の話はあまり馴染みがなかったため理解が難しかったです(どの様に関わるか等)、理学療法士でない方の講演でとても刺激を受け、今後考えてセラピーを行っていこうと思いました。

自分の感情が動くのを感じ、それを受け止める時間になりました。その子の自尊感情を育むために、向き合う私たちはまず自分自身を知ること、そして相手のありのままを受け止めることが大切だと知りました。「私」を大切にすることと、PT のとしての専門性を大切にすることは相対するものではなくどちらも必要だとよくわかりました。

* 特別講演「重症心身障害療育の原点」(田中総一郎 氏)について



熱く語って頂き、在宅で看取るということ、親御さんの気持ちをより感じる事が出来ました。施設で看取ることが、親御さんにとっての希望ではなくても、現状施設で、最後を迎える方に何をしていくか考えられました。先生の話、話し方、変わらず好きです。先生が自宅に来てくれたら、どんなに安心か。患者さんたちとのほっこりエピソードに、心がほっこりでした。

リモートでしたので、途中途中聞き取れなかったのが残念でした。

18歳以上の方々への支援の基本を学びなおせました。ありがとうございました

在宅で関わる中でお子様だけではなく、親御様のメンタルの変化も含めて、その子を取り巻く環境を意識されているんだなと思いました。

本人、ご家族がどうしたら幸せになるかを日々考えて行動していきたいと思います。

事情がありオンラインで繋げましたが、途中声がこもり聞こえない箇所が多かったのが残念でした。

地域に繋げていく時にリハビリ職種だけでなく、学校の先生にもお願いすることがありますが、先生が指導されているのを見て、まだと交流しなければならぬと感じました。手紙、動画の限界を感じました。

地域医療、訪問診療にかける意気込みに胸打たれました。

ご講演いただきありがとうございました。

訪問事業を通じた体験や多視点から捉えた話を聞くことができ、在宅ケア特有の問題点や小児医療での現状をわかりやすく捉え、共感することができました。本人とご家族に寄り添いながら医療に携ることの重要性と役割についてももう一度自分自身で振り返りながら、今後の業務に取り組んでいこうと思います。

急なお願いでzoomだったのが残念です。先生の声を直接聞きたかったです。

医療的ケアのある子どもたちに真摯に向き合い、人生をかけて守っている先生の姿非常に感銘を受けました。

いつも貴重なご講演ありがとうございます。

田中先生のひとつひとつのものごとの伝え方にはとさせられます。

柔らかな物腰と滲み出る安心感がどこからくるのだろうと、お話をワクワク聞かせていただきました。

最後のほうの音声が届かなくなり、しっかり聞き取れなかったのが残念でした

訪問のことももっと知ってみたいと思った

在宅医療、地域で、と言葉は聞くものの、実際のご様子などを先生から聞くことができ、大切さを知ることができました。

「家では落ち着いているんです」と外来リハに来たお母さん方がよくおっしゃるのですが、安心できる場所って大事だな、と思います。

急遽だったと思いますし、Zoom だったので聞こえづらい部分があったので、また機会があれば、次はぜひ対面でお話を聞かせていただきたいと思いました。

先生のご講演は今年 3 回目です。

先生の実践にふれることができ、訪問診療について更に理解が深まりました。

少しでも明日のからの業務にいかしていきたいです。ありがとうございました。

後半、後ろの方は音声が聞こえにくいところがあり、少々残念でした。

以前にも聴講させて頂き、再度勉強させていただきました。

私が小児在宅の道に入ったきっかけは、横浜だったかと思うのですが。。重心 PT 研究会での田中先生のお話を聞いてからでした。

治療の前に肺炎予防の重要性。機械に頼りつつある自分の施設です。姿勢管理の必要性を改めて感じました。

こどもたちのお仕事として、愛されることが入っていることが印象的でした。拠り所を持たずに成長し、自傷や他害行動がみられるこどもたちのことを思い出しました。

家庭で過ごすこどもたちが、家の 1 番明るく賑やかなところで過ごしている写真を見て、わたしたちのもとに通ってきてくれているこどもたちは、これだけみんなに愛されて生きているこどもたちなんだということを改めて実感すると同時に、自分のセラピーを再考していくきっかけにしたいと思いました。

医ケアの考え方、当たり前なのかもしれませんが、あくまで生活を補助するためのものであり、これが普通のことということが印象に残りました。だからこそ、医ケアがあるから〇〇はできない、〇〇には出かけられない等の言い訳にしないようにしたいなと感じました。それは、彼ら、彼女らにとって当たり前のことなので。

貴重なご講演ありがとうございました。

ズームだったということもあってか聞き取りづらいところが多々ありました。

講演の内容は非常に興味深いもので、またぜひお話が聞ければと思います。

音声が聞き取りにくいところあり、残念な感じでした。

ケアの大変さを前面に出すのではなく、「生きる子が増えた」これだと思いました。

仕方がないところではありますがやや音声が聞き取りにくかったところが残念でした。現場でも移行期医療の課題に直面しているので、移行期医療をテーマにまたお話がうかがえたらありがたいです。

田中先生の語りにはいつも惹かれてしまいますが、今回の内容も愛に溢れていて素敵でした。

うちの職場は生活を重視できるはずの施設なのですが、まだまだ医療職側の考え方に不要な治療を押し付ける傾向があるように感じています。

これを機に改めて話し合いができる場を設けていこうと思います。

田中先生の子どもたち、家族への関わりは、いつも素敵です。そして、そこについやす労力と愛情もまた他の先生にはないと感じています。命の重さ、家族と子どもたちが生きてきた人生、どの世代でもどの環境でも変わらずそこにあってほしいと私も在宅で切に願います。

大腸癌だったけど、最期に食べたい物をたらふく食べて満足して亡くなっていった男性のケースを伺い、病院に入院したら絶対に保障出来ないかけがえのない対応をご家族と一緒に出来たんだなあ、改めて訪問診療の大切さと素晴らしさを感じました。

また、胸郭を刺激するマッサージを他職種やご家族がやれるように、実地でしっかり体験して身につける方法も、具体的で分かりやすかったです。

zoom での講演になりましたが、あの内容話せるのは、田中先生だけだと思います。

何度聞いても素敵なお話です。田中先生のお話しされる口調も大好きです。

症例についてのお話については聴き入ってしまいました。在宅ケアでたいせつにしていることは施設入所の場合でも通じる場所があり意識していきたいと思います。

医療的ケアをしても病気じゃないんです。これがこの子の普通(健康)なんです。というのが心に残った。みんな家族からの深い愛に包まれて生活していることを感じ、愛されることの重要性を学んだ。

施設職員として入所と外来の利用者様を対応させていただいていますが、在宅で暮らされている方の生活までしっかり見て、イメージが出来るようにしたいと思いました。

安心してもらえる日常を1人でも多くのかたに、目の前の方たちと共に作っていき、その方の人生史の中に、自分のやっている理学療法や人としての付き合いがほんの一瞬でも残っていただけたら幸せだなあと思いました。

素敵なお話をありがとうございました。

私自身、現在は急性期病院に勤めておりますが将来は小児在宅理学療法に移行したいと考えています。そのため、在宅診療の現状に感銘を受けました。ありがとうございました。

命の授業を頂き、ありがとうございました。

こどもだけでなく、他者を大切に、自分も大切にすることが大切なことを改めて思うことができました。

小児在宅の特徴や考えていることを知ることが出来るとても勉強になりました。

毎回、温かく田中先生のお人柄が伺えてこちらも温かくなりました。

ほっこりしました。と同時に、いのちについて、改めて考える時間でした。みんな同じいのちで、いのちの重さに差はないはずなのに、世の中はそうはなっていないくて…。医療者だって一緒に揺れてもいいとおことば、こころが救われました。

田中先生の優しさが伝わってくる、とても楽しい公演でした。副島先生の子供たちは専門性を見ている、というお話にも通じると思いますが、田中先生の優しさの根底には、深い専門性があるのだ、と思います。専門性と優しさを備えた理学療法士に、なりたいと考えました。

あの優しいお話のしかたにいつも癒されながらお聞きさせていただきました。

リアルでもお話を聞く機会があったら嬉しいです。

往診の流れや、先生が熱意をもってこどもや家族に向き合っておられる姿に感銘を受けました。

命、生活の重要性を改めて理解できました

田中先生の優しそうなお人柄がオンラインでも伝わってきて、とても素敵でした。

母と横並びになれることの有り難さを大事にしたいです。

田中先生をありがとうございました。

田中先生の仙台で在宅訪問医療支援を始められた意向、エリア状況、そして、確たる実績など理解できました。ご本人、ご家族 皆様の支えになっていらっしゃるようですね。

地域連携されつつ 在宅支援 今後も先生のご縁深い素敵な地でご活躍ください。

さらなる尊敬に。

ご健康とご成功を祈っています。

(11月に愛子の先「山寺」に行きました そのうちに八木山 ZOO に行きます)

この度は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

お家で過ごしたいという、健康に生きていたら考えることもない当たり前の日常を、重症心身障害を持つ方ができるようにする先生の関わりは入所施設に務める自分としては、胸が締め付けられるような、希望を抱くようなグワングワンと胸がいっぱいになりました。先生のお話は本当に温かくとても勉強になりました。本当にありがとうございました。

私の職場でも、特に超重心の方は生命の安全が重要視されています。

社会生活の視点を広げ、私たちが生活の変化を感じれる環境設定を考え、少しでも快な気持ちになれるように考えていきたいです。

ありがとうございました。

素敵なお話をありがとうございました。患者さんの生活に寄り添うことの大切さを改めて、考えさせられました。

自宅の安心感も病院の安心感もある。ACP で意思決定するのではなく一緒に選ぶを積み重ねる。最期は本人たちが決めている。

愛に溢れた「いのち」の講演、ありがとうございました。

在宅医療のお話は自分にとって初めて聞くお話ばかりでした。訪問医療の大変さ、大切さを改めて痛感致しました。貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。

医者は親子と対面する、セラピストは親と並んで子どもを見る。だから田中先生も並んで見るようにしているという軸が素晴らしいと思いました。共に治療を選択する過程を大事にするというのは我々も大事にしていけないといけないと思った

医ケアの必要な子ども達は沢山のチューブも普通の事でも、住み慣れた場所と親しい人、家族がいる環境の中で過ごしていく事は、いつもの生活音や聞き慣れた声、いつもの香り、目にうつる風景がそこにはあり、子ども達、家族も、病室よりも余計なストレスを感じる事を減らして暮らしていけるのではないかと感じます。

しかし、日々の介護では、外出が必要となる場合、時間の使い方も、よそいきの準備も、保護者や養育者に時間の余裕が必要で、また、健康でなければ体力的にも精神的にも病院に行く事すら面倒になり、後回しにされてしまう事もあるかと思えます。

自分のエネルギー状態が満たされていないければ、自分の事でいっぱい、ご家族や子ども達に目を向けて支援していく事は難しくなると思うので、自宅の暮らし、家庭の中でピリピリと冷たいネガティブな感情や雰囲気にならないためにも、訪問により身近な家族の健康を配慮したり、頑張っているご家族の心を支え、整え、暮らしと思い寄り添いながら支援していく事が大切だと改めて感じました。

柔らかな関わり合いを通して、ご家族と支援する側で仲間やチームとなり笑い、繋がりを感しながら暮らしを紡いでいく事で、各々のご家庭にあった、より快適な暮らしと幸せの形を考え、一緒に作っておられる様子に、こちらも幸せな気持ちをお裾分けして頂けました。どうもありがとうございました。

先生のように、優しい心で利用者さんたちと接していきたいと思いました。

とても、参考になりました。

「医療的ケアをしても病気じゃない。これがこの子の普通。」というご家族の捉え方は、重身の子のご家族とのやりとりを思い出すと本当にそうだなと思いました。ご家族の強さを感じる事がたくさんあります。でもその強さの中には努力、願い、不安、愛情、、、たくさんのものが隠されているということを改めて感じました。本人やご家族が安心して生活できる場所の選択肢を確保できるように私たちは考えて動いていかなければいけないなと思いました。

病院勤務であり、在宅でのケアなどは家族から聴取することしかできていないので、もっと在宅に目を向け、生活にも介入して生きなければならないと思いました。

今後も重心の方と関わっていく上で再度考えを改める機会となりました。

いつも優しい口調で話してくださる田中先生にすごく温かい気持ちになりました。

先生のあたたかい雰囲気にとても癒されました。

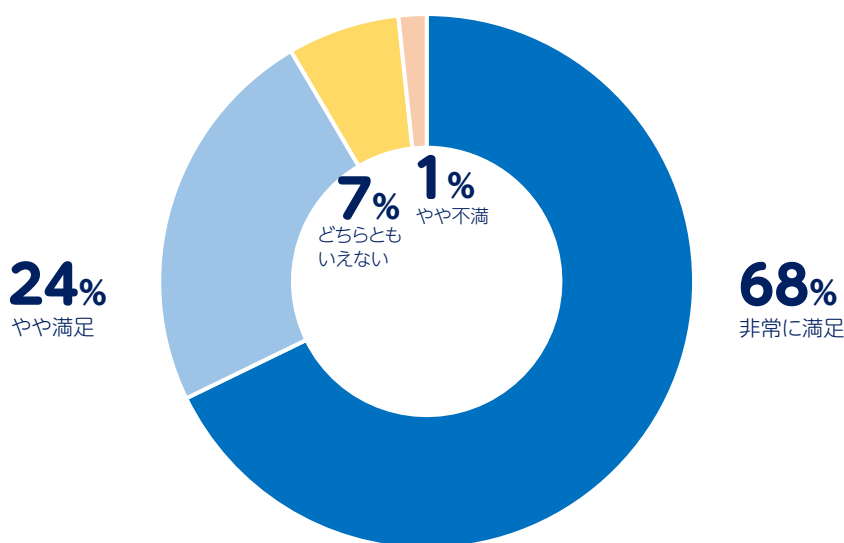
体調不良を防ぐために、今後もしっかり排痰などのできることをしていきたいです。

18歳から小児科から内科へ変わる時、どんな風に今までの生き方を伝えていけばいいのかという話、身近にも同じようなお子さんがいらっしゃるのとても共感しました。

先生の明るい楽しい講演が和みました。

理学療法士のことを「お母さんと横ならびで、同じ方向を向いて並走できるって素敵」と表現して下さったことにとっても嬉しく、自分はそのような理学療法士でいられているだろうかと考えさせられました。呼吸理学療法については、お母さんにうまく伝えられていないなという反省もあり、一緒に見て感じてもらう大切さを感じました。

** パネルディスカッション 「原点から未来へ」



研究会の今後と、重心が置かれている状況は厳しいなと思う

参加出来ず申し訳ありませんでした。

日常生活と非日常生活がかけ離れているように感じました。日々の生活の安定・基本動作の保障が理学療法の目標だと思います。理学療法士の介入の効果や結果について考えてもよいように思えました

すいません、参加できませんでした。

講壇された方々の仲の良さはとてもよく分かり、この仲の良さから本会が安定して継続されていることに感謝しております。

しかし、内輪の話で盛り上がる事が多く、ついていけない場面もありました。

パネルディスカッションであるので、メンバー選択の際に違う経験・考えの人を入れることでディスカッションになるのではないのでしょうか。

子供の人権に寄り添おうと思いました。

最後にでてきたキーワード「つながる」に胸熱くなりました。

各先生方の原点を知り、共通点や相違点を知ることができて自分自身の原点を振り返る大切な時間になりました。

私はまだ未来をしっかりと見つめる事はできていません。まずは今を大切にしていきたいと思います。その中で、先生方の様に今後の自分の未来、利用者様の未来、重心ケア全体の未来についても少しずつ視野を広げていくことができればと思います。

先代のエネルギーを引き継ぐことへの責任や難しさを感じました。

特にありません

未来についてももう少しお聞きしたかったです。

参加者の悩みを聞き、同じようなことで悩んでいる人がいることを知れたことがよかった

会場ともディスカッションしており、自分はなかなか発言はできませんが、話しやすい雰囲気を感じられて、とてもよかったです。

いろんな考え方があり、何か1つが正解ではないし、だからこそ、自分の考えや気持ちとちゃんと向き合えるように日々過ごしたいと思いました。

副島先生がお話しされた「子供も一員チームモデル？」はお恥ずかしいですが、初めて聞きました。子どもたちを中心に置くといいながら、最終的にはかやの外に置いて、大人たちがすべて良かれと決めて来たことが、数多くあることに気付かされました。

高塩先生のセンスのお話しでは、新人さんに自分のセンスを押し付けてしまっていることがあると反省しました。

明日からの新人さんの育成にも役立つお話を伺えて参考になりました。

最後に花井先生がまとめられた今後の重症心身障害児の理学療法の行く末についても、ハッとさせられました。また若い方々のご活躍に触れ、自分も頑張ろうという気持ちも頂けました。

ありがとうございました。

もっと原点からたくさんお話を伺いたいと思いました

未来へとなるとテーマが大きくなり、各々が考える複数の未来を感じました。

未来は多くあって良いですが、1つの方向性は重心理学療法研究会が旗振りとなり、示していける未来が必要だと感じました。

センスをみがき、感受性をとぎすます。分野こえて視野を広げること

常に学び続けること

縦の知識と技術 横の自分という個性

色々と考えさせられました。

ただ、ミーニングになってたことに反省し、自分のセンスを大切にしたいと思いました。

同世代の方たちが立ち上げた勉強会が、大きな広がりを持って、切磋琢磨している様子を見て正直うらやましく思いました。

仲間がいるっていうのは、それだけで力になるものだなあと感じました。

専門性、深く掘り下げるベクトルをもっと自分磨きをしたいなと思いました。

また、困難や課題を中心とした考え方に私もシフトする必要性を感じました。

名だたる先生方それぞれの現職の原点と言えるお話を聞くことができて光栄でした。

自分がこの分野に進むことを決めるときっかけを改めて振り返ろうと思います。

原点を見つめなおすことそこから自分の経験、つながりを通して変化したことを見つめなおすことで、この先を考えられると思いました。

みなさまの貴重な原点をうかがうことができてよかったです。

これまでの自分が学んできた、経験してきた環境を振り返ると、素晴らしい人との出会いがあり、知識と技術を引き継ごうとしてくれる師がいてとても恵まれていたと感じています。

ある程度の経験を経て、働く地域も変わり、この所で常々思うのは知識や技術を同じ目線で共有したり話し合いのできる同職種が少なく、子ども達のフォローに同じような考え方で話せる人が育っていない現状もあります。

自分というよりは地域としての1つの展望として、人材の育成を行っていかなくてはいけないと感じていますし、その一部を自分たちが執っていかなくてはいけないと考えています。

知識と技術、プラス自分のセンス。どれもまだまだ未熟ですが、このような機会にいろんなことを吸収して、自分の個性にしていくことができればよいと感じました。

パネラーの皆様の原点をお聴き出来て、改めて「人との繋がり」の大切さを痛感しました。

それぞれの方の「未来」像は、理想に近づくまでの大変さを感じましたが、きっと実現していけると確信が持てました。

活発な意見交換が出来て良かったです。

職種や立場を超えて人と関わろうと大切にしなければならぬこととは何かというお話を聞かせていただいたように思います

皆さんの熱い思いを感じました。繋がり的重要性、また高塩先生の PT 以外での繋がりという点でも副島先生のお話を聴けたのはとても良かったです。

一人一人別の人間であることを理解し、その子に合わせた理学療法や関わりを行うこと、その子が思っていることに寄り添うこと、そういったことを意識する人がその子も周りにたくさんいればいるほど、その子の未来は輝くと感じました。

たくさんの先生方が描く未来の形について知ることができてとても有意義な時間でした。

ぼくたち重心 PT の未来、目の前の利用者さんの未来はきっと明るいと感じて頑張ります。

病院から放課後デイまで幅広い分野で活躍されている皆様のお話、皆様の思う未来のお話をうけてとても感銘を受けました。それと同時に、自分の思う未来と考えた時に私のフォーカスはまだ自分自身だということにも気づきました。フォーカスを彼らに当てた時、私は障害を持つ方が当たり前で健常者と生活をする未来を望みます。そのために自分ができる事は、今はまだはっきりとは見えません。そのためにも学びを怠らず精進していきたいとおもいます。

若い方もベテランの方も、それぞれに感じたことをそのまま出していい、この研究会が安心して参加できる存在であることを再確認できました。

自分にとってのこれからについても、考えるきっかけになりました。

ありがとうございました。

どんな未来にするかは自分たち次第だなというのを実感しました。

暗中摸索、正解がない問題をみんなで抱えている

それぞれの原点と、思い描く未来について知ることができたこと、フロアーとディスカッションできたこと、貴重な時間でした。

日頃、ただただすごいなあ、と思っていた先輩方にも、新人時代があつて、悩みながらここまでできたのだ、と思うと勇気づけられました。

今の自分に何が出来るか、未来にどう繋がられるか、改めて考える良い機会になりました。

それぞれの原点のお話を聞いてよかったです。未来へ繋げていきましょう。

色々な意見が聞けて良かったです。

未来は自身で創造するものですが、各々違って、ヒトに寄り添い、よりよい未来へ変革させていきたいと思えます。その力がこの研究会にはあると思います

自分事に置き換えた時に、どうなんだろう、と考える時間になりました。

原点を思い返したら、今までのターニングポイントを振り返れました。未来は、まずは今日何するか、から始めたいです。

情報1

らっこプール仲間バグバグっ子など彼らやお母様方「家族一緒 そして 自由がある」からと 在宅選択の明確な理由を語ります。そして、手助け受けないと成り立たない。

そして 手抜きしないと身体持たないと話します。

例えば、そんなことなど語りながら ケア物品など手にし 足では雑巾で床を拭きながら、室内動き回っています。お子様が体調良くて睡眠時間3~4時間の方もいました。

訪問医師・看護・ヘルパーなど利用できる在宅支援をお受けしてるようです。

病的骨折の可能性もあり 重症児ほど自宅のリフター導入が必須です。東京や横浜や川崎は助成金保証は実績あり。全国もそうになってきましたか？

限りある中在宅スタートし始めるご家族はいらっしゃるようです。祖に際にどのような医ケア、介助の指導などうけたのかな十分な？ 地域の諸事情があるのでしょうか、最近ではレスパイトもなかなか厳しいとは会議中に話題になりましたね。

情報2

私的には6月に95歳の父を本人の希望もあり自宅で3カ月一緒に過ごし見送りました。

60代後半の今の私だからどうかでしたが、あと5年や10年先では不可能だったででしょう。その際に 訪問入浴事業も週3回利用しました。その情報では、呼吸器で発達期の入浴サービスにも行かれているとでした。活用できるかも？ 看護ステーションではよくお聞きしてましたがどうなのでしょう。

様々な質疑を通して、横も縦もどちらも大事だということをより深く理解できてとても良かったです。

先生方の原点、未来の思いを聞き、自分の悩みや今後の理学療法に対する考え方を整理できました。少しでも人の役に立てる自分でいたいと思えました。

たくさんのお話が聞いて良かったです。本人も交えて困難や課題について考えていけたらいいなと改めて思いました。また、今よりもっと繋がる未来になるといいなと感じました。

専門性を持ってやってきたことを、一般化し、共通認識としてすり合わせていくことは今後必要になっていくだろうなと改めて思いました。

経験豊富な先生方のお話をお聞かせ頂き、自分の原点を見つめ直す機会を得る事が出来ました。自分の中で創り上げる未来への展望をモチベーションにして、仕事につなげて行けるように努力を惜しまずに邁進していく気持ちが持てました。ありがとうございました。

皆さんの原点からその先をお聞きすることができて改めて尊敬しました

私も、いくつもの原点がありますが、重心児者の方々と少しずつ仲良くなっていった時の喜びは忘れがたく、学生時代の実習中、担当していた子を抱っこしていると、「明日で終わるから今日で最後だよ」と職員さんから言われた時、「そんな事言わないで下さい」といいながら、急に涙が溢れてしまい泣きながら抱っこした事を今でも思い出します。こちらが涙していても、いつもと変わらず真ん丸の目で表情も変えず、素知らぬ顔でオナラをして、マイペースを買っている様子に、「そういうところが魅力だよ〜」と泣き笑いしながら実習の最後を迎えられ、ほん素敵な思い出です。「ただそこにいてくれること」で力や元気、癒し、笑いをくれる存在だったり、ちょっと油断すると体調を崩してしまう、おおらかさと繊細さを兼ね合わせた彼らの存在を、私は、決して粗雑に扱う事はできません。

権利擁護については、相談支援従事者研修内でも話を聞きますが、私の地域の訪問看護や医ケア児者研修などでは、ボリューム的には器機の管理や災害支援など、命にかかわる技術面の方が重視され、子ども達との関わり、心の触れあいや権利擁護について、しっかり語られていませんでした。

それについては、医ケアに携わる看護師さんが多く受講するとして、「看護倫理原則」を前提に、妥当な倫理観

や権利擁護についての視点を持ち合わせているとしてのことなのか、現場では呼吸ケアや災害時のリスク管理が生死に関わる事として重要視されてしまうからなのかは分かりませんが、どの場面であっても、人と人の関わりにおいて、「権利擁護」や「尊厳」については、目に見えない分、より丁寧にあつかうべく大切なテーマだと思っています。

今後、更に、医ケア支援に従事する看護師、介護士の方々の育成と支援者が増えると思われます。携わってきた現場だけでも、重心児者の家族支援者や他の支援者自身の愛着障害の問題や介護疲れ、倫理的感受性の違いや、運営上の利益優先などで、改善が必要と感じた事があり、そこから不適切な支援や虐待に移行してしまう事案もありました。ただ、その当事者は、それに気づいていない方もいて、それが、本当に改善を難しくさせます。権利擁護や子ども達へのかかり、虐待と子ども達の傷つき…などについて、重心児者に携わる医ケアコーディネーターになる看護師や保健師、相談員、介護士や教員の方々、訪問関係者、学生さん達なども含め、範囲を拡大して、今回のような思いが届けられることを、切に願います。

先輩方がどのように学んできたのか、お話を聞いてよかったです。

多様な生活をお互いに尊重し合うことが大事だと思いました。

シンポジストの皆様のお話を聞いて共通して感じたことは、私達セラピストは、対象者やそのご家族からしたら「先生」に見られてしまいがちですが、私たちの方が対象者から教えてもらうことがたくさんあるということです。私は新人でまだまだ未熟だからこそ、対象者やそのご家族、周りの関わっている方々と一緒に成長していきたいなと思いました。

登壇した先生方の原点を伺うことができ、自らの原点を再確認することができました。原点の想いを大切にしていって、子どもたち、家族、自分の未来へ繋げていきたいと思っています。

皆さんの原点をお聞きする良い経験となりました。自分の原点、また目指す先はどうなるのか、考えてみたいと思います。

それぞれの原点、それぞれの未来像を垣間見ることができました

お一人お一人の原点と未来のお話を聞いて、みなさん色々な経験をされながらここまでこられたんだなと思いました。

目の前の利用者様とそのご家族のために自己研鑽していくとともに横のつながりも作ってきたいです。

運営の方々の意見も伺えてよかったです。

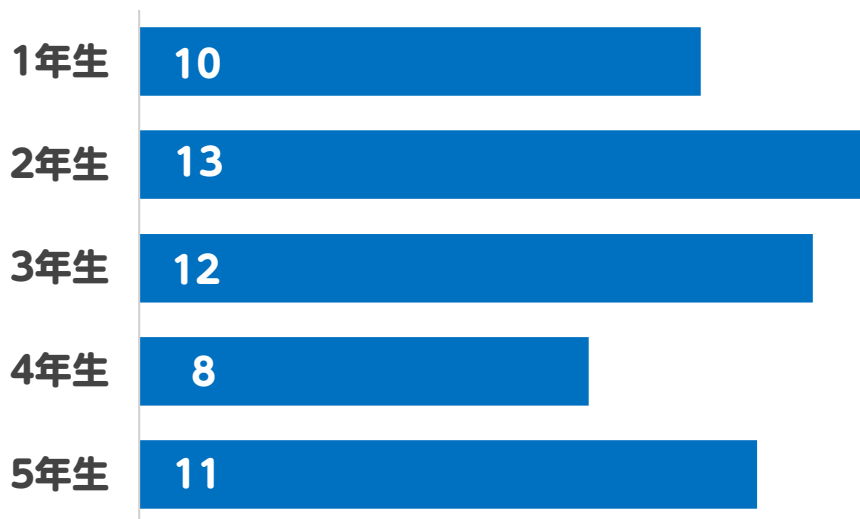
パネラーの先生方の未来に向けたお話にはそれぞれに気づきがあり、とても面白かったです。つながりについての話題の中で、副島先生が仰った「『つながりが大切』という経験をせずに育ってきた子どもたちもいる。つながりの生きなおしをする時間が必要」という言葉が心に残っています。フロアから濱瀬さんが「『セラピー』と『くらし』は対立ではなく、連続的でなければいけない」と仰っていたことにもハッとするところがありました。会場からの意見もたくさん聞いてよかったです。

**2日目

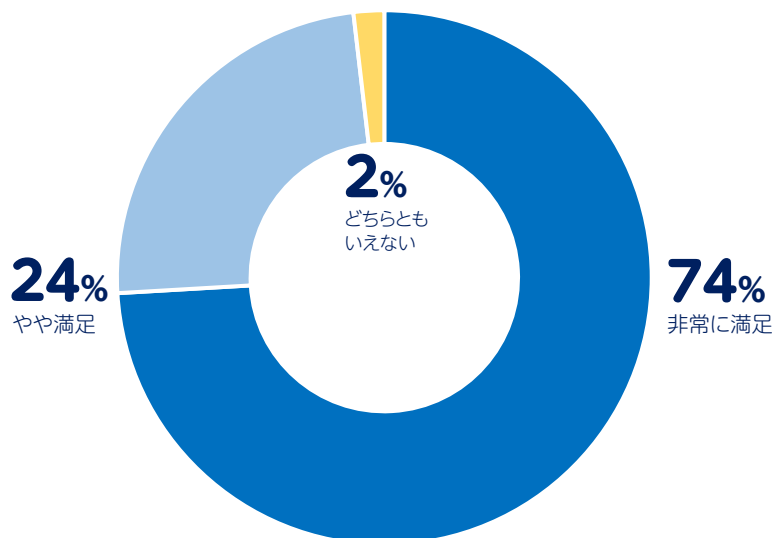
* アンケート回収率

2日目：78%（参加者 69名 回答者 54名）

アンケート回収者内訳



* グループワーク ～未来へ～



理学療法士の皆さんの層の厚さにうらやましさを感じたものでした。

効果判定について皆さんがそれぞれのお考えをお持ちで安心しました。

子どもと家族を支える社会のシステム作り、むずかしいと感じました。

PT15年目、小児2年目ということでピチピチの一年生の中に入れていただきました。

みなさん一年生ということもあり、相談させてもらいやすかったことと、今どんな風を感じたり悩んでいるかを知

ることができました。

他の学年に入ったら、どんな感じでグループワークできたかなあと感じる点もありました。

経験年数や職場環境から、専門職(理学療法)以外の仕事も多くなり、悩みも広がっているのが現状です。理学療法としてどうアプローチをするか。は大事なことであることを中心に考えながらも、それ以外のことに対して、重心・PTとしての悩みを共有・解決の糸口を見つける機会もあるとありがたいです。

家庭での家族の介護負担が話題になり、PTとして解決に向けて関わりたい領域ではあったが、障害福祉サービス分野にも大きく関わる場所でもあって、PTどおしで話し合っても解決の糸口が見出せない議論になったように思われた。

ファシリテーターさんのおかげでうまくまとめて頂けて良かった。

各地域での課題が共有できたことも良かった。

経験年数でのグループ分けも良かったです。

臨床場面の具体的な相談は別の機会にするのが良いと思います。

同じ悩みを持つたが、いるのだと横のつながりの大切さや温かさ、安心感を知ることができました。

いろいろな施設の、いろいろなご利用者様の話が聞けてよかったです

同じくらいの経験年数の方々と出会うことができ、同じような悩みを抱えているんだということに気づけてよかったです。コロナ禍もあり、人と会うことも減っているこの時期だったこともあり、おおげさかもしれないけれど、ひとりじゃないって思えた時間でした。

担任の先生方が話しやすい雰囲気を作って下さり、また生徒も積極的に話すことができ、とても良いディスカッションになりました。

経験年数で分けたことも良かったですし、テーマを事前に書いて発表するスタイルも流れとしてよかったと思います。改めてディスカッションの大切さを感じました。

輪が大きかったこと、悩みの種類が仕組みに基づくものが多かったこと、で散らかりがちになり、話しきれなさは正直ありました。ただ、最後にまとめてくださった内容はじっくりくるもので深くうなづかされました。ありがとうございました。

同年代の方々と話すことで、似た境遇。様々な立場がいることがとても刺激的でした。

あっという間でした。話せなかった話題もあり、少し話す人が偏ってしまったかなと(私も話しすぎ)思いました。私含めて、日々悩んでいる仲間がいたことにひと安心、そこから知識と引き出し増やしあていくには、情報交換は大切です。

せっかくの出会いなので、これからも相談できたらと思います。

PTの働く場が多岐にわたり、様々な地域や活躍の場でのお話を伺え、大変参考になりました。特に若い方々の思いや考えに触れることができ、まだまだ学ぶことは多いけれど、それでも今持っている知識や技術を若い方々に伝えていくこともしっかり取り組まなければと再認識しました。

今回初の試みということで、経験年数に分けられてはいましたが、20年以上の経験年数の差があり緊張しました。ディスカッションを聞いているだけでも勉強になりましたが、自己紹介以外話す機会が持てなかったことが申し訳ないです。初日に花井先生が言われていた自分の思いを言語化することは、苦手分野なので今後こう言った機会発言できるように常日頃から自分の考えや方向性を明確にするとともに、情報を自分なりに消化していきたいと思いました。

厳しい 孤立しがち そんな苦境は望まない 個人が負けないよう応援する

当研究会は 各人が交流しつつ学習の機会を提供できるでしょう それは基本的な内容 評価 セラピー ハンドリング スポーツ 健康と生活支援の情報や技術の共有 そして社会への提供提供など 考えながら前向

きに仲間と共に重症児者と共存していける そんなPTになりたい 迷ういながらは当然 そういう有意義で必要な仕事 前進していきましょう

狭くなりかけていた視野をまた広げることができました。

経験年数の近い人たちが同じ悩みを抱えて頑張っていることを知れて、安心もしましたし、また明日から頑張ろうと思うことができました。

この討論で自分が悩んでいることは、自分だけが悩んでいることではないことに気づきました。分からないけど何が分からないのかわからないというふわっとしたこともファシリテーターの先生を通じて具体化できました。次のステップへ進んでいくのにとっても良い討論会になったと感じました。

なかなか近い年代の方と多く関われる機会がなかったのですが、今回多くの人とお話しすることができ、悩みを共有できたこと、同じ悩みを抱えている人がいることを知れたこと、自分とは正反対の考え方で悩んでいる方などと出会うことができ、この会に参加することができて本当に良かったと感じました。

この繋がりは今後の支えにもなるのだろうと感じました。

経験年数が近い方達の考えていることや、悩んでいることが聞けたことは、勇気づけられるとともに、とてもよい刺激になりました。

自分も頑張らなくては、と改めておもいました。

同世代の考えていることや悩みなどが共有できたり、今後のつながりを得ることができました。

小児に関わっている先輩と10年以上離れており、同期もいないため、悩みを共感し合うという経験が入職してからありませんでした。そのため、入職してから月日が経つにつれて「こんなことで悩んでいて私は成長できているのか」と不安になることがよくありましたが、自分が日々の臨床で悩み不安になっていることを、他の方々も同じように感じているということを知ることができて、少し肩の力が抜けたような気がしています。

同年代で重心に関わる方がこんなにいるのかということと、皆同じような悩みを共有することができ今後の活力となりました。

私たち一年生の悩みは曖昧で、不安が全面に出たものばかりでした。ですが、どの職場で働き、異なる業務に従事する方も同じ様な悩みを抱えていることを知ることができ少し安心しました。

一年生が少ない業界、職場のため、同期が集まるこの貴重な機会を大切に、ネットワークを広げていくことができればと考えています。

非常に有意義な時間を過ごせました。是非、また同じ同年代での集まりがあることを望んでいます。

2年生は少しずつ知識と技術を徐々に身につけたいま、利用者さんに何が出来るのだろうか悩んでる人が多くて、それを共有できただけでも私はとても有意義な時間でした。

アットホームな環境を作り出してくれた、黒川さんと繁田さんには感謝しかありません。

黒川さんの名刺配りと頻度についての返答の仕方は明日から使わせて頂きます！

私の職場では、良い意味で、経験年数や職歴など関係なくフラットな関係なので、あまり同経験者を意識したことがありませんでした。

ですが、改めて同年代・同経験者で集まってみると、向かっている方向や考えている事がとても近く、一緒に相談し悩み合える関係性でとても嬉しかったです。

スパイダーの実践場面での活用なども、個別で話せたのでとても収穫が大きかったです。

担任の先生お二人の雰囲気作りや進行のお陰で、生徒全員が参加し発言でき、熱い意見交換がしやすい教室になっていたと思います。

つながりができて良かったです。最高！

経験年数が近い方達と悩みなどが相談できるととても有意義な時間を過ごすことができました。

グループワークでは「遊びに関して」と「モチベーション」に関して行いました。ファシリテーターの2人の先生のサポートはとても上手で皆様活発に意見交換できていました。自分は考えが上手くまとまらず言葉足らずとなり、積極的な参加といかなかったのが残念でした。次回はもっと積極的に参加したいと思います。

悩みはそれぞれ違うけれど、目の前のお子さん、利用者に対する思いは皆優しく、熱いものを感じました。こんなクラスメイトに出会えて本当に幸せです。ありがとうございました。この出会いを大切にしていきます。

意見を出しやすい雰囲気、流れを作っていただけたお陰で、今と未来についてみんな話合えたと思います。

同世代とたくさん話せて、つながりができてよかった。

悩んでいることが一緒だなと思ったり、そう考える人がどう解決しようとしているかなども聞けてよかった

アウトプットはとても大事で目で見えるように視覚化する大事さも学んだ

今後も、二年生の繋がりを続けていきたい

学年に分けてのグループワークにさせていただき、とても話しやすかったです。担任、副担任のお2人が、全員が話しやすいよう計画してくださったおかげで、とてもよい雰囲気で話ができつながりを作ることができました。話した内容もとても良かったです、それ以上にここでできたつながりを大切にしたいと思っています。

参加のみなさまの考えを直接うかがうことができたのが大きな収穫となりました。

面白い取り組み、挑戦的な研修でした!!ほぼ同期で和気あいあい楽しかったです!

臨床にでてから10年が過ぎたにも関わらず、自分はまだまだ何もわかってないと日々思い知らされている一方で、周りからは中堅という目でみられ求められることがあって。どうしたものかといつも葛藤していますが、同学年のみなさんとお話できたことで、みんな同じような悩みを持っていることがわかり、少しところが軽くなりました。時間、足りませんでした。

正直グループワークの経験が少なく不安でしたが、経験年数の近い方でグループを作って頂いたこと、担任、副担任の方々に話しやすい環境を作って頂いたことでとても有意義な時間を過ごすことができました。同じような悩みを共有し、今後に繋ぐことができたことがとても良かったです。ありがとうございました。

同世代ならではの悩みを共有できる機会はとても貴重で、繋がりをつくる意味でもとても有意義でした。担任、副担任の方々の進行も雰囲気づくりやまとめ方まで、とても参考になる素敵なグループワークでした。

未来に向けて、同じ世代で、今の課題を共有できて良かったです。

担任、副担任、生徒のみなさんと安心感のある中でグループワークできたことが印象的でした。

ありがたいことに、私はグループワークでお話させて頂きました。自分の想いを言葉にして、皆さんに話、共有できたこと。自分が大切にしている”ICFをまわす”ことも、受け止めて頂きました。全国に障害がある方に対して一生懸命取り組んでいる同士のいること、出会えたことが財産となりました。今後この良きつながりが、何かつながって、何か社会に貢献できたら、素敵だなと感じております。

同じ経験年数で話せることは緊張もせず話ができ良かったです。また楽しく他施設の人と交流が持てました久しぶりの対面で、経験年数が近い方々とじっくりグループワークできて、良い時間をすごせました。自分の立ち位置がわかりにくくなって、自分自身を振り返る時期にあるのは自分だけではないとわかり、その点では今ここにいて悩んでも良いのだと思えることができました。また、オンラインのグループワークでは名刺交換もできず、次に繋がらないですが、繋がりを持つことができ良かったです。

同じ重心の経験年数の方々とお話をして似たような悩みや感じていることができ共感、共有をすることができて良かったです。またその際にできた繋がり(LINEグループ)でその後も情報共有できてとてもためになりました。

中堅以上が集まった感じで、みなさん教える立場で悩んでいることや、どうしているかが共有できて良かったです。

先生たちの程よいサポート話しやすかったと思います。

テーマも複数出て、今自分たちがしている事や困っている事など沢山お話ができて良かったです。新しい動きを作る立場の方もおられて、とても勉強になり、刺激を受けました。

同年代と悩みや課題を共有できた。

同じ経験年数だからというのもあってか、自分と同様に他の皆さんもある程度考え方に答えがありつつもその先や他の意見を探している方が多い印象でした。経験則からの意見がたくさん聞けてとても面白い話し合いでしたし、視野を広げることもできて満足です。

1人職場や先輩が外に出て行かない職場の若手もかなり増えてきているので、研修や学会の時間の使い方や懇親会で交流する方法も学ばずに、座っているだけで受け身のまま終わってしまうことも多い現状を自分の周りでもよく見るようになりました。

そういう方にも知見を広める意味でディスカッション形式は有意義になると思います。

また同じ形式で同様に行うのであれば、ある程度テーマを決めたグループとそうでないグループに分けて話をするのも良いのかなあと。

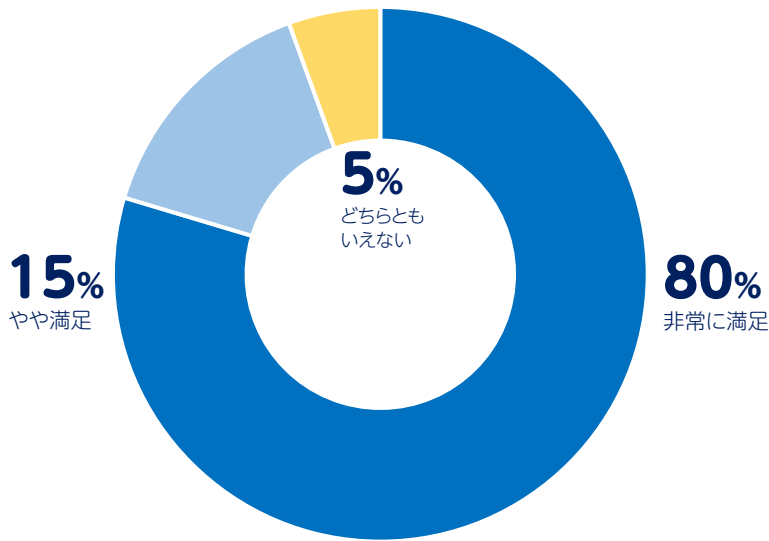
あと発表の方法についても自由度をもたすのであれば「これは使えますよ～」などの案内を事前にしてもらうと（もしくはファシリテーター側で提示したり選べるようにしておいてもらえる）、発表に慣れている人たちはやりやすいかなーと思います。

同じ世代で抱える悩みや不安など、改めて話し合うことができみんな同じなんだなと少し安心することができました。同時に凄く優秀な方も多くて自分ももっとやらないという戒めにもなりました

職歴が近い世代のグループワークであったため、似たような悩みを共有することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、自分の知らない分野の話聞くことができ、新しい刺激ももらえました。横のつながりを大切にして、悩みや様々な情報を共有していきたいと思いました。今後ともよろしく願いいたします。経験の前提にあり、社会的な視点が広がりの必要性を考えていること、それと専門性をつなげていくこと、経験を次世代に伝える事。いつまでもやれない中で、どういう引き際があるのかを考えてしまいます。

次の世代に何を伝えるのか、その伝え方は？スペシャリストとジェネラリストの両輪が、重要性！

* 全体討論



午後プログラムに参加できず残念でした。

花井先生の医療から重身のリハビリは追い出されるのではないかとのアナウンスが印象的でした。

早退したため、参加していません。申し訳ありませんでした。

1年生から5年生までそれぞれの考え方や感じておられることを知ることができ、同じようなことに悩まれていると知ることができてよかったです。

時間の関係上難しかったと思いますが他の学年ではどんなグループワークだったのかもっと知りたいなあと思いました。

会の運営・セミナーの開催、本職が忙しい中、いつもありがとうございます。

顔を見て、雰囲気を感じて実施できるのは良かった・うれしかったです。

経験年数の違い・職域の違いと以前より広がる中で、一つのテーマでセミナーを開催されることは大変なことだと思います。

今後のテーマなどは、会員の意見をくみ上げつつも、本部の方々がやりたいことを行っていただければと思います。

意見がある方は、本部に入っていていただいてその意見を活かしていただく覚悟の上での発言だと思います。

課題や困りごとが発表されたと思うが、解決に向けた糸口やヒントが得られるところまで触られると良かったように思った。

世代による課題の感じ方の違いは興味深かった。センスを共有できた時間になったと思う。

経験年数での違いを知れて良かったです。

ほかの学年の考えを聞いて共感できることもあれば、先輩方の視点を持たなければならぬと焦りがありました。

改めて最後にグループで話す気がありよかった

話し合った内容を可視化することで、また頭の整理をすることもできました。ほかのグループで出た話し合いの内容を聞くこともできて、違う立場での悩みにも気づけたと思います。

他のグループに伝えるためにまとめる作業も自分たちのグループの振り返りとして行うことができグループ内での結束につながった。

他グループの発表シートが見えにくかった点が少し残念です。写真を撮って前方に大スクリーンに映すなどの方法はでしょうか？

総括で全体像が見えてきて、みんな楽しそうでああ、そうだった、本会は常に自分のその時の立ち位置を再確認することができ、踏ん張る力をもらえる場所だったと実感できてとても嬉しかったです。

タテとヨコをより意識していけるいい機会でした。そして、各年代様々なことを悩ませているんだなと痛感しました。

最後に榎勢さんが

横の遊び、FUN を広げても縦の知識技術を掘らないと、全体的大きくなるとおっしゃっていたことが、全てだと思いました。

先輩方は、縦があって今は横を広げています。私はどちらかといえば横の遊び、FUN を広げて、それに広がらず悩んでいるのは、縦の知識技術がもっと足りないんだと、

また日々、基礎的なところや文献での知見など、学ばなければならないと再認識しました。家庭と仕事、難しく、知識技術の勉強会も仲間がほしいな～と思いました。

数年振りの対面は、いろんな方と話げできたので、参加してよかったです。

今までこの会で多くのことを教えて頂きました。4年ぶりにこの会に参加させて頂き、さらに若い皆様に受け継がれていることを感じました。明日の自分の働き方を見つめ直す良い機会となりました。

ありがとうございました。

まず各学年の方々がとても仲良くなっていたのが印象的でした。結果を聞きながら、下の世代の方の報告に大きく頷けたり、経験年数は変わっても悩みは一生だと感じました。

原点を学び合う そして 同世代と世代間の交流が成立し 有意義な2日目だったと思いました。

年代ごとに感じる事が違い、その年代その年代で噛み締めながら過ごして行くことが次のステップになることをまとめて見せて頂いた気がしました。

他の学年の先生方のお話も聞くと、経験年数によって違う悩みを知ることができてよかったです。先輩の先生方のように引き出しをたくさん持ちたいと思いました。

最後に今回の研修会を通して、今後自分がどんな理学療法士になりたいか目標をしっかりと持つことができました。

年代ごとの悩みを知ること、自分たちの悩みを上の方に知っていただける機会は貴重だなと感じました。

経験年数毎に見えている視点が異なることが、大変興味深かったです。また、ベテランになっても悩んで、努力している姿が素敵だと思いました。

様々な経験年数の方々が悩んでいることについて知ることができました。

このような機会がないと、先輩方が何に悩まれているのかを知るきっかけがないので、新たな気づきが生まれて良かったです。医療従事者として何年経験を積んでも、日々勉強が大事だなと感じました。勉強会や学会へ積極的に参加していこうと改めて決意しました。

学年によってさまざまな色があり、その中でも共通している部分を感じることができました。

先輩方のグループの発表を聞き、今何を考えているのかを知ることができた事は面白かったです。また、私たち一年生が思っていることをしっかりと伝えることができる良い機会になりました。

最終的に自身に対するフィードバックをさせて頂きありがとうございました。

今年初参加でしたが、自分が救われた貴重な時間でした。未来をみんなが見ているのが嬉しかったです。職場になると、やっぱり未来よりも今となっている方もいてなかなか大きな声を出して未来を語ろうと言えないもどか

しさもあったので本当に嬉しかったです。

1日目の貴重なお話も刺さるものがありすぎて胸がいっぱいでしたが、2日目の同世代の交流で一歩ずつ未来に進めばいいんだと地に足をつけたので明日からゆっくり進んでいこうと思いました！

他の学年の議題を聞いたのがとても興味深かったです。

目を向けている先がもちろん子供、利用者ではあるけれど、その先、あるいは目の前の課題感がそれぞれ特徴的で勉強になりました。

他の学年の内容も聞いて良かったです。学年ごとの色や悩みごとがある一方で、視点は違えど目標設定など共通する課題もあるのかなと思いました。

それぞれの学年が抱えているような悩みを知ることができ、今後同様の悩みが出てくると思うので参考にしていきたいです。

経験年数の違う様々な世代の先生方のお話を聞いてとても勉強になりました。目標設定の難しさや方向性の正しさへの不安等、自分と同じ悩みを持っている方々もいる事に気づかせて頂き、自分は1人ではないんだとの安堵感も持てました。今回のセミナーで得た事を自身の職場で生かしていけるように日々精進していきます。このセミナーに参加させて頂き、大切な事をたくさん勉強させて頂き貴重な時間を過ごさせて頂き、ありがとうございました。

研修会ってこんなに笑っぱなしでいいのか??と思うくらい楽しい2日間でした。もちろん1日目は涙無くしてはいられませんでした。

そんな世界で働けていることに感謝、自分の周囲にいてくれる人に感謝して、皆さんと歴史(人生史)を作っていたらと思えました。

今後とも逆風をよろしく願いいたします。

各年代によって、視点や考え方の違いが分かり、面白かったです。

2年→4年→1年→3年→5年の流れがとってもよかったです。

どんなことでほかの世代が悩んでいて話し合っているのか、知れてよかった

学年ごとに発表していくことで、年数ごとにやはり考えていること、悩みの中心が変化していくことがよくわかりました。年数でわけたときの自分の立ち位置が少し客観的に見えやすくなったような気がします。また、自分の職場に当てはめて考えてみるとおもしろかったです。

各世代のテーマと考えを聞くことができ、自分の今後を考える足掛かりになりました。

5年生の威圧感がすごかったです!専門性の深堀りから穴を広げていく話はわかりやすかったです。

新人のころの気持ちを思い出したり、今の若い人たちの考えていることが少しわかったり、自分の少し先の未来に目指すところがみえたり、レジェンドの方々の視点の広さを知ることができたり。自分の学年以外の学年のお話を聴くことができたことで、より深まりました。

グループでまとめる機会を頂いたことで整理することが出来、理解が深まりました。他のグループの話しも聞いて良かったです。

各世代ごとの悩みを聞いたのは大切貴重でとても良かったです。特に5年生の方々のテーマがベテランになってもずっと子ども達のことを考えているのが伝わり、自分もそうなりたと思いました。

各学年で共通の思いや、課題もあるのに気づきました。同じリハビリ職でさえ、少しずつ考えの違いはあると思いますが、「誰かのために」は変わらないよな、と思いました。

5年後の会について考える機会がありました。そこに向かい、自分が何が出来るのか、やるべきなのか、やりたいのか整理し実行していきたいです。

それぞれの年代でそれぞれの悩みなどまとめて聞いて良かったたです

各学年、やはり焦点になる部分が似ているようで違うことをかんじたこと。そして、違う捉え方、同じ捉え方など、様々で勉強になりました。

経験年数の違いによる悩みや感じ方などがありました。1年生からの先輩への相談に関しては、職場で注意していこうと思いました。

学年毎の違いがわかりとても面白かったです。

最後のまとめがあった事で、振り返りもでき、他の学年の話も聞く事ができて良かったです。経験年数で分けて頂いた事で、似た悩みや経験を話せて、改めて頑張ろうと思う事ができた。

それぞれの

学年で色があって面白いと思った。

自分の地域でもやってみようと思う。

他のグループの動向や意見の出方に特徴があり、「そんな考え方になるのか〜」と思うこともあったりで面白かったです。

辻さんの進行や話し方、いつも参考になり、勉強になります。

各学年、カラーが出ており面白かったです。そして最後は自分やこの会の未来をみんなで共有するという素晴らしい総括だったと思います

他グループの発表を聞くことで、各学年がどのような悩み・困り感を持っているのかを聞くことができ、自分ならどう考えるか、自分ならどのように解決してきたかということにつなげて考えるきっかけをもらえました。当院の新人の意見もしっかりと聞き、歩み寄りを行いながら、お互い成長していきたいと思います。

辻さんのまとめ方が単なる、学年発表にならない工夫がさすがです。

おそらく、みんな通った道。一緒に縦も横もつながるのに分かり合えたかな。

辻さんが上手くまとめてくださり感謝です。

**** 今後、開催してほしいテーマや内容**

今後も心を揺さぶるような講演をお願いします。

在宅のことを聞いてみたいです

FUNのために必要な理学療法士との技術や知識を得る機会が欲しいなと思います。日頃から悩んでいる内容です。

副島先生の講演会をまたぜひお願いいたします

①重症心身障害児者の理学療法ハンドブック 平井孝明先生のヒトの成り立ちから考える理学療法の講義をオンラインで開催していただけると嬉しいです②花井先生に意思決定支援の実際をお聞きしたいです。

評価や実技など、実際の臨床場面でのことをテーマにしてもらえたら幸いです。

重心の方たちを経験していない各専門職との連携の在り方

評価、効果判定のしかた、診かた

事例を通してのグループでディスカッションするのも良いかと思います。

障害児・者が社会に出ていくために必要なこと、世間の人々が障害児・者を受け入れるために必要な準備、働きかけ

講演+グループワークの同じようなスタイルが良いです。グループワークの時間はもう少し長くてもよかったです。

五年生のまとめにあった横軸のジェネラリティを広げたい人がどちらかという集まりやすい会であると思うのですが、スペシャリティに行きがちな人たちともぜひ縦横交えた話をできるような企画があるとまた新展開があ

るのかなとも思いました。

グループワーク、自己紹介以外発言せず終わっちゃったので(それですごく不満なわけではないのですが)二年生のような仕掛けも面白いなと思いました。

理学療法士としての専門性をより深くしていけるようなテーマも徐々に学んでいきたいです。ヒトに対する理学療法として。

今回のようなディスカッション形式をもう少し少人数で行えたらと思いました。

若い方々の要望に沿う。

今回のような年代別グループディスカッションはぜひ続けていただきたいです。

症例検討や実技

呼吸、ポジショニング、車椅子採型などの技術研修も様々な視点から行うことができればと思います。

今回ファシリテーターしていただいた先生方の、実際のケースでの視点や関わりを、それぞれの先生方がどのようにしているのかをぜひ知りたいです。(ざっくりですみません)

センスとミーニング、セラピストとその子との空間がある中で、どういった知識と技術を伝承していくのか興味があります。

そして今回同様、どんどん若手も受け身にならず発言できる機会や雰囲気作りができると良いかと思えます！

呼吸や姿勢保持について

今回の学年に分けてのグループ活動はとても楽しかったです。

今後は縦割り活動などもあるとさまざまな世代と話すことができてまた繋がりが広がるのかなあと。

呼吸についての実技や知識→知識だけではなくそれをどう臨床で活かすように使うか

目標設定の仕方

今回の2日目のように、話して繋がりを強くする機会は今後も作っていただきたいです。また、技術を深めるといところでは、呼吸理学療法について取り上げていただきたいです。

卒後、移行期医療

縦の発達横の発達につながる浅野大喜先生の話が聞きたいです。あと、近畿大で取り組んでいるニューロリハビリテーションの動向も気になります

榎勢さんが熱く語られている、知識と技術のところがテーマになる会もあるとうれしいです。

また同じようなグループで違うテーマについてグループワークできることを期待します

基本的なことかもしれませんが、姿勢分析の実践編や肺理学療法を、ポジショニングなど取り上げてもらえるとうれしいです。

今回のようなグループワークで縦割りであっても良いかもです。(ただ経験年数が浅いと萎縮してしまうかもしれませんし、自分自身も少し苦手意識はありますが。)

地域連携、多職種連携、リハ卒業後のこと、遊び、アクティビティ、意思決定

評価法や触診技術などの講習に参加したい。

・重度運動障がいの方の関節変形と組織変性のメカニズム

・動きと重力と姿勢:治療、活動、コミュニケーションに活かすための基礎知識と展開

榎勢先生がお話されていましたが、知識技術を持ち合わせていることは最低条件だと思うので、事例検討やハンドリングなどのテクニカルな部分のセミナーも開催して頂きたいです。

5年生でも話された、専門性の縦軸と生活や活動を含めた横の拡がりのバランス。横を拡げるには、縦の専門性が保証されることを確認して、専門性、時代や臨床像に沿った専門性の掘り下げも必要となると思いました。

ハンズオンセミナー。

** 全体を通しての感想や、お気づきの点について

講師、運営スタッフの皆様、ありがとうございました。残念ながら、最初の御三方の講演しか聞けませんでした。心が揺さぶられ、大切な時間を過ごすことができました。

知識や技術も大切ですが、研究会での皆さんの考えをきく、知ることも、同じく仲間として大切な時間とと思いました。

準備等々大変だったと思います。このような会の開催を本当にありがとうございました。

田中先生の音声聞きづらかったのが残念でした。

久しぶりのリアルでの開催、運営は大変だったと思います。ありがとうございます。

会場がちょっと寒かったですね。

家庭の事情で、2日間の参加が叶わず残念でした。

次回の開催時には、ぜひリベンジしたいです。

とても隅々まで行き届いた運営お疲れ様でした

言語聴覚士の参加が一人だったようですが、今回受け入れていただいたことに深く感謝しております。重心はもちろんだの臨床の現場でも他職種連携は必須である一方、なかなかそれがかなわない職場があります。小規模の職場に所属している者でも参加、相談できる場を今後もご提供いただけることを願っています。

最高の2日間でした。

内容もですが、先生方や参加者のみなさんがとつてもあたたかく、つながりができたことに感謝です。

個人的な話になりますが、今年の初めに病気が分かり治療をしました。正直、心身ともに思うように動かない1年で、この先自分がどうなっていくのか不安な日々を過ごしていました。私はこうありたいと未来について語ることもできず、したくないと目を背けていましたが、今回参加させていただいて先生方や関わってこられたお子さん、ご家族の話を聞いて、命としっかり向き合う時間をいただき、私は大丈夫。と前を向けた気がします。

生きてるだけでいいと同時に自分はどう生きていきたいか。

10年後も、たくさんの愛情をもって子ども達の前に立ち続けたい。そのために縦も横も成長していきたいと思えます。

長々と個人的なことを書いてしまい申し訳ありません。

本当にありがとうございました。

今後ともよろしく願います。

いつも大変な準備をありがとうございます。

本研究会の、お互いを尊重し合いながら、お互いの意見を述べ合える集まりに、安心して参加できています。

専門性の掘り下げと総合性の拡がりも大切であることを学ばせて頂いています。

これらのことが継続されることを望みます。

田中先生のお話は、Zoomということもあってかやや聞き取りづらかったのが残念でした。またいつか、あらためて直接お話をうかがえたら嬉しいです。

素敵な企画を本当にありがとうございました。そして、運営の皆様、お疲れさまでした。

久しぶりの対面の当研究会セミナーで、参加してとても刺激を受けました。

運営の方の思いが伝わるセミナーでした。企画・運営ありがとうございました。

来年も楽しみにしています。

運営のみなさま、レジェンドのみなさま本当にありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。

今回、4年生は横のつながりができて、大変心強いです。まだまだ他の施設やデイなど、情報交換する機会をつくり、つながりたいなと思います。

まず、全体の雰囲気は笑いに包まれてとてもよかったと思います。どの意見も認められる、発言しやすい雰囲気がありました。

月曜日からの業務も気持ちを新たに頑張りたいと思います。ありがとうございました。

新三役と運勢委員の方々 皆様 素敵で方々で頼もしいです。前進ください。

今回は 企画 運営と 長谷川さん 黒川さん お仲間の方々 有難うございました。

お疲れ様です。後少し 最後まで頑張ってください。

これからも 来年も楽しみです。

コロナ禍からの再開で、事務局も大変だった事と思います。ブランクを感じさせないエネルギーが会場に溢れていて、本当に参加できて良かったと思う2日間でした。大満足です。

ありがとうございました！

今回参加させて頂き本当に良かったです。

運営の皆様ありがとうございました。

また機会がありましたらぜひ参加させていただきたいです。

対面での研修が、コロナによってできていなかったのも、改めて人と合って話すことの大切さを感じました。運営の方々につきましても、大変な苦労があったと思いますが、会を開いていただきありがとうございました。

PTの先輩からこのセミナーの話を聞いていて、多職種参加が可能となり、入職1年目から素敵な出会いと学びができて良かったなと心から感じています。

運営の皆様ありがとうございました。来年度も参加したいと思います！（懇親会がもう少しお手頃だと嬉しいです。）

たくさんの方とお話しできて、勇気バロメーターがたまりました！

重心の理学療法として、素敵なムーブメントを広げていけるように、実践していきます。

ありがとうございました。

職場に帰って、親御さんに今回の研究会の話をしたところ、ぜひ参加したいとのことでした。

こんなに優しい方たちがいる、重心PTの世界に安心、そして感謝してくれました。その思いを裏切らないよう、大切にしなければならぬと思いました。

懇親会も含め、話すこと、つながることを大切にできるように考えてくださり、とても参加しやすく学びの多い会でした。ありがとうございました。

多くのみなさまが集う機会を準備していただきありがとうございました。

とても素敵な時間でした！またよろしくお祈りします！

コロナでしばらくお休みになり、久しぶりの開催だったからこそ、学年別のグループワークがあったことはとても良かったです。こたえのない世界に日々身を置き、悩みながらも逃げることなくその場に居続け、向き合っている人たちがこの研究会にはいることを改めて感じる事ができ、そんな仲間と顔をみて話げできたこと、貴重な時間でした。少人数で、経験年数の近い人たちとのグループ構成だったことも、オープンマインドで話げできたことにつながったと思います。2日間を通してつながれました、原点から未来へ、最高でした。ご準備、とても大変だったと思います。ステキな時間をありがとうございました。参加して良かったです。

お忙しい中運営をして頂いていた方々、本当にありがとうございました。

この度は、参加させていただきありがとうございました。運営の方々は大変だったと思います。本当にありがとうございました。

年代を分けたグループワークは繋がりを作れてとても良かったです。もし可能なら、来年も同世代の方との交流の機会があると嬉しいです。

お忙しい中、研究会の開催に携わった先生方、スタッフの皆様には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

久しぶりの対面での2日間、とても充実した時間でした。ありがとうございました。

初めて参加させていただきました。とても熱量が高く、PTではないのですが疎外感も全くなく、楽しく参加させて頂きました。

企画運営お疲れ様でした。ありがとうございました。

話しやすい雰囲気と、会のすすめ方や、懇親会の工夫など、全体的にとっても楽しく充実した研修でした。沢山の準備ありがとうございました。皆さんの考えが色々聞けて勉強になりました。

少ない人数で準備・運営をしていただいていると聞きました。

対面形式を再開して間もないため、配慮することが多く、大変だったと思います。

素晴らしい場を設けていただき誠にありがとうございます。

久しぶりにみんなとお話ができ楽しかったです。止まってしまっていた交流を再開できたと実感が持てました。

黒川さん、長谷川さん準備大変だったと思います、ありがとうございました

2日間お世話になりました。懇親会でもたくさんの方と話をすることができ、横のつながりを広げられたなど大満足の2日間でした。テクニカルな部分のみでなく、思考やマインドなどのノンテクニカルな部分も学ぶことができるため、毎年研究会のセミナーはとても楽しみにしています。個人的には2日間フルであってほしいと毎回思っております。今後ともよろしく願いいたします。

実行委員の皆様には感謝しかありません。

基調講演

「重症心身障害理学療法の原点」



びわこ学園医療福祉センター草津

理学療法士 高塩純一

今年度より重症心身障害理学療法研究会の代表を務めさせていただくびわこ学園医療福祉センター草津で勤務する高塩純一です。

新型コロナの5類後、初の全国セミナーの基調講演でお話させていただくことにはいささか緊張しております。今回「重症心身障害理学療法の原点」というタイトルでお話させていただきますが、あくまでも私の私見であるため、「私の重症心身障害理学療法の原点」とさせていただきます。

最後までお話できないと思いますが、あえて現象学視点とそれぞれのセラピストの地平であるセンスをどのようにミーニングからコモンセンス・コンセンサスに昇華させるか。二日目の討議の道筋が作れればとおもいます。

基調講演

私の重症心身障害理学療法の原点

センス/ミーニングからコンセンサスへ

重症心身障害理学療法研究会代表
びわこ学園医療福祉センター草津 高塩純一

2023.12.2

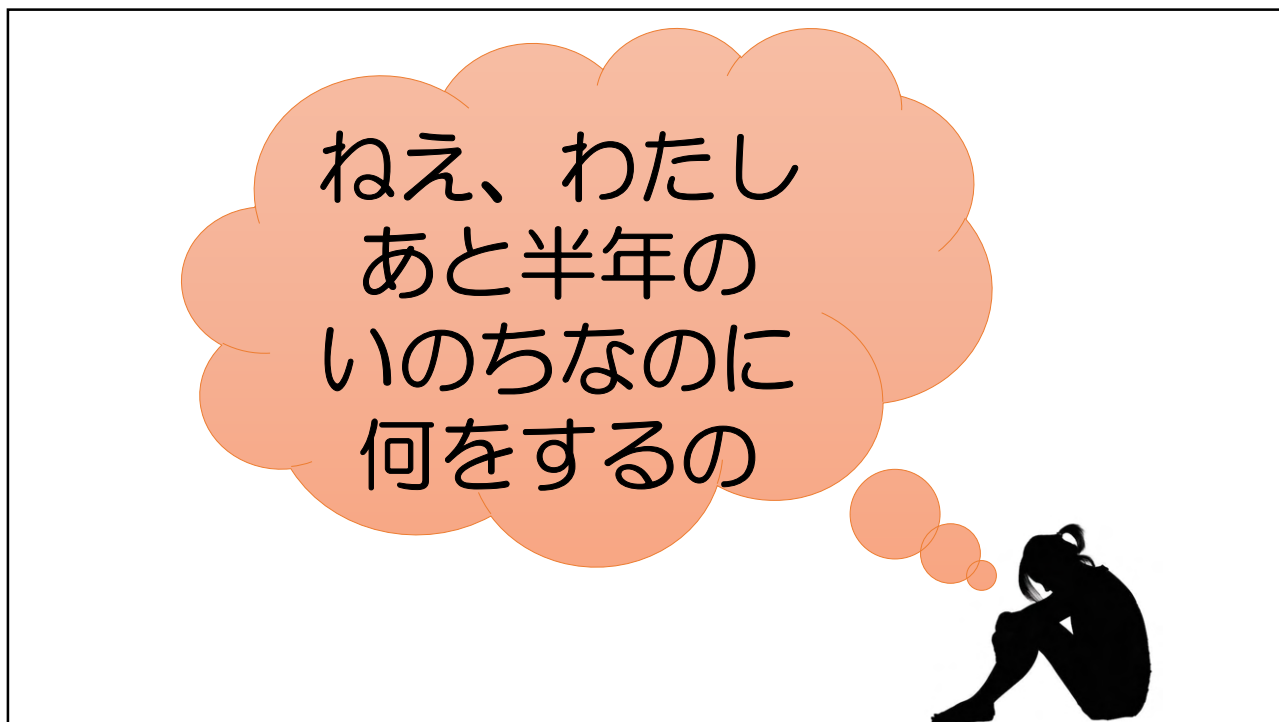
1

福祉の思想
糸賀一雄

NHKフOCUS

67

2



3

お元気ですか
今年はず中で年賀状を出せませんでした
けれど来年は必ず出します……ヨ
もうお正月も終わって学校が始まる
けれど、私は学校なんて無視一です
病院はで痛いことをされるのはいやだ
けどそれ意外なら病院でいる方が
学校よりも楽しいと思います 一応
ピンクパンサーはとっても元気です

ではまた会える日を楽しみに?!
しています 本当に
とっても楽しみにしていますヨ?

FUN-FUN-KIDS
A very nice day. South wind through
the trees brings cheerful laughter.
Children are skipping in the sun shine.
Soft breeze brings Fun Fun Kids.

ねえ、私あと半年のいのちなのに何をすの？

学生時代に出会った中学3年生の女の子から最初に言われた言葉です。

- お元気ですか
今年はず中で年賀状を出せませんでした
けれど来年は必ず出します……ヨ
もうお正月も終わって学校が始まる
けれど、私は学校なんて無視一です
病院はで痛いことをされるのはいやだ
けどそれ意外なら病院でいる方が
学校よりも楽しいと思います 一応
ピンクパンサーはとっても元気です
- ではまた会える日を楽しみに?!
しています 本当に
とっても楽しみにしていますヨ?

1981.1.14

4

小児科病棟で毎晩消灯まで遊んでいました。



- カードゲーム
- モノポリー
- 時には家族のこと学校のこと友達や異性の話
- 病棟で知り合った友達との別れ
- 自分の病気のこと、親の前では不安を見せないで演じる姿
- 退院が決まった日に渡したクリスマスプレゼント
- エレベーターが閉まる光景はいまでも忘れられません

5

障がいがあってもなくても私の町で暮らしたいという
当たり前前の願いに沿って、私たちに求められること。



- 「私たちが他人の状況を理解できるとすれば、それはその人たちの心を深く調べることができるからではなく、**その人たちの生活世界（*）を想像できるから**」（Patricia Benner 2006）
- （*）フッサールによって提唱された哲学用語で個人だけではなく、その個人と繋がりを持った人物や社会まで見えてくること

（ベルテ堺 岸本眞）

6

糸賀思想 発達保障



学園児の中の先生

- びわこ学園の創設者の糸賀一雄は、重症児の発達保障のために、「縦軸の発達」に対して、「横軸の発達」という考え方を療育の世界に持ち込みました。
- 「縦軸の発達」というのは年齢に応じて能力がレベルアップしていく。それに対して「横軸の発達」とはいまある能力のまままでできることを増やしていく発達のことをいいます。
- 障害によって「縦軸の発達」が難しい子どもであっても「横軸の発達」によって、世界は豊かに広がります。
- 例えば自閉症の子どもは同じような絵を描き続けたり、同じような曲を歌い続けたり、同じような文章を書き続けたり、でも、それはその子にとって決して同じことの繰り返しではありません。
- 私たち大人が進歩のない繰り返しだと勝手に思い込んでいるだけかもしれません。

7

- 健常児の世界であっても、実は同じかもしれない、大人はより早く、より多く、より複雑にと、子どもたちに縦軸の発達を強いるが、本当はいまある能力のままでもっとゆっくと横軸の広がりを楽しみたいと、子ども自身は思っているかもしれない。
- 糸賀は障害のある子どもたちと共に生きる（ミットレーベン）の中で教わったのでしょう。
- 「この子らを世の光に」というのは、障害のある子どもを救済するための言葉ではなく、糸賀が子どもたちから光をもらったと思えた実体験から生まれた言葉なのです。

一陽を
照らす

nivta.in_2067828

8



びわこ学園の実践家たちは、重症児を「寝たきり」と決めつけるのではなく、子どもの視点に立って「寝たままで〜できる」ととらえ直すことで、教育の可能性を模索していった。

その中で、「障害が重くても、人間らしく生きるために必要なかわりを成立させながら発達を保障することが教育であるということを実践を通じて確信」を得ていく。



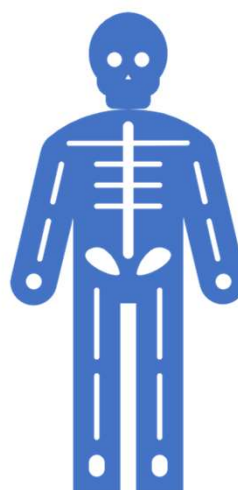
療育記録映画「夜明け前の子どもたち」
1968年
ナレーション：しもちゃん
が笑った・・・

- * 発達保障の思想と実践は、能力主義や劣等処遇につらぬかれた教育と福祉を根本から批判し変革する力を蓄えながら、その後の障害が重い子どもの教育権保障運動にも受け継がれていくことになる。

9

第一びわこ学園への想い

- 園生の傍らで仮眠をとっていた細井Ns
- 私は聴診器よりも画板とクレヨンをもって
仕事がしたいと言っていた田中Ns
- 高塩さん「何年びわこ学園に勤めるの?」と尋ねた
北大津養護学校長等分校の 石川信子先生
- 夕暮れ時の縁側に腰掛け園生と食べた柿
- ミットレーベン(ともに生きる)中で見えてくる生活世界



10

「横（横軸）の発達」

横の広がりとは何かといえ、**かけがえのないその人の個性**です。他の何物ももって代えることのできない個性が、あらゆる発達段階の中味をなしているということです。この中味が個性的にぐんぐんと形成されていく、**もうA子ちゃんはA子ちゃんなんだという個性が、一歳なら一歳のなかに、豊かに豊かになっていく**わけなのです。この豊かさを形成していくのが教育であり、療育ということなのです。

糸賀一雄（1966）「この子らを世の光に（二）—重症児の生産性について—」

12

「横（横軸）の発達」の創出過程

- ①近江学園「さくら組」（1952年～）、「杉の子」組（1953年～）
重症児の「感ずる世界」「意欲する世界」への気づき
- ②あざみ寮 知的障害女子の人格形成を目指した実践（1959年～）
「発達の認識」「発達の共感」する視点
- ③びわこ学園 重症心身障害児への実践（1963年～）「発達の共感」「横」
という視点

知的障害女子／懸命に生きる重症児たちと
それに共感する職員との「発達の共感」関係

無限に、豊かに、「自己実現」していく姿

1965年 「横へのふくらみ」
1966年 「横（横軸）の発達」

13

「横（横軸）の発達」糸賀の語り

「そういういろいろとちがった発達の段階のどれを見ても、その発達段階なりの生活がある。その生活が、ただ寝ているだけであっても、はうだけであっても、またやっと立っているだけであっても、豊かな内容のあるものに育てられるかが問題なのである。縦軸の発達ではほとんど絶望であっても、横軸の発達は無限といってもよい」

糸賀一雄（1968）「特殊教育の思想的背景—人間の価値観について」
『特殊教育事典』（初出）、糸賀一雄著作集刊行会編（1983）所収、p.402

14

「横（横軸）の発達」糸賀の語り

「人間の価値はこの縦軸の比較の世界で相対的に評価されるばかりでなく、
横軸への無限の挑戦の中に見られる絶対的な価値の基準をもっている」

糸賀一雄（1968）「特殊教育の思想的背景—人間の価値観について」
『特殊教育事典』（初出）、糸賀一雄著作集刊行会編（1983）所収、p.402

15

「横（横軸）の発達」糸賀の語り

「三歳の精神発達でとまっているように見えるひとも、その三歳という発達段階の中身が無限に豊かに充実していく生きかたがあるのです。生涯かかってもそれを充実させていく値打ちが充分にあるのです。そういうことが可能になるような制度や体制や技術をととのえなければならない。」

糸賀一雄（1966）「この子らを世の光に」『手をつなぐ親たち』、第128号、pp.4-8.

16

「重症児の生産性」

この子らはどんなに重い障害をもっているとしても、だれととりかえることもできない個性的な自己実現をしているものなのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。私たちのねがいは、重症な障害をもったこの子たちも、立派な生産者であることを認めあえる社会をつくろうということである。

糸賀一雄（1968）『福祉の思想』 p.177.

17

「重症児の生産性」概念の形成まで

蜂谷俊隆 (2015) 『糸賀一雄の研究 人と思想をめぐって』第10章をもとに

①重症心身障害児施設の創設とその処遇内容をめぐって (1961年～)

島田療育園：「病院形式」
「社会的重症」



びわこ学園：「教育を中心とした施設」
「発達保障」

②国立コロニー建設への関与 (1963年頃～)

政府：コロニーは「終生の生活の場」
その集合体として「障害者の村」

糸賀：収容施設の位置付けや性格等を指摘

「保護」という名の「飼い殺し」に対する警鐘
「社会変革」の主体としての重症心身障害児

1966年 「重症児の生産性」

18

「重症児の生産性」糸賀の語り

「生命はすべて表現的生命、自分自身を表現していくところの命なのです。いいかえますと自己実現が可能な命の姿をすべてが持っているわけで、これは重症であっても重症でなくてもみんな一緒なのです。自己を実現するとか、自己を表現するとかいう表現的生命は、すなわち自分の外にあるものを自分の内なる者の表現の材料にするということでもあります。」

糸賀一雄 (1966) 「この子らを世の光に」『両親の集い』第127号、128号 (初出),
糸賀一雄著作集刊行会編 (1983) 『糸賀一雄著作集III』所収, pp.379-380.

19

「重症児の生産性」 糸賀の語り

「重症の心身障害児たちは、実は生産社会に生産人として復帰することはできないでしょうが、人間と生まれて人間となるという自己実現をするということは、内と外との関係においてその人間の生産性を認めることに他ならないということです。芸術品につきましても、その作品はみることににおいて生産されているのであります。この重症な子どもたちを認める人びとが親であり、先生であり、社会であるときに、この子どもたちは外からの環境から眺める姿の中に自己を表現していきます。自己実現を試みているこの生産性を私たちは否定することはできません。」

糸賀一雄（1966）「この子らを世の光に」『両親の集い』第127号、128号（初出），
糸賀一雄著作集刊行会編（1983）『糸賀一雄著作集Ⅲ』所収，pp.381-382.

20

「横（横軸）の発達」と「重症児の生産性」

●共通点●

1. 語り始めは1966年
2. 重症児に対する価値の転換をくぐる
3. 「自己実現」が2つを結ぶ

21

1. 語り始めは1966年

1966年という「時代」

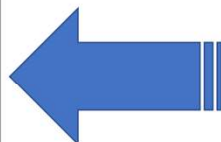
- 能力主義 「他人と社会の厄介になるのではなく、自分のことは自分で始末し、**社会的に自立ができる**」ことを目指した「**精薄教育**」（林部1966）
- 発達のみかた 「**発達は上へ伸びること**というのは、わたしたちの発達理解の仕方が発達障害を起こしていたことに他なりません。**今の教育競争**は、わたしたちの発達の理解の仕方をそのようなものにつくりあげてしまっているのです」（田中1966）
- 終生保護を 重症心身障害児は「**終身にわたり保護**する施設及び居宅保護に際し必要な終身年金あるいはこれを扶養する家族に対して特別手当を支給するような方途等について検討する必要」
（厚生省児童局編（1963）「児童の健全育成と能力開発によってその資質の向上をはかる積極的対策に関する意見書」『児童福祉白書』、田中昌人（1974）より）

22

1. 語り始めは1966年

1966年という「時代」

- 能力主義
- 「上へ伸びる」
発達観
- 終生保護を



「横（横軸）の発達」
「重症児の生産性」

23

2. 重症児に対する価値の転換をくぐる

「横（横軸）の発達」・・・糸賀の「発達」観の変化

「満二十歳になっても知的には五歳か、たかだか六歳程度で**発達がとまってしまう**これらの『永遠の幼児』達に対しては、児童福祉の立場から、将来の**社会的な無能力性**から考えても、当然その**生涯の保護**を保障する一貫した独立の施設がなければならない」（糸賀1950）



「**精神薄弱な子どもたちが、どのように発達する**ものか、単に現象的に人格発達の一部を外面的にとらえるのではなく、その**発達の過程のメカニズム**を総合的に、縦断的に、個体の**内面的な必然性**において把握することの必要性」を認める（糸賀1961）

24

2. 重症児に対する価値の転換をくぐる

「重症児の生産性」・・・糸賀の「重症児」観の変化

「殊に、社会的にはなんの能力もないように見える重度の痴愚や白痴の子どもたちのことは、いたずらに日を重ねていったさきは、一体どうなるのだろう。（中略）**重度痴愚や白痴のためのコロニーは、そこにおいて決して生産的なものを期待できないとしても、その生涯が保障されるべきであろう**」（糸賀（年代不詳）「椎木会の独立と落穂寮」『著作集Ⅰ』p.99）



「落穂寮という名前を付けたときの私自身の気持の中には、今から二十年近く前のことですが、やはりこの子どもたちは拾い上げてやらなきゃいけないんだという気持、そういうものを自分の心の中にいま見つめるのでございます。落穂寮という名前はもう変えることはできませんが、その意味を私たちは本当に新しく開拓して行って、私たちと違った人間がそこにおいて、私たちはそこに恵みを与えよとか、恩情をかけてやるのだというような考え方から脱却していきたい」（糸賀（1968）「目覚めたるものの責任」『著作集Ⅱ』p.295）

25

【再】「横（横軸）の発達」の創出過程

①近江学園「さくら組」（1952年～）、「杉の子」組（1953年～）
重症児の「感ずる世界」「意欲する世界」への気づき

②あざみ寮 知的障害女子の人格形成を目指した実践（1959年～）
「発達の認識」「発達的に共感」する視点

③びわこ学園 重症心身障害児への実践
「発達の共感」「横」という視点

精神薄弱女子／懸命に生きる重症児たちと
それに共感する職員との「発達の共感」関係

無限に、豊かに、「自己実現」していく姿

1965年

「横へのふくらみ」

1966年

「横（横軸）の発達」

子どもたちの人格の変容
と成長の事実をくぐって

その中で「自己との対決」
を果たし「事上磨练」し

26

【再】「重症児の生産性」概念の形成まで

蜂谷俊隆（2015）『糸賀一雄の研究 人と思想をめぐって』第10章をもとに

①重症心身障害児施設の創設とその処遇内容をめぐって（1961年～）
島田療育園：「病院形式」 ← びわこ学園：「教育を中心とした施設」
「社会的重症」 「発達保障」

びわこ学園の実践

②国立コロニー建設への関与（1963年頃～）
政府：コロニーは「終生の生活の場」 ← 糸賀：収容施設の
その集合体として「障害者の村」 位置付けや性格等を
指摘

「保護」という名の「飼い殺し」に対する警鐘
「社会変革」の主体としての重症心身障害児

1966年

「重症児の生産性」

子どもたちの人格の変容
と成長の事実をくぐって

その中で「自己との対決」
を果たし「事上磨练」し

27

3. 「自己実現」が2つを結ぶ

「自己実現」・・・糸賀の語り 1967年頃から好んで使用するようになり（高谷2005）

「この子たちは、生ける屍と呼ばれていた。なされるがままになっているものと思われていた。しかし、そうではなかったのである。立派な意思があり、意欲があり、自己主張があった（中略）外界を媒介として自己を実現しようと、たゆみなくはたらいっているのである。」（糸賀1968b）

「どんな障害者をも含めて、万人がめいめい、この社会に生きて、そのなかで自己を実現していくのである。その自己実現を尊重し、必要であれば援護していくという社会の態勢を確立しなければならない」（糸賀1968b）

「このひとたちが、じつは私たちと少しも変わらない存在であって、その生命の尊厳と自由な自己実現を願っており、生まれてきた生き甲斐を求めていることを友愛的に共感して、それが本当に社会の常識となることへの道行きが「福祉」の内容となる」（糸賀 年代不詳）

28

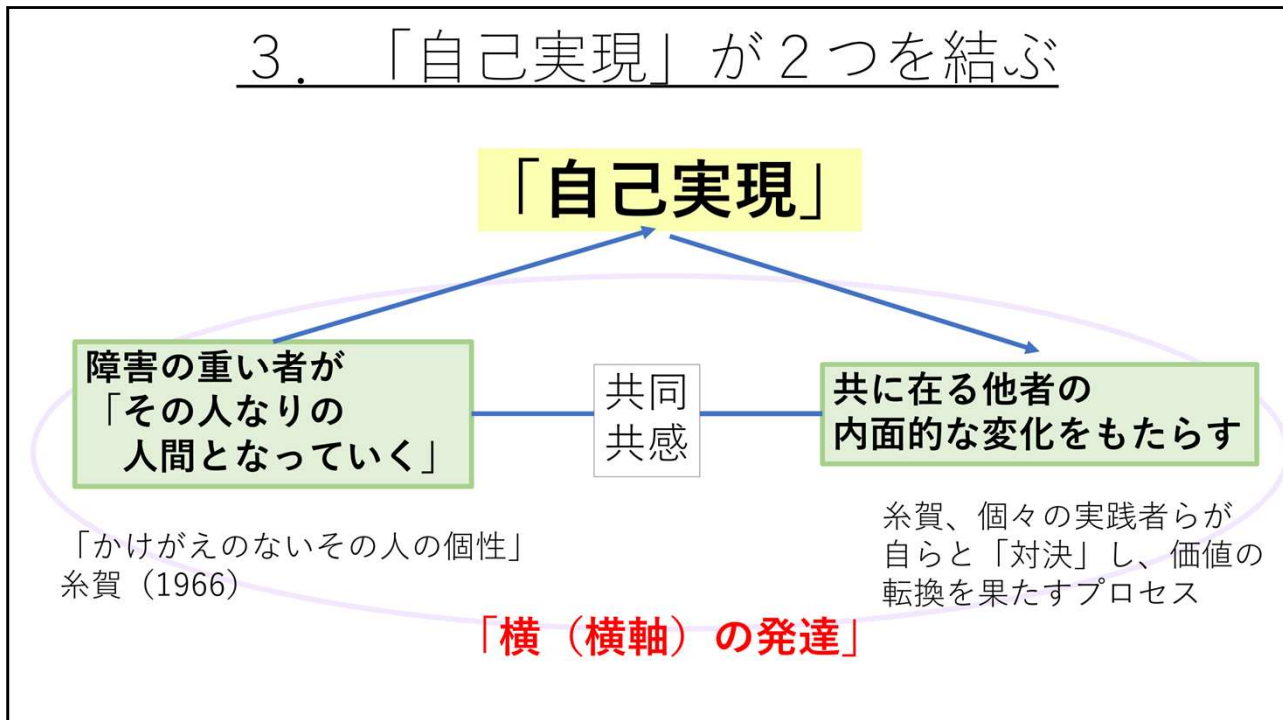
3. 「自己実現」が2つを結ぶ

「自己実現」・・・糸賀の語り

「この子らはどんなに重い障害をもっているとしても、だれととりかえることもできない個性的な自己実現をしているものなのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。私たちのねがいは、重症な障害をもったこの子たちも、立派な生産者であることを認めあえる社会をつくろうということである。」（糸賀, 1968a）

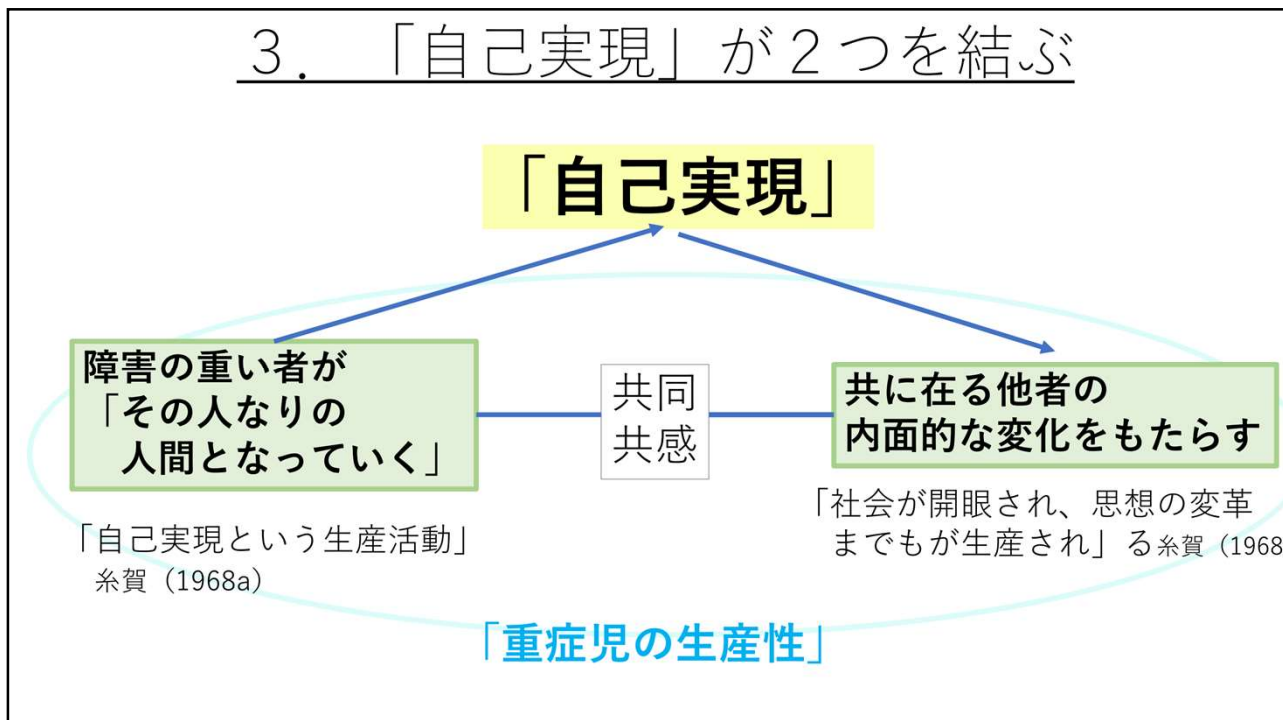
29

3. 「自己実現」が2つを結ぶ



30

3. 「自己実現」が2つを結ぶ

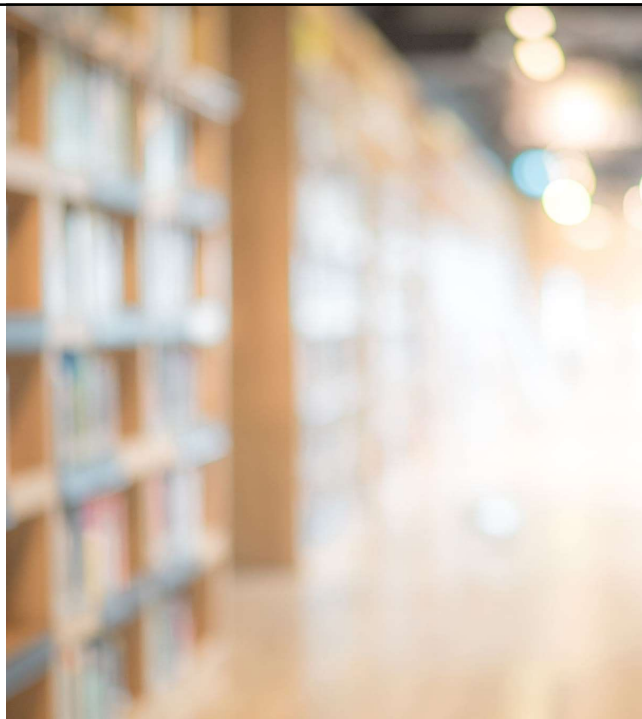


31

私に関わるときに大切にしている視点

第一びわこ学園時代に北病棟中棟の縁側で園生さんと一緒に腰掛けて山に沈む夕日を見ながら柿を食べていた場と時間です。

そこには、ただ時間と場、そして私とあなたが存在していました。



33

近代とは

- 観察し、名前をつけ特定し、構造化し、こぼしてしまうものがありながらもモデルとして理解するということが多いように思います。
- それは何かを理解する上でとても重要なことですが、一方で自らが観察者になることがどうしても必要になります。眺める私は、眺められる対象と切り離しが必要になります。



34

私は自分の価値基準を押し付けていないか。 プロクルステスの寝台 (Procrustean bed)

- プロクルステスとは、街道に出没した山賊の名前です。プロクルステスは、疲れた旅人に「ベッドがあなたにぴったり合うようならば、その場で休める」と言って、誘います。
- しかしベッドには2種類あり、体の大きな人には小さなベッドを、体の小さな人には大きなベッドを使わせます。そして、旅人が大きくてベッドからはみ出せば、はみ出した部分を切り落とし、旅人が小さければ、引っ張って引き裂いたというのです。
- 決して合うはずのないベッドに乗せ、人間を無理やりベッドに合わせてその命を奪うという神話は語り継がれ、一つの教訓をもたらします。「人には、自分の基準に相手を無理やり当てはめようとしてしまうところがある」……と。

鳥取大学医学部 宗教学・生命倫理・死生学安藤 泰至先生
小さな学びの場 2023.11.16

35



「自然」(しぜん)と「自然」じねん

- キリスト教的世界観の中で育まれた「自然」(しぜん)は、人間が制御すべき野生であり、天地創造をした唯一神としての神からその役割を人間が委ねられている、人間中心の考え方です。
- 日本にはもともと自然(じねん)という考え方があって、「自ずから然(しか)らしむ」、「あるがままの状態」を意味します。これは「無為自然」に起源をもつ親鸞や道元などの仏教的な思想から来ています。
- 日本では人間と対抗する野生や原生林といった自然ではなく、人間もその一部である森羅万象、天地万物すべてを包含するより広い対象を指しているといえます。
- 古来から四季の変化もあった日本では、現在の神道成立以前にもアニミズムや自然崇拜などの古神道があり、森羅万象に神々や霊性を重ねあわせていて、人間はそれらを制する立場にはなかったと考えられます。

36

重い障害のある子どもたちにわたしは、
何ができるのであろうか？



「楽しむもう
医療的ケア児が体験
もたら
た。
子どもたちはライフジャ
勝運聖
ケットを着用し、職員に抱
良トウ
きかえられたり、浮き輪
療的ケ
につかまったりして遊ん
日常的
だ。
同社職員の濱田翔吾さん
は「子どもたちに海とい
日常的に楽しめる環境を伝
えたかった。今までにない
笑顔を見せてくれた。障が
いのある子どもたちが海で遊ぶ
ことが当たり前になり、地
域の人たちも寄り添ってく
れば」と体験の意義を話
した。



職員と医療的ケア児が海遊びを楽しんだ15日、トゥリバーのビーチ

37

現代社会において何かを客観的に観察し、特定し、構造化し、理
解することは多いが、人類史の多くの時間では、私という感覚は
薄く、外界とも切り離されていなかったのではないかと思う。

- そうは言っても仕事のほとんどはこのような行為
を必要とされるから、私たちの日常のほとんどは
観察者として過ごしていると思う。
- 人々が何かに夢中になる時、心を奪われる時に、
まさにそれはその瞬間に客観的に見る私の不在を
意味するのではないだろうか。
- 釣りをしたり、スポーツをしたり、ゲームに興じ
たり、またはアートを見たり。我を忘れる夢中の
行為が、余暇では好まれているというのは示唆的
だと感じている。



38

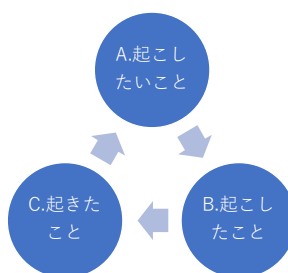
出来事が生み出されること

- 「A.起こしたいこと」「B.起こしたこと」「C.起きたこと」という三つの言葉を使うと、「出来事を生み出すこと・出来事が生み出されること」は次のように表現できます。

39

39

出来事が生み出されること

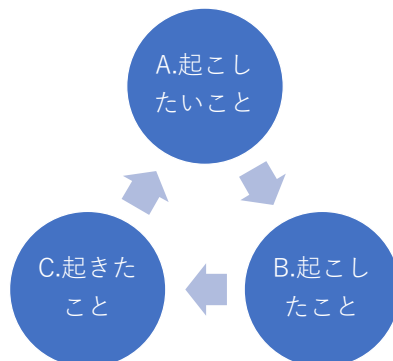


- 人間には「**A.起こしたいこと**」があります。そして、「A.起こしたいこと」があるから「**B.起こし**」ます。「B.起こす」ことによって、出来事が「**C.起き**」ます。出来事が「C.起きる」ので、「A.起こしたいこと」が新たに生じます。新たに生じた「A.起こしたいこと」に即して、さらに「B.起こし」ます。さらに「B.起こす」ことによって、新たな出来事が「C.起き」ます。こうして「A.起こしたいこと」と「B.起こすこと」と「C.起きること」が螺旋的に続いていきます。

40

40

出来事が生み出されること



- 起こしたいから、起こして、起きる。起こしたいから、起こして、起きる——これを繰り返している間に、出来事が生み出されてきます。これを「出来事を生み出すこと・出来事が生み出されること」と呼びます。

41

41



42

セラピーの場面で起こしたいことから起きたこと。

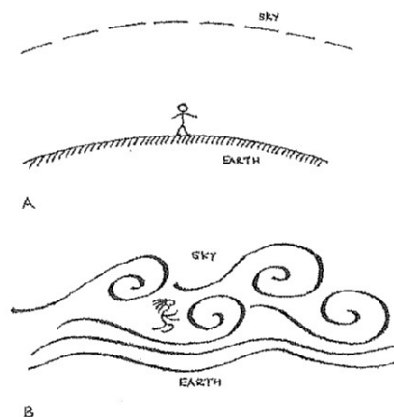


43

起きていること

「生み出されている出来事」とは別に「起きていること」があります。

- 身体の外で「起きていること」として、インゴルドのいう「ウェザーワールド」があります (Ingold 2011, Ch9)



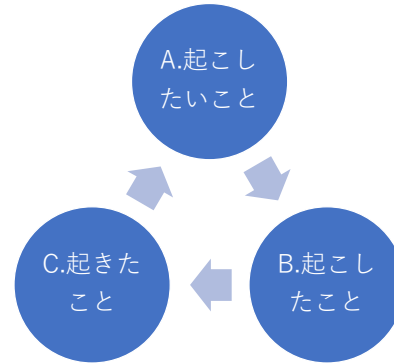
44

44

起きていること

- 身体の中で「起きていること」として、三木成夫のいう「内臓のはたらき」があります（三木2013）。

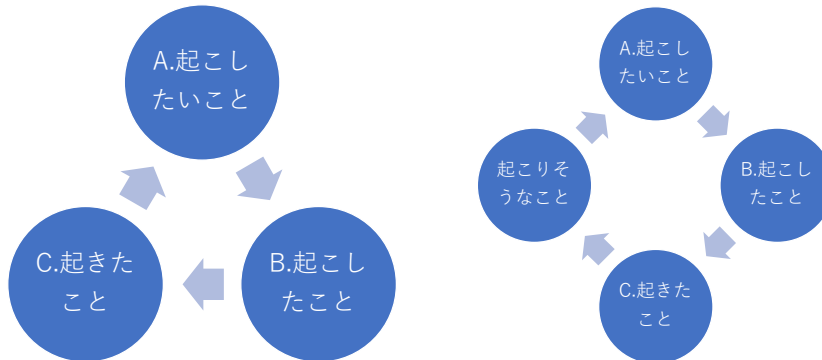
- ▶ そして、漂ってくる御飯の支度の匂いに腹の虫が鳴るというように、外側と内側とで「起きていること」がシンクロすることもあります。
- ▶ 「起きていること」は、「出来事」の**起点**となり、**土台**となります。



45

45

起こりそうなこと



- 「起こりそうなこと」が描ける段階では、「起こりそうなこと」に対して「起こしたいこと」を描きます。
- 「起きたこと」に対して「起こしたいこと」が生じると、「起こりそうなこと」に対して「起こしたいこと」が生じるとは異なります。

46

46

起こりそうなこと

人は、成長に応じて、「起きていること」「起きたこと」から「起こりそうなこと」を見通せるようになります。



47

センス／ミーニング

日本語で「意味」と言われているものは、「センス」と「ミーニング」に分けることができます。

「センス」とは「その人なりの意味」である。たとえば、私とあなたにとって、雪がもつ意味は異なる。私にとっては「寒くて嫌なもの」だが、あなたにとっては「表に出て遊びたいもの」である。また、私個人においても、体調によ^りって、気分によ^りって、その時々^の雪のもつ意味は異なる。この「状況によ^りって異なる、その人なりの意味」を「センス」と言います。

一方「ミーニング」とは「誰によ^りっても承認される意味」である。雪が「水蒸気が空中で昇華し結晶となって降る白いもの」であることは「状況に左右されず、誰からも承認される意味」である。これを「ミーニング」と言います。

49

49

セラピー

この点からすると、現在の「セラピー」は「**誰かがどこかで確定させたミーニングを、子どもに内面化させる営み**」が主流になっています。確かに「ミーニングに重きを置いたセラピー」は重要ですが、私は、「センスに重きを置いたセラピー」も大事にしたいと考えています。

「センスに重きを置いたセラピー」とは何か。

雪を前にして、それぞれの登場人物が、それぞれの「センス」を抱く。そこに居合わせた人たちは、雪を前に、引き締まった大気の寒さを共に感じ、白銀の世界を共に見つめている。「共に」感じているという一体感がありながら、雪に対する「感じ方」は**それぞれの「感じ方」であり、食い違っている**。

50

50

一体感・食い違い

「センスに重きを置いたセラピー」では、この「一体感の中での食い違い」を大事にする。「一体感の中での食い違い」があるところには「**伝わるはずのことが伝わらない口惜しさ**」がある。その口惜しさがあるからこそ、それを出発点にして、対話が始まる。つまり、「**自分なりの感じ方（センス）**」を相手に伝えながら、「**相手なりの感じ方（センス）**」を受け取り、そうして生じている**食い違いを確かめていく**。そうした対話を通じて、「**自分も相手も承認できるミーニング**」を共同的につくっていく。

その際には、「**自分なりの感じ方**」に固執することを諦める。つまりは自分の殻を破っていく。そうでないと「相手なりの感じ方」を受け取ることもできない。「自分も、相手も承認できるミーニング」をつくることもできない。

51

51

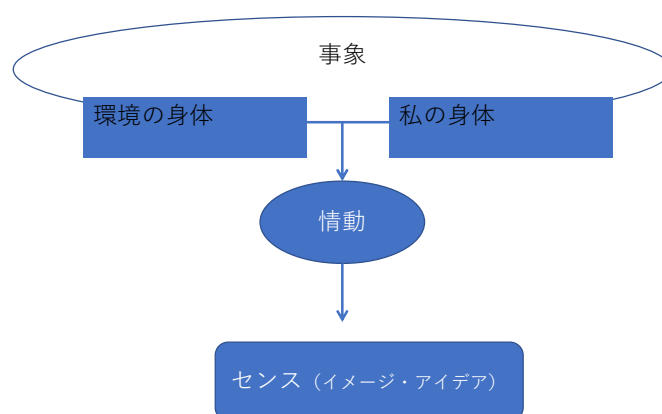
学習

この「自分の殻を破る」ことを「学習」と呼び、「支援法」とは、「自分の殻を破るという学習を介添えする営み」であると考えます。ですから、「支援」の仕事とは、一方で「一体感」をはげますことであり、もう一方で「自分なりの感じ方」をはげますことになる。そして、その結果生じる「一体感の中での食い違い」を認めることであり、さらには当事者たちが「自分たちなりのミーニングをつくる」ことを認めることでもあります。「センスに重きを置いた支援」では、この「一体感の中での食い違い」こそが、学習の起点になります。

52

52

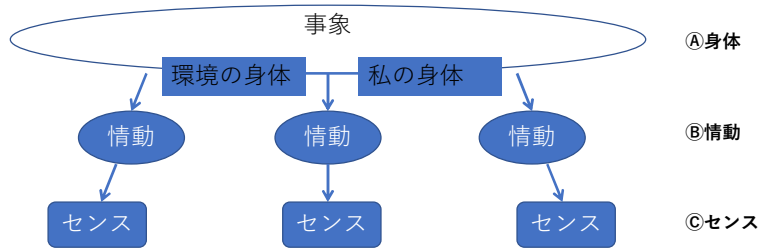
プロセス①自分なりの感じ方（センス）



53

53

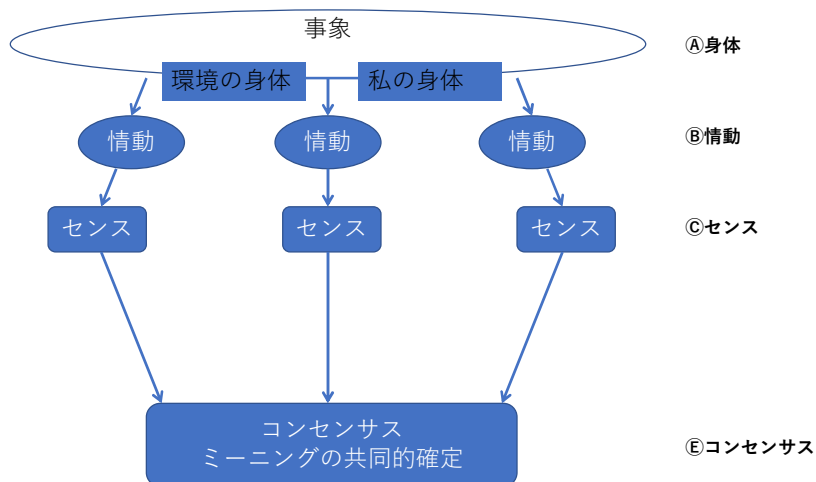
プロセス② センスの食い違い



54

54

プロセス③ コンセンサス



55

55

センスからコンセンサスへ

先ほど、「自分なりの感じ方（センス）」を相手に伝えながら、「相手なりの感じ方（センス）」を受け取り、そうして生じている食い違いを確かめていく、そうした対話を通じて、「**自分も相手も承認できるミーニング**」を共同的につくっていく、と述べました。

これは「センスsense」を寄り合わせて「コンセンサスcon-sensus」をつくっていく行為だとも言える（語源的にも、**コンセンサスは、センスsenseが寄り合ったcon-のものであります**）。

つまり、支援者たちが「自分なりの個別的なセンス」から「自分たちなりの共同的なミーニング」をつくりあげていくプロセスは、「**センスからコンセンサスに至るプロセス**」なのだとも言えます。

56

56

コモンセンス

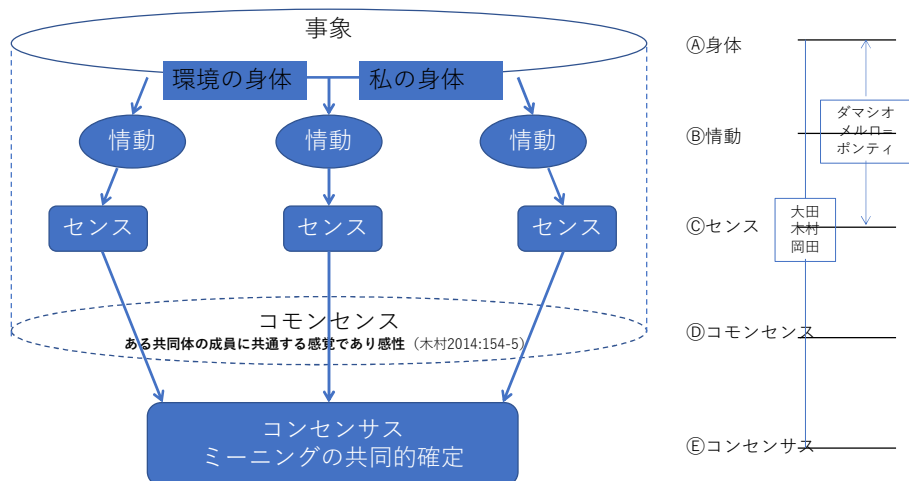
そして、「センスからコンセンサスに至るプロセス」においては、その通底に「コモンセンス common-sense」が働いている。コモンセンスとは通常「常識」と訳されてしまうが、そうではなく「**ある共同体の成員に共通する感覚であり感性**」の意味であります

（木村2010=2014:154 - 5）。

57

57

プロセス④ コモンセンス



58

58

Take home message

フルーツバスケット Season 1 13話

『親になって、
初めて親の気持ちが理解できたって。
だけど
本当に理解しなければいけないのは、
本当に忘れていけないのは、
子どもの頃の自分だって
初めて逆上がりができた日や、
初めてたくさん怒られた日のこと…
子どもの頃の気持ちをちゃんと忘れずにいれば、
大人になっても親になっても理解し合える。
100%は無理でも 歩み寄ることができるって。
だってそう考えたほうが楽しいよね』

副島賢和先生から教わりました。



59

ご清聴ありがとうございます。

Kids LOCO Project
International Meeting
2024

8.31 5PM
▶▶ 9.01 5PM

会場：北里大学相模原キャンパス

Zoom
参加あり

動くことは
学ぶこと

大会長：宮嶋純一 びわこ学園医療福祉センター専任
実行委員長：藤山真由子 北里大学国際福祉学部国際看護学専攻
学芸委員長：〒525-0072 滋賀県草津市空山8-3-113
びわこ学園医療福祉センター専任 リハビリテーション課内

<https://www.202-kidlocoproject-08310901.com/>

特別講演

「子どもたちへの関わりの原点」



昭和大学大学院

保険医療学研究科 准教授

副島 賢和

『学ぶことは生きること～子どもの今を大切にすること～』

～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～

副島 賢和 (そえじま まさかず)

昭和大学大学院保健医療学研究科准教授

大切にしているかかわり (副島 2020)

1. 子どもに戻す (『今』を味わう)
2. 感情の表出 (どんな感情も大切に)
3. 不安の軽減 (安全・安心を感じる)
4. 発達を保障する (学びとあそび～日常)
5. 感覚を発揮できる (学びを発動する)
6. 肯定的な自己イメージを育む (社会的自尊感情と基本的自尊感情)
7. 喪失に向き合う力 (レジリエンス・PTG)
8. 病気に向き合う力を培う (エネルギー)
9. 「助けて」と言える (援助希求)
10. 「ひとりじゃないよ・ひとりでも大丈夫」 (自立・共生)

○ 「今」を味わう

傷つきのある子どもたちにするかかわりは、「自分はだめだ」の反対にある、「あなたはあなたのままでいい」そして、「あなたがそこにいるだけですてきたと思っている人間がいるよ」を伝えることだと考えています。そのためには、「あなたが感じている感情を、一緒にあじわっている人間がいる」ということを伝えることが大切でしょう。それはどうしたら伝わるのでしょうか？実は、そんなに難しいことではないかもしれません。ご飯を食べている時に子どもが「おいしいね」と言ったら、「おいしいね」と伝える。「夕陽がきれいだね」と言ったら「きれいだね」「痛いね」と言ったら「痛いねえ」と。

子どもたちが「自分が『今』感じている感情は間違っていない」と思えるように働きかけることです。傷つきのある人とかわる基本は、『今』としっかり向き合ってもらいかかわりをするということです。それが、その子の生きる力となるはずなのです。子どもたちは、『今』を生きる生き物です。目の前に、水たまりがあったら、入りたくなります。アリが行列を作っていたら、ずっと見ていたくなります。綺麗な虫がいたら、捕まえたくなります。興味をもったことは、周りが見えなくなるほど集中します。当然ですね。「今」に向き合っているからです。子どもたちは、今に向き合っていると生きる力がたまっていくのだと感じます。もしかしたら大人も子どもと同じかもしれませんね。そして、どんなに短いかかわりであったとしても、*Safety (安全・安心) *Challenge (選択・挑戦) *Hope (将来の希望)の三つを大切にしています。大きな傷つきのある子どもを理解することについて、考えたいと思います。

【プロフィール】

副島 賢和 (そえじま まさかず)

1989年、東京都公立小学校教員として採用され、以後25年間、都立公立小学校学級担任として勤務。99年、東京都の派遣研修で、在職のまま東京学芸大学大学院にて心理学を学ぶ。06～13年品川区立清水台小学校さいかち学級(昭和大学病院内)担任。14年4月より現職。学校心理士スーパーバイザー。ホスピタル・クラウン。北海道・横浜こどものホスピスプロジェクト応援アンバサダー。TSURUMI,東京こどもホスピスアドバイザー。日本育療学会理事。NPO法人YourSchool理事。NPO法人元気プログラム作成委員会理事。09年、ドラマ『赤鼻のセンセイ』(日本テレビ)のモチーフとなる。

11年、『プロフェッショナル仕事の流儀』(NHK総合)に出演。

20年、YouTube「あかはなそえじ・風のたより」<https://www.youtube.com/watch?v=ndP01lrhg8k>

【参考文献】

副島賢和 2021 あかね、ほんとうはね～言葉の向こうの子どもの気持ち～ へるす出版

副島賢和 2021 病院のこどもの権利と院内学級における子どもの支援

日本学校心理士会年報 第14号



第11回
重症心身障害理学療法研究会セミナー
原点から未来へ
～みんなで語り、考えよう～
国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟101

2023年12月2日土曜日
14:40～15:20

副島賢和
演題発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

1

子どもたちへの
関わりの原点
～学ぶことは生きること～

「院内学級の子もたちが
教えてくれた大切なこと」

副島 賢和
昭和大学大学院保健医療学研究科准教授
昭和大学附属病院内学級担当 学校心理士sv



2

ご自分の文化に翻訳を<_>

- ・ 病気による困難を抱えた子ども
⇒さまざまな疾病を抱えた子ども
⇒さまざまな状態や背景の子ども
⇒傷つきを抱えた子ども
- ・ 病院内学級 ⇒ご自分の学校・学級・園では…
ご自分の病院では…
ご家庭では…
コミュニティでは…

3

本日の内容

- ① 子どもの成長・回復を支える
(Safety/Challenge/Hope)
- ② 実際のかかわり
- ③ つながってください

子どもの詩や言葉の吹き出しは撮影しないでください。
どうぞよろしくお願いいたします。

4

発達
が
後回し

5

学びやあそびが
できること…

6

自己選択・自己決定

その子の
自尊心を
育む！

7

社会的自尊心
できるわかるDoing
「すごい自分」

基本的自尊心
自分が大切Being
「大切な自分」

近藤卓氏
2013より

8

自尊心の4パターン(近藤卓2013)

成長の過程

<p>まっ いいか！</p> <p>低く安定した自尊心 のんびり屋、マイペース</p>	<p>社会的自尊心 いいよ！ 大丈夫</p> <p>基本的自尊心 大きく安定した自尊心 大丈夫、立ちなおれる</p>
<p>どうせ…</p> <p>低くて弱い自尊心 寂しく孤独、自信なく不安</p>	<p>いやだ！ めんどくさい</p> <p>肥大化して不安定な自尊心 頑張り屋・よい子、とても不安</p>

9

多くの喪失体験からの
否定的な自己イメージ

S・C・H

肯定的な自己イメージ

10

成長・回復のためのかわり
SCHool

- ・Safety : 「安全・安心の確保」
☆ 出会い
- ・Challenge : 「選択・挑戦」
☆ かわり
- ・Hope : 「日常の充実・将来の希望」
☆ 別れ・出発

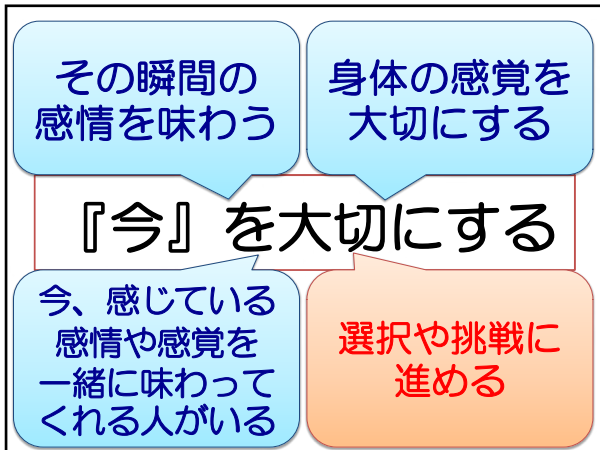
副島賢和
(2020)

11

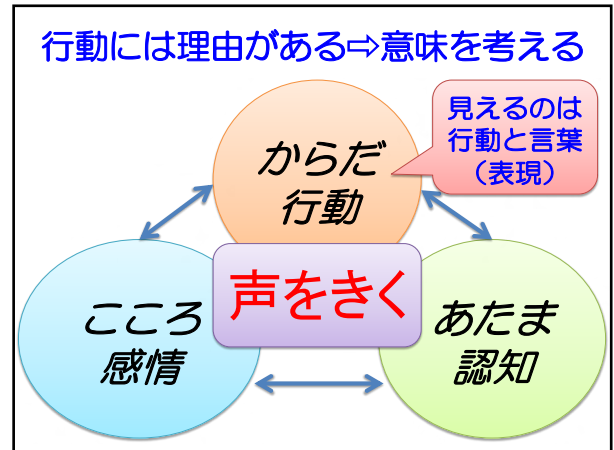
自尊心(特に基本的自尊心)を
育む
Safety(安全と安心)のために

今を
大切にする

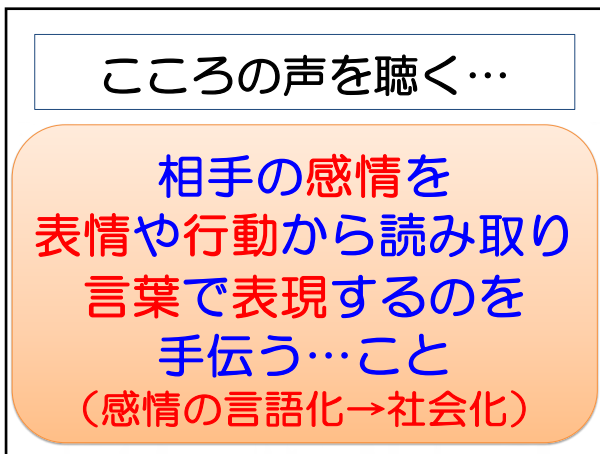
12



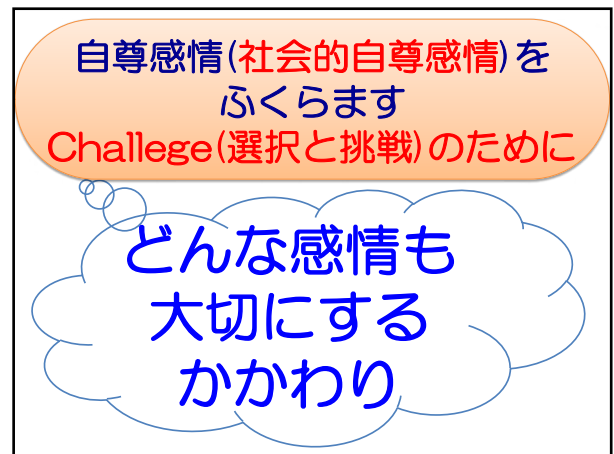
13



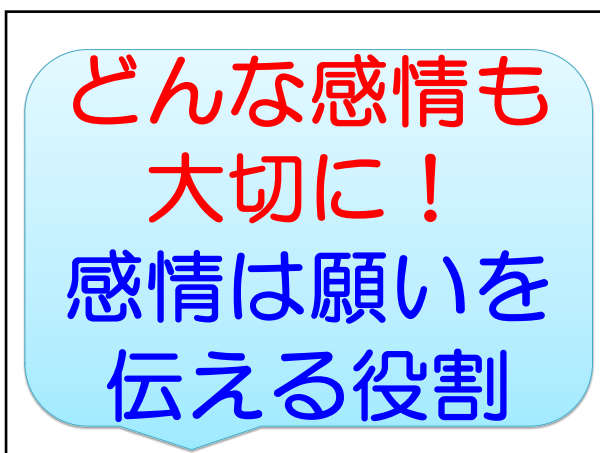
14



15



16



17



18

**受容はするが
許容はしない**

<p>受容する 「どんな感情も 持っていてもし いんだよ」 感情を 受けとめること</p>	<p>許容しない 「ダメなことはダ メ」「やらなくて は、いけないこと はやりますよ」 行動を 容認しないこと</p>
--	--

19

自尊感情を高める
Hope
(日常の充足と将来の希望)

「助けて」と
言える。

20

援助を求める＝援助希求

たすけて
!

てつだって
!

と

言えていますか???
言ってもらっていますか?

21

「助けて」
と言ってもらえる
関係を作る

22

そこにいるだけで
すてきなこと…


助けて! って
言っている

失敗したっ
ていい

あなたは
あなたのままですてき

23

今日という日は
だれにとっても
はじめての日
なのだから…

あかはなそえじ 

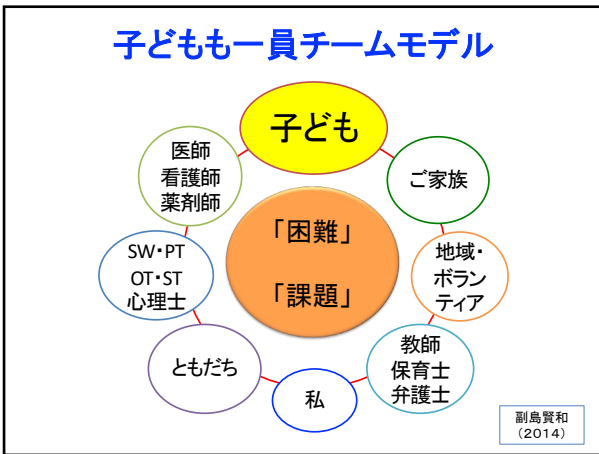
24

勝負どころは
子どもが
自分をだめだと
思っている時！

25

『学び』を保障する
学ぶことは
生きること
日常をささえる
…子どもにとっての当たり前

26



27



28

YouTube「あかはなそえじ・風のたより 15編」
(NPO法人YourSchool2020)
<https://www.youtube.com/watch?v=ndPollrhg8k>

29

ご自分の今を大切に…
仲間と時間と空間を…

ありがとうございます
ございました

昭和大学附属病院内学級担当
あかはなそえじ
Facebook・Twitter「副島賢和」
メッセージをお願いします

30

特別講演

「重症心身障害療育の原点」



田中 総一郎（たなか そういちろう）

【所属】 医療法人財団はるたか会あおぞら診療所ほっこり仙台

【所属学会】 日本小児科学会
日本小児神経学会
日本小児呼吸器学会
日本重症心身障害学会
日本小児在宅医療研究会

【略歴】 奈良県生まれ 東北大学医学部卒業
山形市立病院済生館小児科
埼玉小児医療センター未熟児新生児科
国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第2部・武蔵病院小児神経科
仙台赤十字病院小児科
東北大学医学部附属病院小児科
いわき共立磐城総合病院小児科
国立療養所宮城病院重症心身障害病棟
心身障害児総合医療療育センター小児科
宮城県拓桃医療療育センター地域・家族支援部長 小児科医療部長
東北大学大学院医学系研究科発生・発達医学講座小児病態学分野 准教授

【現職】 医療法人はるたか会あおぞら診療所ほっこり仙台 院長

【専門分野】 障害児者医療 小児神経学 睡眠障害 呼吸障害、在宅医療

【著書】 「重症児者の防災ハンドブック-3.11を生きぬいた重い障がいのある子どもたち」 クリエイ
ツかもがわ、2012

【取材】 FNS ドキュメンタリー「ほっこり先生、きたよ～医療的ケア児の人生を診る～」
仙台放送、2023

【メッセージ】 今日は敬愛する小沢ちゃんの代打で出場します。せっかくだから、これまでたくさん
教えてきてもらったご本人、ご家族、医療、福祉、教育の皆さまへのお礼をしながら、お話しせ
てくださいね。よろしくおねがいたします。



第11回 重症心身障害理学療法研究会

重症心身障害療育の原点

あおぞら診療所
ほっこり仙台
田中総一郎



田中総一郎(たなかそういちろう) 経歴

- 1964年 奈良県生まれ
- 1982年 東北大学医学部入学
- 1989年 山形市立病院済生館小児科
- 1991年 埼玉県立小児医療センター未熟児新生児科
- 1993年 国立精神・神経センター武蔵病院小児神経科
- 1995年 東北大学小児科
- 2000年 心身障害児総合医療療育センター小児科
- 2001年 宮城県拓桃医療療育センター地域・家族支援部長 小児科医療部長
- 2012年 東北大学大学院医学系研究科発生・発達医学講座小児病態学分野 准教授
- 2016年 医療法人はるたか会あおぞら診療所ほっこり仙台 院長

患者さんの写真・動画につきましては同意をいただいております

小児在宅医療 訪問診療



2016年10月オープン 7年間で129人 **現在87人往診**
24人お亡くなり11人をご自宅でお看取り(13トリソミー、大腸がん、脊髄性筋萎縮症)
5人転居 5人終了(気管切開卒業など) 8人入所(お母さまのご病気など)

訪問診療の対象者(医療保険の取り決め)

- 在宅で療養を行っている患者であって、疾病、傷病のため通院による療養が困難な者
- 往診の範囲は直線距離で16Km以内

86人在籍

一日に 9-11件往診

100-150Km走行

9時半から20時まで

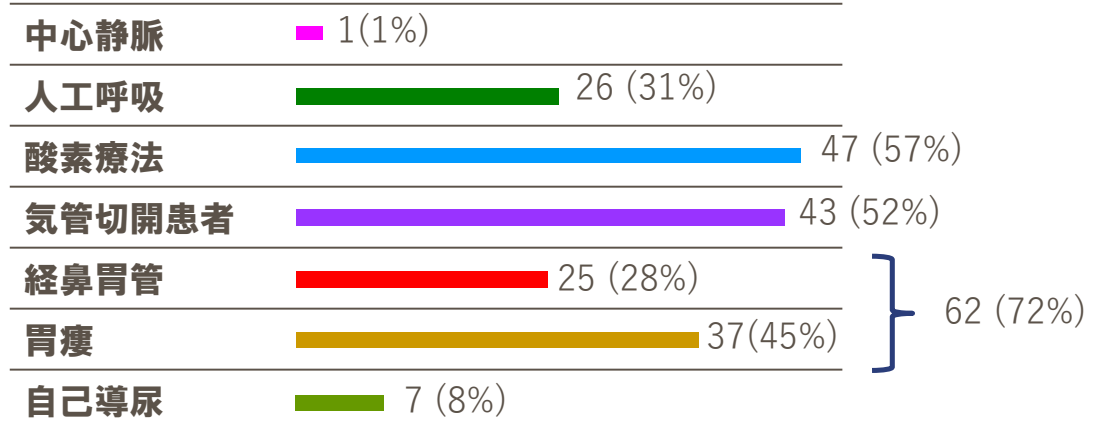


具合の悪い子がいればすぐに往診

あおぞら診療所ほっこり仙台 患者概要

令和5年7月現在 **83人在籍**

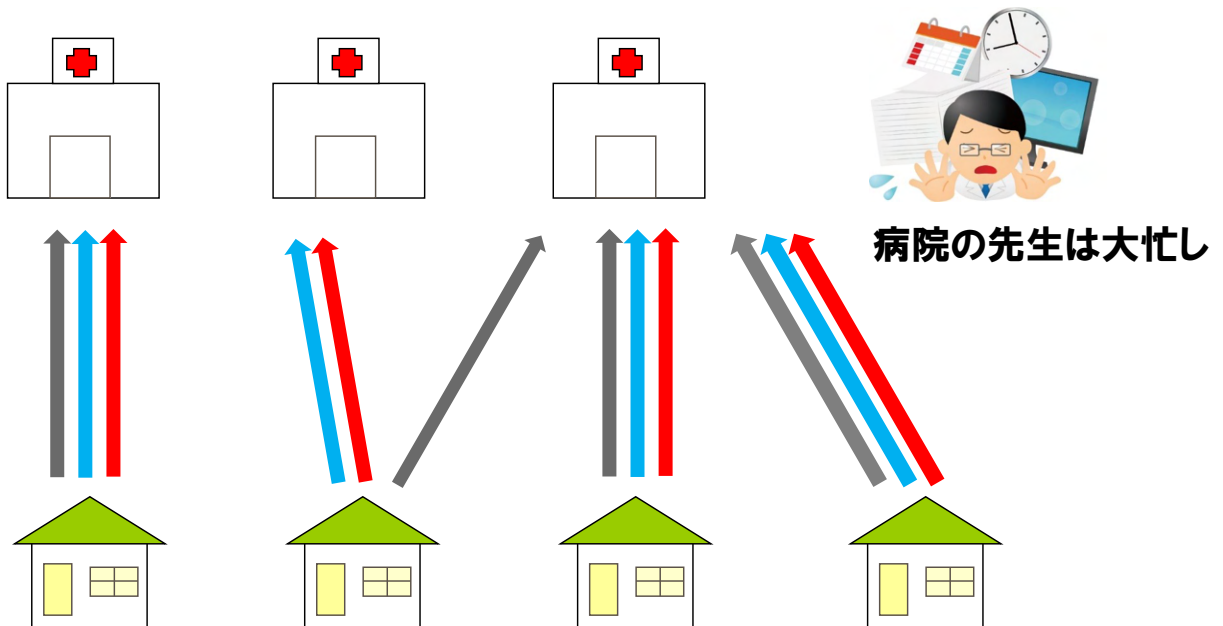
医療デバイス



小児在宅の特徴 複数のデバイスを持つ

これまでの医療の形

病院と患者が直結

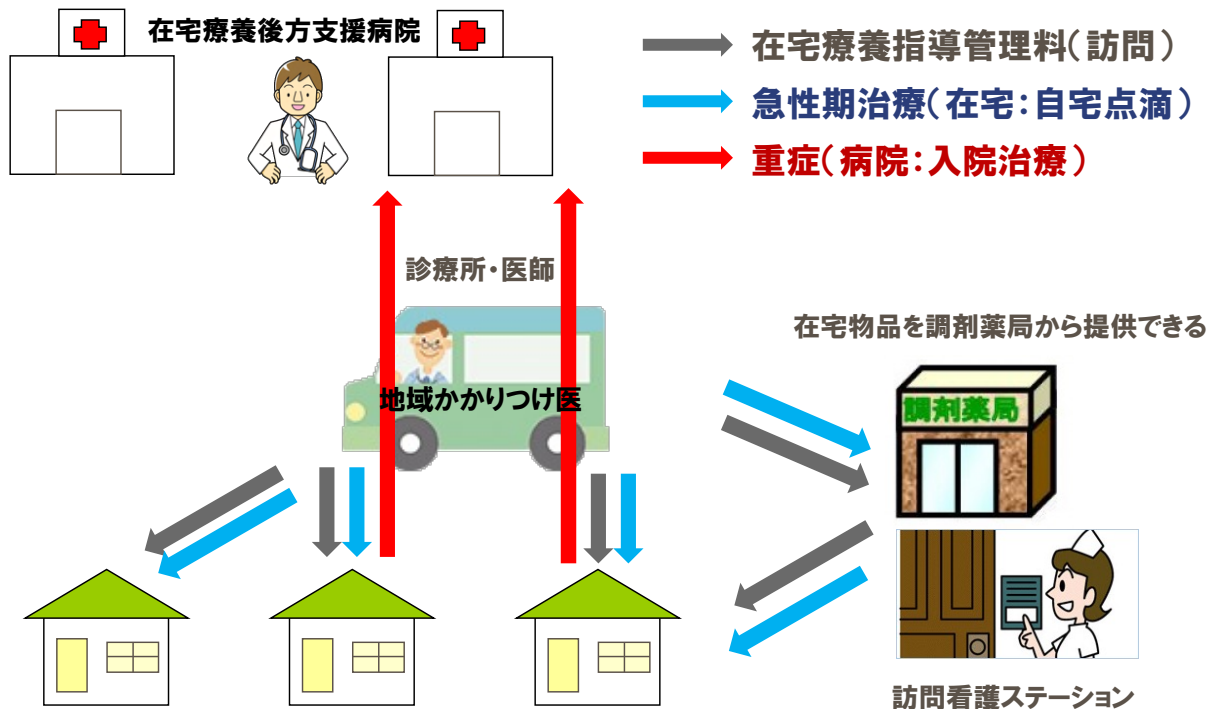


おかあさんたちもたいへん








- 普段の診察
- 急性期治療
- 重症(入院治療)

**病院の先生方・看護師さん・ご家族
の負担を少しでも減らしたい**

おうちに医療が出向く訪問診療



こどもたちのだいじなお仕事

-  食べる
-  出す
-  寝る
-  息をする
-  あそぶ
-  まなぶ・成長する
-  愛されること

俊がいたから出会えた人

とうとう「こぶし」を書く日がやってきました。今振り返ると、俊は心も体も丈夫になりました。一歳の時に一年間病院の個室で過ごし、退院が決まっては熱を出し肺炎を繰り返していた、入院で知り合う子は次々と変わり、その中には遠くへ逝った子も三人。入院生活に終わりが見えず、とても長い時を感じていた。

今は学校に行くと姿は見えなくても、遠くで俊の「あーっ！」が聞こえる、最近では静かにしなくちゃいけない場所ほど、鼻歌交じりの俊のスピーチが始まる。

俊の母になる前は養護学校とか、〇〇園というと、バカな子が行くところだと思っていました。先生方も格を下げた先生のように思っていたと思います。きっと年を重ねただけでは気が付けるような私ではなかった。

俊がいたから出会えた人

入学前、なのはな園に二年間通いました。ある日、私の隣にいた子が、なんと恐ろしいことに、くしゃみと一緒にまっ青な鼻汁がダラーツと口まで伸びてしまった。周りにティッシュを探すがなかった。すると先生はためらいもせず、自分のトレーナーの袖で拭いてやるのをみた。可愛い顔をした若い独身の先生だった。

私の口は思わず「鼻拭いた袖で俊の口拭くなよー」と出たけれど、ショックでした。私はこの先生の年頃に何を考え、何をしていたんだろう？ いつからそんなことが自然に出来るようになったのだろうか？ とても心に残っている。

俊がいたから出会えた人

俊が一年生になった時、ほとんどチューブからの栄養でペーストも2口ほどしか食べられなかった。担任の先生は給食を食べれるようになったら、校外学習にお母さんが付き添わずにすむと、熱心に食べることを教えてくれました。

とろみの加減をしながら口元を押さえ、一口一口上手に飲み込ませてくれている内にも間もなく給食のほとんどの量を食べてくれるようになった。口から食べることで体も丈夫になり、年に2回の入院もいつの間にかしなくなっていた。

学校で一番驚いたのは、目標にお返事というのがあった。俊にお返事なんか出来るわけないべ！と笑い飛ばしていたら、ある日俊が返事をしている...とのこと。

きっとタイミングよく声を出したのを「えらいねー。えらいねー。」とやっているのだろうと思っていました。

俊がいたから出会えた人

そして参観日、朝の会で名前を呼ばれた、俊は「・・・」、少しの間を置いてから首を前後に振り出すと、先生が小さい声で「する気あるわ」と言った時、必死に答えようと小さな声を振り絞った。誰がみても立派な返事だった。涙でぼやけた俊と先生は、何とも誇らしげに笑っていた。

「先生が毎日根気良く丁寧に教えてくれたお陰で...」
という、「それは違うよ。先生の手も少しはあるかも知れない、でも、子どもは子どもの中で成長するんだよ。」と子どもの力の話を教えてくれました。

先生のお陰じゃない、その言葉がとても印象に残っている。

俊がいたから出会えた人

最後に、6年間たくさんの先生方にお世話になりました。医療的ケアが必要なため、校外学習等の付き添いには、「ブーブー」いいながら付かせてもらいましたが、行かなければ知ることの出来ないこと、先生方の見えない苦勞をたくさん見ることができました。

俊がいたから出会えた人

毎日、いろいろな体験させてくれてありがとう。オムツ替えてくれてありがとう。給食食べさせてくれてありがとう。これからも俊の成長を一緒に見守り、一緒に楽しんでください。

俊の障害はあるよりない方が絶対いい。
でも私たちを取り巻く出会いに、あってもよかったと思うこともあります。

訪問診療でたいせつにしていること

高齢者

これまでの人生の誇り

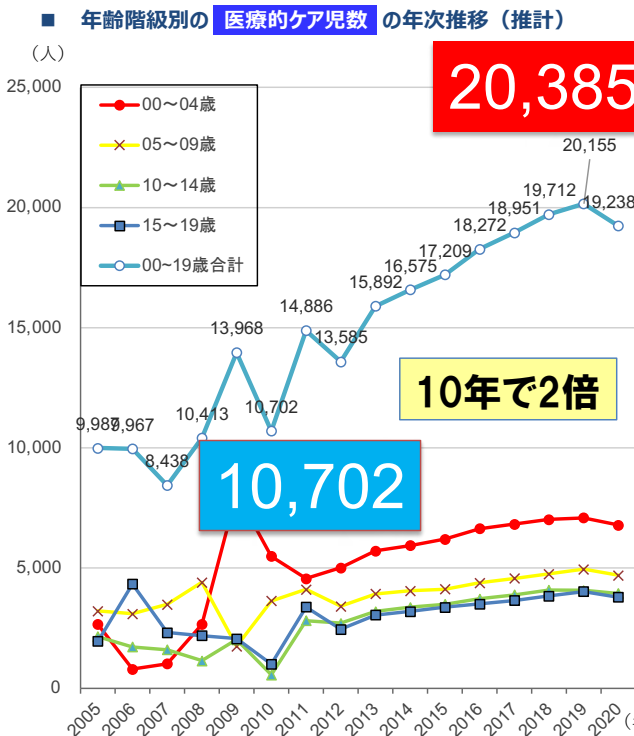
こども

成長のよろこび・たのしみ

医療的ケア児の訪問診療は
家庭というHomeに飛び込む
子育て支援 そのもの 病院はAway

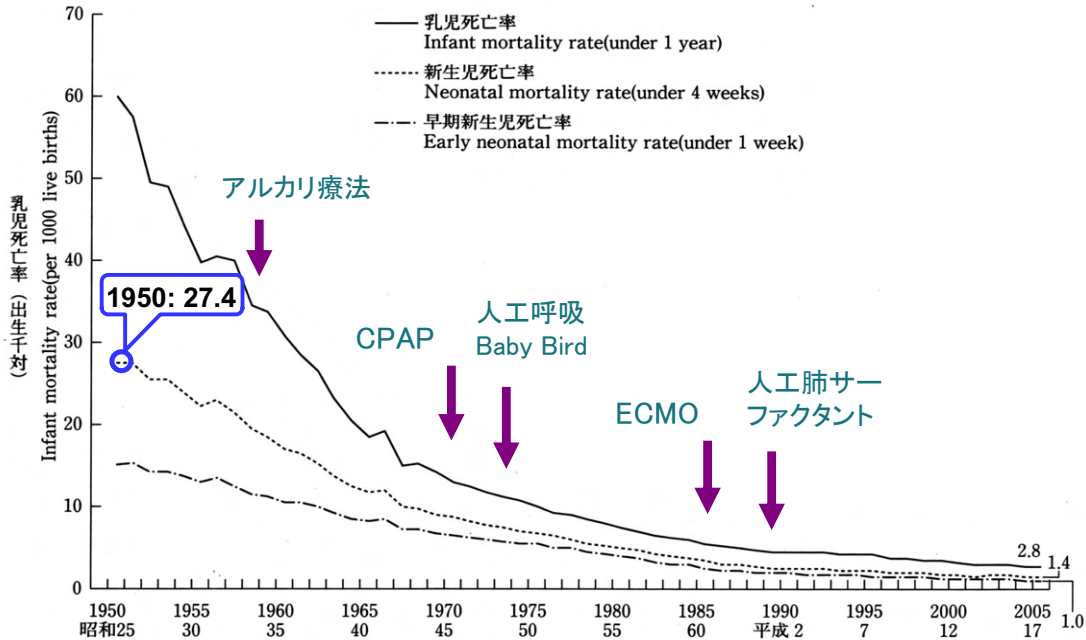
年齢階級別の医療的ケア児数と人工呼吸器児数の推移

- 医療的ケア児数は、直近10年間で約2倍に増加している。
- 年齢階級別の医療的ケア児数及び人工呼吸器児数は、いずれも年齢階級も増加傾向にあり、しかも低年齢ほどその人数が多い。
- 人工呼吸器を必要とする児童数は、直近10年で4倍近くに増加している。0～4歳が最も多く、経年で増え方も大きい。



新生児死亡率も年々減少しその救命率は世界一

日本は世界で一番赤ちゃんが安全に生まれる国



新生児死亡数の国際比較 (新生児1000人中)
 日本: 0.8
 ドイツ: 2 英国: 3 米国: 4 中央アフリカ共和国: 40
 世界平均: 17
 2019WHO

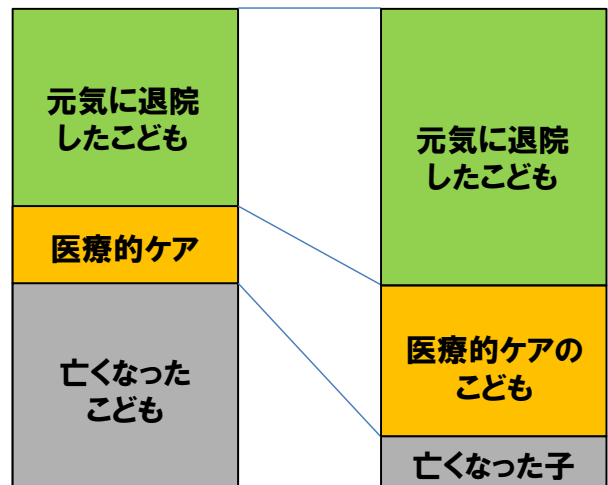
医療技術の進歩で亡くなる子が減りました

- ほとんどの子どもたちは元気に普通に退院していきます
- しかし、医療機器に頼らなければ生きていけない子どもたちが増えました

- 人工呼吸器
- 気管切開
- 経管栄養



濃厚な医療を必要とする子どもたち



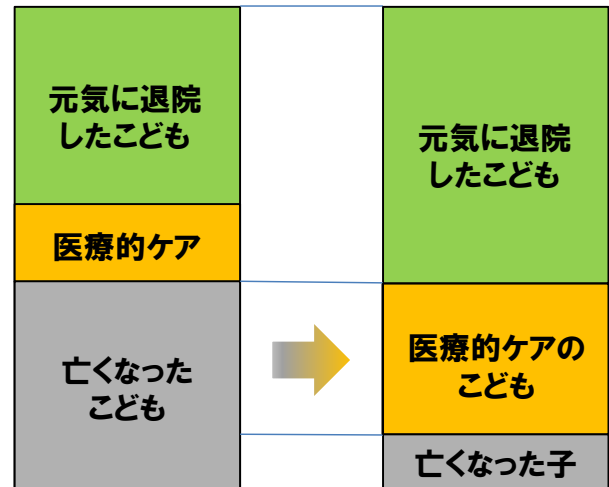
ケアの子が増えただけでなく、生きる子が増えたのです

- ほとんどの子どもたちは元気に普通に退院していきます
- しかし、医療機器に頼らなければ生きていけない子どもたちが増えました

- 人工呼吸器
- 気管切開
- 経管栄養



濃厚な医療を
必要とする子どもたち



医療的ケア児=亡くならず頑張れた子たち
医学の進歩に貢献した 元気に退院した子の下支えになった子たち

医療的ケアって？
生活のために必要な医療

あまりの笑顔に
医療を感じさせない

医療行為と医療的ケアの違いの整理

医療行為（病気に対する治療）

治療目的に、医療者が行う行為

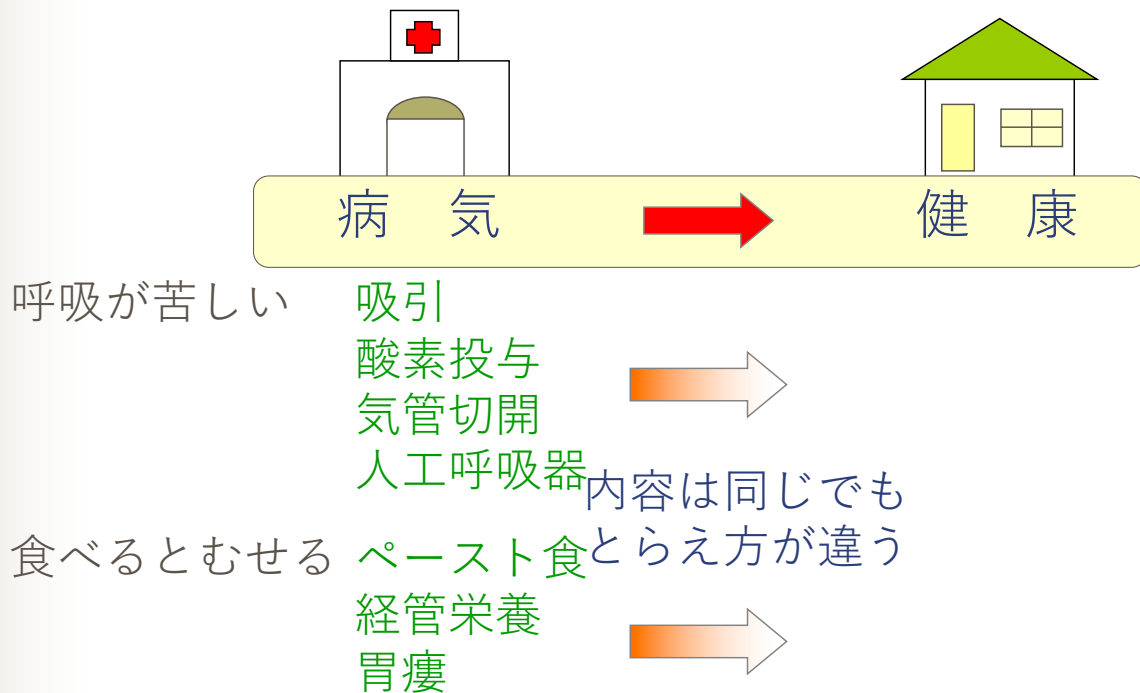
内容は同じ、目的が異なる

医療的ケア（健康を保つための毎日のケア）

治療目的でなく、生活の援助のため行う行為

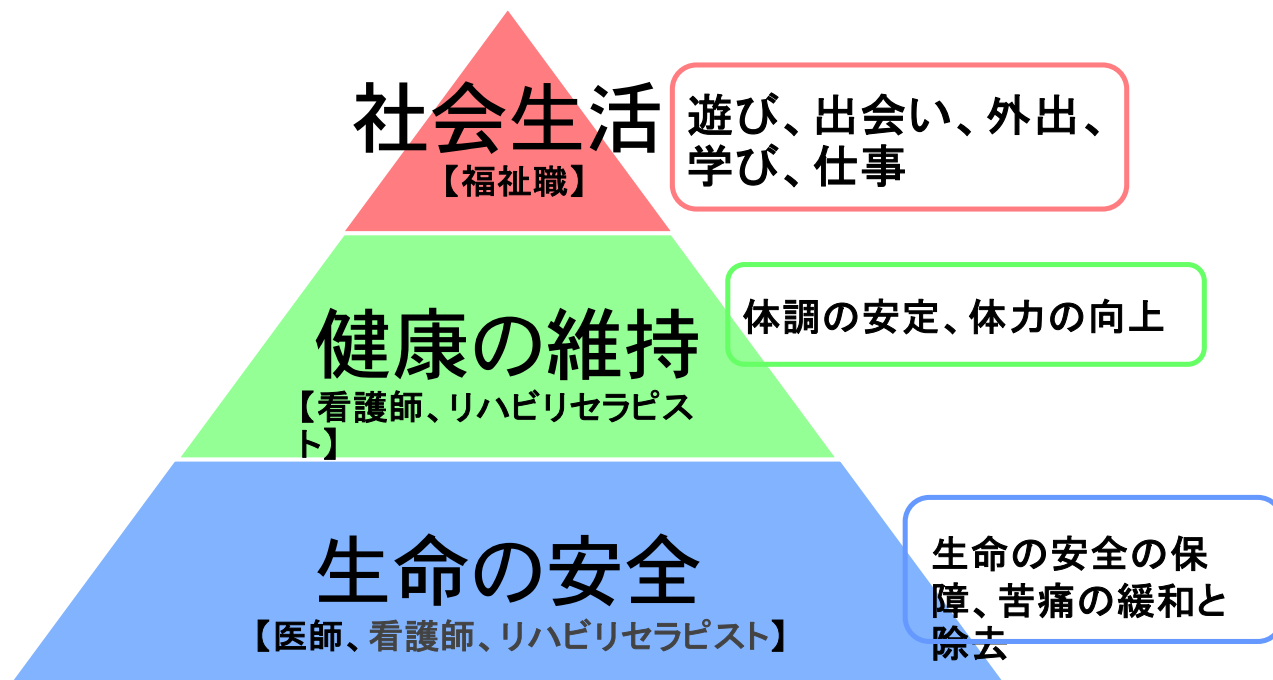
関わるケア者が増えると、こどもの生活範囲(社会)が広がる

ここに医療的ケアの本質がある

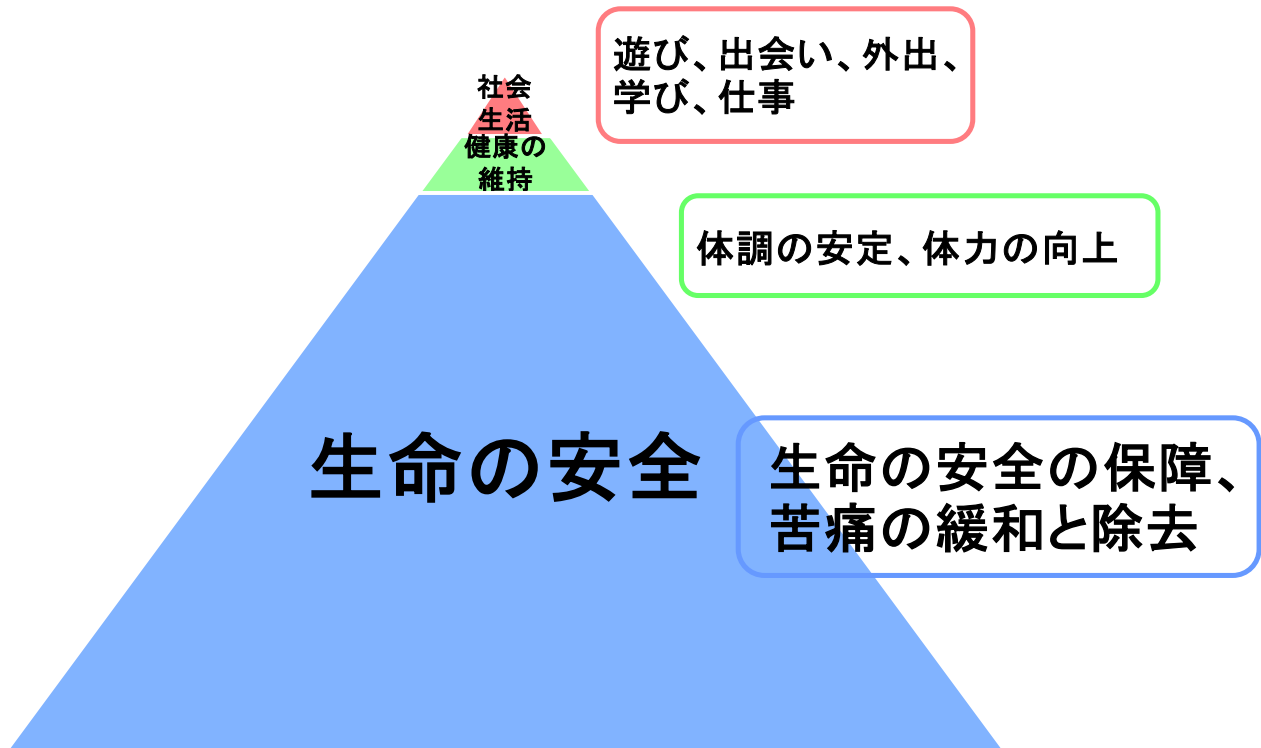


ご家族のとらえ方「医療的ケアをしても病気じゃないんです。
これがこの子の普通（健康）なんです。」

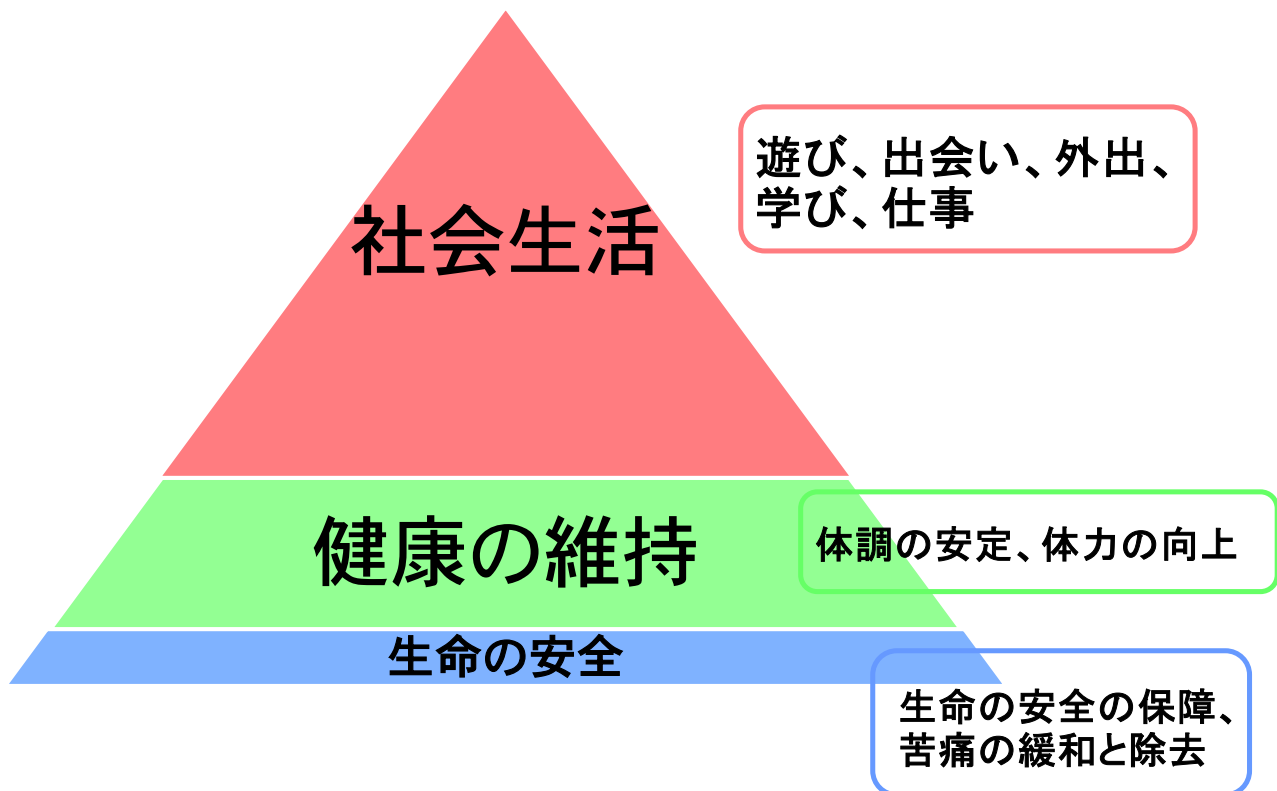
子どもの生活を支える要素



医療の視点 生きることで精いっぱい



生活の視点 いつもの私たち



こう生きたい！

生まれてきてよかったって
思っしてほしい

社会生活

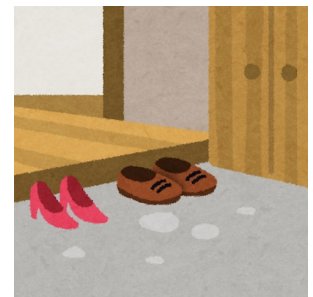
健康の維持

生命の安全



医療って下水道みたいなものだと思う

急性増悪



小児在宅の特徴 体調を崩しやすい 入退院が多い

36歳脳性麻痺、発熱、乏尿、CRP32まで上昇
 成人期の重症者の診療を受けて下さる医療機関は少なく
 8日間、訪問看護さんと協力して在宅での点滴を継続して改善



臨時往診 輸液・抗生剤治療

■ 主に感染症・脱水・気管支喘息 入院依頼は重症肺炎、腸閉塞

■ 1週間に2-3人ペース 一人3-5日コース 紹介入院依頼 1割

点滴日数	人数	疾患
1日	20	2例 (腸閉塞)
2日	9	4例 (腸閉塞、肺炎)
3日	17	1例 (肺炎)
4日	19	
5日	17	1例 (インフルエンザ)
6日	3	
7日	9	2例 (肺炎)
8日	4	
9日		
>10日	2 (16,19)	

■ 3日以上点滴したのべ72例のうち自宅で治癒したのは68例

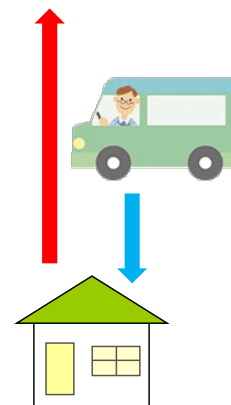
入院治療が必要と考えられた患者さんのうち95%は入院を回避した

呼吸障害に対するアプローチ

急性期管理 輸液・抗生剤・酸素投与・呼吸器



- 悪くなってから入院・自宅点滴の治療では遅すぎる
- 肺炎を繰り返して呼吸機能がだんだん悪くなり **肺寿命が短くなるのをなんとかくい止めたい**
- 風邪で学校や通園をお休みするのを減らしたい
~ひととしていろいろな経験・出会いを大切にしたい



呼吸障害に対して普段から取り組めるアプローチはとってもらいたいせつ！

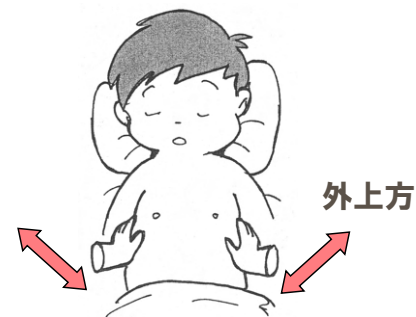
多職種で行う在宅排痰アプローチ



肺内パーカッション
ベンチレーター(IPV)

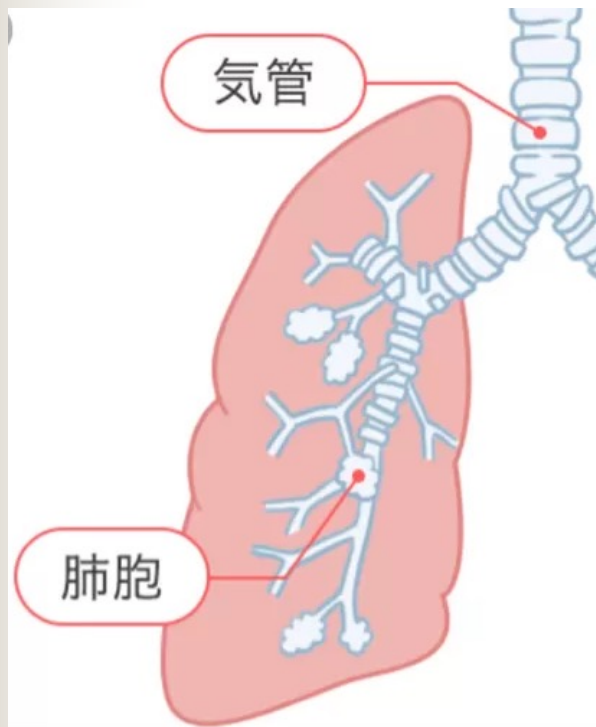


機械による咳介助(MI-E)



呼吸理学療法の第一歩より

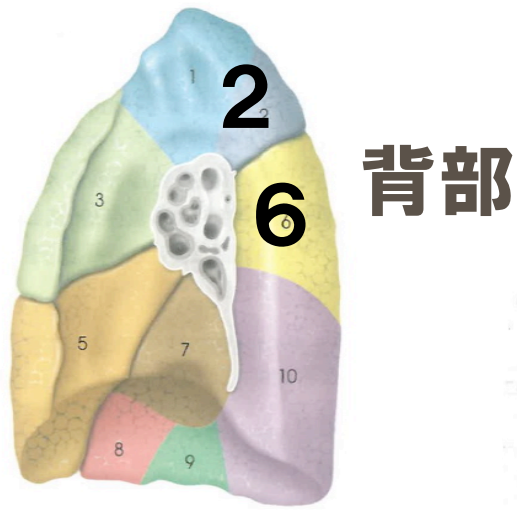
**末梢の痰・・・水分補給、去痰剤、IPV
うつぶせ 体位ドレナージ**
中枢の痰・・・呼吸理学療法、MI-E



治療的アプローチ

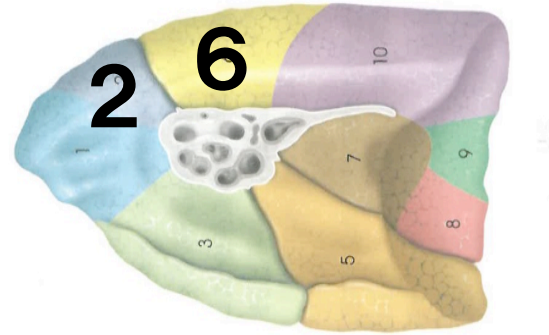
いかに痰を出せるか



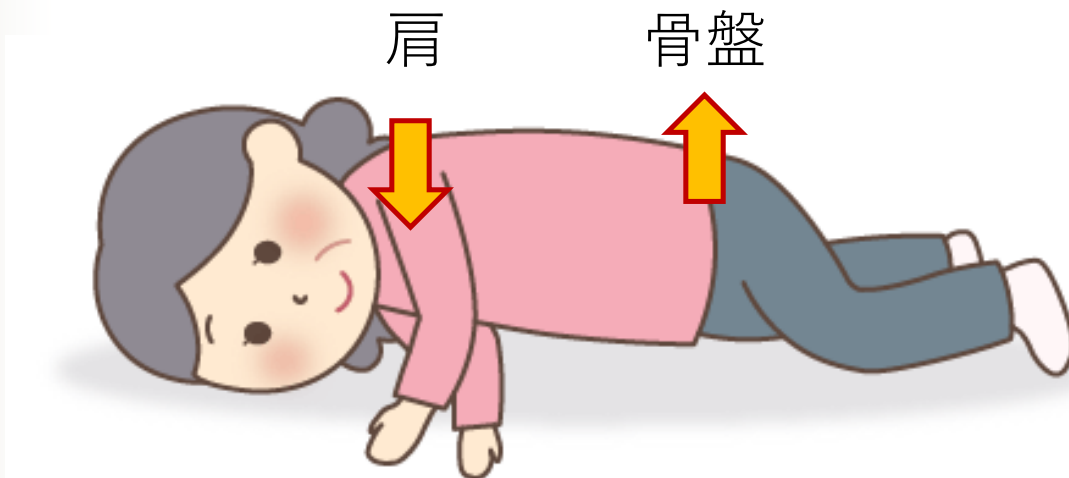


体位ドレナージ

うつぶせしたくてうずうず



胸郭可動域を拡げる
 介助者がお互いに行うことで効果を実感する



■ 側臥位での体幹ねじりで、腰背部筋などの体幹の過緊張を緩和する

胸郭可動域を拡げる 介助者がお互いに行うことで効果を実感する



- 通所施設の介護士さん、ヘルパーさん
お母様と一緒に、呼吸リハビリテーションを研修



一緒に手を添えて伝えあい、共有する感覚と経験

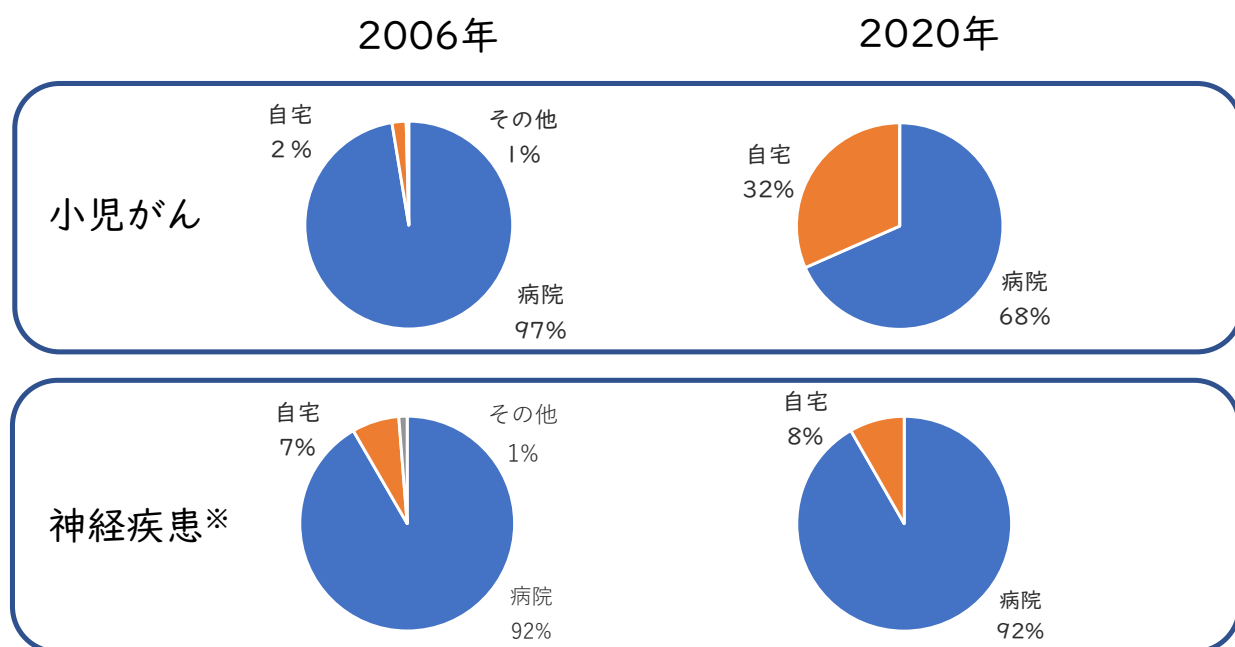
- ❑ X年 43歳 ボトックスの希望で往診がはじまった
- ❑ X+1年 8月血便、9月腫瘍マーカー高値、10月直腸がん
- ❑ X+2年 1月25日 大腸がんではあまりお勧めできない生クリームたっぷりのシフォンケーキをたくさん食べた。
- ❑ 1月28日、一度だけ弱音を吐いた
- ❑ お父様 「『もうだめだ、救急車で病院へ』といわれて、そうしてあげたいと思う」
- ❑ お母様 「病院へ行って、そのときは安心するかも知れないけど、そのあとできることは家でも病院でも同じ。食べ物など自由が効かなくてたいへんな思いをするのを考えると、家にいる方がよい」

- ❑ 1月29日 PCA（オピオイド）導入
 - ❑ 1月30日 ロールキャベツ
 - ❑ 1月31日 パンにジャムとピーナッツバター
 - ❑ 2月1日 マグロすし
 - ❑ 2月4日 杏仁豆腐、ゼリー
- ・・・食べまくる

- ❑ ご両親とも体重が5Kg減った。食事量もへって、特に睡眠不足が辛い。母は1-5時、父は5-10時に交代して休んでいるが、十分に眠れていない。
- ❑ 1月下旬にMさんは「僕だけ寝てごめんね」といったことがある。

- ❑ 2月10日 お父さん「最後はこんなに安らかなものですか」
- ❑ 2月10日 「ちょうどいまだった」とお父さん。ご両親とも70歳近いが、いまならお世話ができる。しかし、これが10年後だったら自分たちが見れないから入院になったと思う。両親が亡くなったあとだったら、弟たちに迷惑をかけてしまう。往診が始まった今だから家で看取ることができそうだと。
- ❑ 2月11日ご逝去
少し目を開き、少し口をあいて、お父さんによると「成仏」の相とのこと
- ❑ 共に治療を選択する過程を大切にした
- ❑ なによりやさしいやりとりにあふれた家

小児の疾患別死亡場所

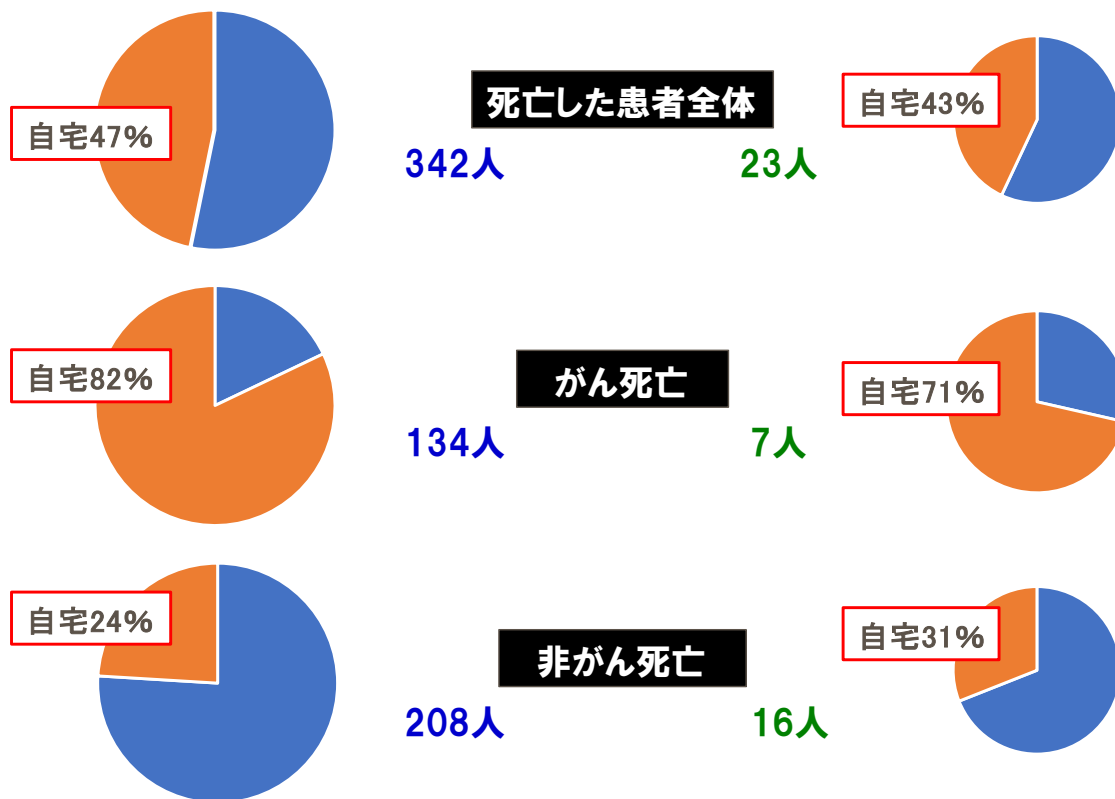


※1歳以降に死亡した神経系の疾患・神経系の先天奇形・染色体異常，他に分類されないものの合計

あおぞら診療所の小児緩和医療

あおぞら診療所全体（1999～2021年）

ほっこり仙台（2016～2023年）



在宅ケアでたいせつにしていること

1. まず、大切な存在・愛されている存在であることを伝える
2. ICやACPで意思決定させるのではなく、一緒に選ぶを積み重ねる 共に歩んだ道はグリーフケアにつながる
3. その道には、日々 涙と笑いがある
4. 病院の安心感も自宅の安心感も 選択していい
5. 本人・家族が一番安心できる場所で医療が受けられる
6. やさしい時間の中で「生まれてきてよかった」と感じてほしい

** 2日目 グループワーク ファシリテーター紹介



高塩 純一（代表）

【経験年数】 41 年目

【所属】 びわこ学園医療福祉センター草津

【所属学会等】 日本赤ちゃん学会評議委員

同ジャーナル編集委員

日本子ども学会理事

日本発達神経科学会評議委員

NPO 法人シロアム友の会理事

Kids Loco Project 共同代表

【メッセージ】

近江学園の創設者である糸賀一雄の「この子らを世の光に」、第一びわこ学園の初代園長 岡崎英彦の「本人さんはどう思てはるんやろ・・・」は、私が仕事をしていく上で最も大切にしてきた 2 つの言葉であります。

ここ数年間、障がいのある子どもたちや家族を取り巻く環境や制度は急激に変化してきております。しかし、その根幹をなす思想や哲学においては確固たるものが我が国には存在しております。

理学療法士である前に眼の前のあなたに

- 1) わたしはどのように映っているのか
- 2) わたしは、あなたにとって有益な存在なのだろうか。有益な存在として認められているのだろうか
- 3) 理学療法士としてどのようなことが理学療法（お手伝い）ができるのか

日々自問自答しております。びわこ学園に勤めた当初、北大津養護学校の石川信子先生から高塩さんは、びわこ学園に何年勤めるのかと尋ねられたことを今でも覚えております。今年度、再任用が終わる今に至っても本当に私は役に立ったのだろうか自身がございます。だからこそ子どもたちと家族が抱えている課題や困難性を一緒に考える仲間が必要だと感じております。

今回のグループワークでどこまで深めることができるか、ご参加いただく皆様と一緒に考える事ができれば幸いです。オープンマインドでぜひ闊達な討議をしましょう。



榎勢 道彦（副代表）

【経験年数】 26 年目

【所属】 四天王寺和らぎ苑

【所属学会等】 日本重症心身障害学会 評議員

同 リハビリテーション委員会委員

同 医療的ケア児・者支援検討部会委員

日本小児呼吸器学会

呼吸理学療法ワーキンググループ 委員

日本リハビリテーション工学協会 SIG 姿勢保持 世話人

(公社)大阪府理学療法士会 公益事業部 副部長

障がい児事業担当

【メッセージ】

「この子は私である。あの子も私である。どんなに障害は重くとも、みんな、その福祉を堅く守ってあげなければと、深く心に誓う」

この十数年で、重症心身障害の病態像、支援に関わる技術、制度は大きく変わっています。

しかし、理念や哲学はやはり変わらないと思います。

今、重症心身障害のある子どもたちや大人の方々に理学療法士は何を求められているのか。

- 1) 確かな理学療法技術の提供
- 2) 6F-words に基づく実践の普及
- 3) 共生社会への貢献

この実現のために

- 1) 重症心身障害に対する確たる理学療法技術をみなさんと学び、
 - 2) 重症心身障害のある子どもたちや大人の方々の未来を創造し、
 - 3) 他職種、他団体と、そして、それぞれの地域の中での共生を強力に推し進め、
- 重症心身障害のある子どもたちや大人の方々に役立ちたいと思っています。



齋藤 大地（運営委員）

【経験年数】 28年

【所属】 株式会社 はこぶね

【所属学会等】 PAPA 小児系在宅理学療法研究会（代表）

日本理学療法士協会

障がい児（発達障がい児）対策運営部会（部会員）

【得意分野】 重症心身障害への在宅リハビリテーション 発達障がい 小児リハ全般のSV

【メッセージ】

2009年の第1回立ち上げからの運営委員として、役員、会員の皆様には本当に多くのことを楽しく学ばせていただき、自分自身の理学療法士としての人生を豊かに深める事ができました。コロナを経て世代交代の時期に際しては、感謝の気持ちと現体制へのご迷惑をおかけする事のないよう、バトンパスの役割を務められたらと思っています。



五十嵐 大貴（運営委員）

【経験年数】28年

【所属】株式会社はこぶね・訪問看護ステーション ワッカ

保育所等訪問支援 ワッカ

居宅訪問型児童発達支援 ワッカ

【所属学会等】小児系在宅理学療法研究会（副代表）

【得意分野】地域リハ（特に訪問リハ）、小児外来・訪問リハの調査、スタッフの育成
利用者様に歌をささやき喜んでもらう

【メッセージ】

一般病院での小児の入院（整形外科術後リハ含む）・外来リハ、通園施設での療育・外来リハ、訪問リハ、保育所等訪問支援、入所施設へのリハ支援等、様々経験しております。その知識と経験を皆様に還元できればと考えております。またスタッフ育成も多数行ってきた経験から若手の皆様の頑張りや悩みにも寄り添って、何かの助けになれば幸いです。

よろしく願いいたします。



繁田 圭一（運営委員）

【経験年数】 16年

【所属】 伊豆医療福祉センター

【得意分野】施設の重症心身障害児・者、姿勢、呼吸、地域

【メッセージ】

はじめまして、2日目は久しぶりに皆さんと対面で話し合えるのを楽しみにしています。
皆さんが話しやすく繋がっていける場にしていきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。



黒川 洋明（運営委員・セミナー実行委員）

【経験年数】 19年目

【所属】 島田療育センターはちおうじ

【所属学会等】 日本重症心身障害学会 評議員

同 リハビリテーション委員会委員

(公社) 東京都理学療法士協会 小児福祉部 部長

東京都三士会合同小児部会委員

行動発達研究会 役員

【得意分野】 小児リハ(子ども達と楽しく遊ぶ)、重症心身障害児者の姿勢・呼吸、栄養

【メッセージ】

子ども達やご家族等をサポートしていく上で、知識技術は重要です。
しかしながら、重症心身障害領域では知識技術だけでは解決できず、沢山悩んだ末、何が正解なのか分からないこともあります。

「これなら大丈夫」という保証がない中で、目の前の子ども達の声なき声に耳を傾け、「その子らしい」生活を家族と共に一緒に「考える」、そして「試行錯誤」する必要があります。

この「考える」「試行錯誤」を楽しむために「人とのつながり」は重要で、誰かに相談することにより、頭の中が整理されるだけでなく、自分が一人ではないという心の支えにもなります。

私自身も多くの知人友人に助けていただき、今の私があります。

今回のセミナーを通して、参加者の皆様が一人でも多くの方とつながる機会になりましたら幸いです。



上原 隆浩（運営委員）

【経験年数】22年

【所属】枚方総合発達医療センター

【得意分野】重症心身障害児・者入所施設でのリハビリ、歩くなど動くことのできる重度・最重度知的障害者のリハビリ、ロボットスーツ HAL を使ったリハビリ

【メッセージ】

久しぶりの全国セミナーで皆さんにお会いできることを楽しみにしています。コロナ禍で他施設の方と話せる機会が減り、話したいことが溜まっている方も、話すのは苦手だけど一歩踏み出そうと思った方もいろんな話をし、そこで感じたこと、得たことを持ち帰っていただけるよう、また参加者同士の繋がりができる場にしていきたいと思います。よろしくお願ひ致します。



長谷川 大和（運営委員・セミナー実行委員）

【経験年数】15年

【所属①】リハテラー横浜

【所属②】能見台こどもクリニック（非常勤）

海老名市わかば学園（非常勤）

横浜市外部専門職派遣事業登録理学療法士

【所属学会等】神奈川県理学療法士会 発達支援部 係長

【得意分野】FUN、遊び、学校の先生との協同（保育所等訪問、外部専門職派遣）
放課後等デイサービスでの理学療法

【メッセージ】

今までは、十愛療育会の長期入所施設と地域療育センターにて、勤務しておりました。昨年の9月から、お子さんたちともっと距離の近いところで働きたいと考え、現在の職場へ転職いたしました。現在は、放課後等デイサービスの理学療法について、日々考えております。

今まで、この研究会のセミナーに参加してきた経験の中で、結局、よく覚えていることは how to 的なことでなく、そこで知り合った人たちとの些細なやりとりだったりします。

参加者メンバーの話をたくさん聞きたいですし、私自身も話をしたいです。

皆さまとのやりとりの中から、学びを見つけていきたいと思ひます。



要 武志 (運営委員・会計担当)

【経験年数】 16年

【所属①】 株式会社リ・ハピネス すりーぴーす

【所属②】 NPO 法人もあぴーす

【得意分野】 動物介在活動 アクティビティー 地域連携 福祉制度

【メッセージ】

ファシリテーターとしての経験は乏しく皆様にご迷惑をおかけするかもしれませんが、全国で活躍している同世代の仲間たちと情報交換できることを楽しみにしています。



岡田 雄一 (運営委員)

【経験年数】 16年

【所属】 四天王寺和らぎ苑

【得意分野】 抱っこ、シーティング、ウレタン切削

【メッセージ】

久しぶりの対面開催で、皆さんと直接お会いして、日々感じていることや実践していることを共有し、明日からの活力になるディスカッションをしていきたいと思っています。宜しく願い致します。

** 2日目 グループワーク 全体討論



辻 清張 (副代表)

【経験年数】 40年

【勤務先】 福井県総合福祉相談所

【所属学会等】 重症心身障害理学療法研究会 副代表

日本小児理学療法学会監事

日本リハビリテーション工学協会 SIG 姿勢保持世話人

チャレンジド乗馬サークル「ドルチェ」代表

RDA(障害者乗馬協会)メディカルアドバイザー

【資格】 日本パラスポーツ協会スポーツトレーナー
児童発達支援管理責任者

【メッセージ】

40年、理学療法士とリハ工学とパラスポーツに携わってきました。
今回のセミナーでは、二日目全体討論で司会を務めさせていただきます。
久しぶりに皆様にお会いできることを心待ちにしています。



花井 丈夫（幹事長）

【経験年数】 40 年ぐらい

【所属①】 能見台こどもクリニック（非常勤）

【所属②】 株式会社 リ・ハピネス 福祉用具相談・作成

すりーぴーすちよいす（非常勤）

横浜療育医療センター（非常勤）

NPO 療育ネットワーク川崎（非常勤）

東京都立特別支援学校 4 校の外部専門員（委嘱）

予防接種リサーチセンター運営委員（委嘱）

【興味のある分野】

- ・重症児の肺理学療法
- ・ポジショニングと座位保持装置作成
- ・権利擁護に関すること
- ・リハ職の人材育成とコーチング
- ・現象学的モノの見方
- ・重症児者療育の歴史

【メッセージ】

いまだ迷える 60 代です。自分の経験（実感）と知識（言語化された情報）をどう自分の中で一致させていくか、その営みが必ずセラピーに現れると思っています。臨床の場では少ない言葉で語り合うことを深めることは、本当に大切と思っています。参加者の皆さんがお互い心理的に安全の中で、大いに自己開示できるセミナーになることにご協力ください。自分が感じたこと大切にして、語り合しましょう。

** 参加者皆様の声（本セミナーに期待すること）

申込時にお寄せ頂いた皆様の声を共有いたします（原文）。

重症心身障害についての理解を深めたい。
通所事業で働き始め9年。利用者様を見送る事が多くなり、もう一度重症心身障害児者の理学療法・療育の原点に戻り自分の出来る事を見直し再度何を提供すればいいのか見つめなおす機会にしたいです。
毎回参加するたび、マンネリ化している治療が、リニューアルした気持ちにしてくれます。
原点に戻る
多角的な視点が持てるようになる。 セラピスト同士の横のつながりが持てるようになる。
重症心身障害児に対する理解を深める
参加者の方々の意見を聴いて、多くの気づきを得たいと考えています。
自分の力量不足に苛まれ、時にはモチベーションが下がってしまう時もあります。皆様はどう対処しているか知りたいです。
重症心身障害児者にとっての理学療法とは何なのか、色々な方の意見を伺ってみたいです。
久しぶりの研究会のセミナーを楽しみにしています。1日目のお三方の講演を楽しみにしております。
原点からしっかり学んで考え方、関わり方を改めたい
対面でのセミナーということでもとても楽しみです。これからの重心医療にリハはどのように関わっていくべきか、エビデンスの構築方法も含めてディスカッションしていければ良いと思っています。
経験年数の長い方々と関わることで知識を深めたい
多くの人達の叢智を集めて、「これから」を考えていくきっかけにしたい。
久しぶりにこのような対面のセミナーに参加するので、いい刺激をもらえたらと思っています。
久々の対面で他施設の方々との思いや知識、熱量の共有をすると共に、自分の見えているモノがどの部分なのか、向かう先を確認し合いたいと思っています。よろしくお願い致します。
年数の近い方とも交流できる場所があると嬉しいです。
臨床での質問
情報収集
久しぶりの対面開催でZOOMでは行にくい、多人数での意見交換や情報共有を行いたい。
重度心身障害児に対する評価・支援についての方法やアドバイスが聞けると嬉しいです。
初めて参加します。重心のお子様と関わっている支援者が普段から何を感じ、何を課題と感じているのかを知りたいです。預かりの中でどう支援の質を高めていくか、知識や技術、マインドなど知っていきたいです。
色々な人の意見が聞けること
重症心身障害児者に関わる人がたくさん集まるということで、自分の考えを見直しアップデートしていきたい。

参加される方々との情報交換
重症心身障害児に対する新しい知見や考え方の習得
色んな方と話し合い、意見等交換出来ればと思います。
情報交換を行いたい
先生方の基調講演から、原点について学ばさせていただき、それまでの変遷からのいま自分に出来ることを考えたい。 全国の重症心身障害児者の方々に携わる、同年代の仲間との交流を楽しみたいです。 セミナーを通し、改めて自分の進むべき道を見直せたらと思います。
重症心身障害理学療法に係る課題の共有
公演
それぞれの先生方が考える関わる時に大切にしていること
情報交換
久しぶりの開催にワクワクしています。
現在重心の PT として 10 年目ですが、「重心のリハビリ(PT)とは」という原点に悩みながら、日々目の前の利用者さんに、お子さんたちと関わらせていただいています。 今回のテーマが「原点」ということで、新人～ベテランの方達と思うことを言い合い、新鮮な視点や考えを持ち帰って、地域の方達に少しずつではありますが返していきたいです。
久しぶりなので全て楽しみです
対面で、加齢に伴う利用者の生活を呼吸、摂食、変形など……どう考えるか、意志決定支援について など、話が苦手ですが、話す機会をもって横のつながりを作っていきたいです
自分はコロナ後の会員のため、オフラインで参加するのがはじめてです。皆様と顔を合わせて一緒に語り、未来について考えられる機会を楽しみにしています
先生方の想いの継承、共有させて頂くことで学び、自らの現状を内省し、今後への課題確認とより必要な学びの把握、発展、展望への気づきの機会にしたいです。
話を聞いて学ぶだけでなく、繋がりを作りたいと思います。
交流
先輩たちのお話を聞きたいのと、他職種とのつながりを作りたいです。よろしくお願いたします。
久々の対面開催。また、若い療法士に重症心身障害をお持ちの方々への支援で皆様が大事にしていることなどを伝えてくださること。未来のために
対面での開催のため、参加者の方とたくさん情報交換をしたいと思っております。 よろしくお願いたします。
他施設との情報交換
小児の分野での理学療法士の役割について学びたいです。
情報の共有
重症心身障害児の理解

対面での他施設の方との交流
情報収集（理学療法の実践について）
様々な視点からの原点を聞けるのが、楽しみです。そこから自分たちがどのような未来を思い描き進んでいけば良いのか何かヒントになることが見つかると思います。
先輩方や様々な分野の方と繋がりをもちたいと考えています。
様々な方の意見やお話を聞いて今後の臨床での糧としたい。
初めての対面でのセミナー参加になるため、お手伝いという形で雰囲気をつかみつつ様々な考え方を吸収したいと思います。
久しぶりの対面セミナーなので、参加者の方とお話出来るのを楽しみにしています。
重症心身障害自体がマニアックな分野なのでなかなか同世代と知り合う機会がなく、今悩んでいる事やどんなことをセラピーで行っているのか、どんな思いでリハをやっているのか共有できたら良いなと思っています。
これまで自己学習のみで臨床に携わってきましたが、基本的な介入をはじめ、呼吸機能へのアプローチなど様々を深く知ることが出来ればと思っています。
諸先輩方が築き上げてきたこと、考えていること、みている視点などを改めてご教授いただけたらと思うと同時に、この世界に飛び込んで日が浅い方々が日々どのように感じて携わっているのか、どのような視点でとらえているのかなど、フレッシュな意見や考え方も知ることができたらと思っています。
重心についての概要、課題を知りたいです。
講演予定の先生方のお話(想い、見識)を伺うこと
知識のアップデート
重症心身障害児の方たちのためにできることを増やしたいと思っています
日々の臨床を見直し、変えていくきっかけにしたいです。
自由で闊達な意見交換がしたい
療育の前進
最近のリハビリテーションの動向を知りたいです。
悩みの共有や、ディスカッションを通して自分(達)は利用者には何が出来るか、少しでも具体的に考えられるような場にできたらと思います。
重症児者のこれからを豊かな未来が期待できる様に、みんなの叡智を集結できるといいな。
重症心身障害にあたるお子さんの支援には理学療法の知見が不可欠です。さらに、自身が携わるのはたいへん久しぶりのところ、こちらのお知らせをいただき、今回のテーマ「原点から未来へ～みんなで語り、考えよう～」にすがる思いで参加させていただきました。原点、そして現在から未来への知見について学ばせていただきました。
多くの方との交流を通じて、現在や今後関わる対象者の方々に貢献できる知識や経験を作る
児童発達支援と放課後等デイサービスにて仕事を始めるので、色々なアドバイスをもらいたい
様々な施設で働く方や、他県の方々が今どのような取り組みをされているのか、情報交換させていただき、日々の業務に反映させたいです。

重症心身障がい児へのアプローチ方法や関りについて
楽しみにしています！！
対面での開催での討論
色々な人と知り合って関ること、お話しすることができる 重症心身障害児者と関るものとして、再度必要なことや想いなどを考え直せる見つけ直せる機会としたい
私は経験としてまだまだ浅く、自身に何が出来るのか、また他施設での取り組みや悩み事を聞き自身自身のブラッシュアップしたいです。
重症心身障害児者の支援における必要な知識・技術を習得したい
お子さんとの関りの原点、療育の原点、様々な方の視点で見聞きできればと思います。
アセスメントや評価それに対する理学療法技術
重症心身障害児に関る上での思考
色々な知識、考え方を学び、自らの理学療法に活かせるようにしたいです。
重心の方達と関る中でどんなことを大事にしていくべきか、年齢に合わせた関わり方など日々の臨床で活かせるような色々なご意見を聞きたいです。
重心に関わる方々と繋がりを持ち、重心のお子様に対する理解を深めること、広げること
重症心身障害者に携わられる方のお話を聞いたり情報交換ができればありがたいです。
ディスカッションできる機会をいただけるのが楽しみです。
重症心身障害のリハビリについての原点の話を是非とも伺いたいです。
数年ぶりの対面開催で、多くの話を聞けることを楽しみにしています。
久しぶりにリアルで皆さんにお会いできること
久しぶりの対面開催なので楽しみにしています。コロナを経て、重心の方たちを取り巻く環境がどう変わったかも聞けたらとおもいます。